



M. S. Duwang 氏
(М. С. Дуванг)



A. A. Wang 氏
(A. A. Ванг)

A2 (環北太平洋班)

文部科学省特定領域研究

**環太平洋の「消滅に瀕した言語」
にかんする緊急調査研究**

風間伸次郎 採録・訳注

ツングース言語文化論集20

ウルチャ 口承文芸原文集 2

Publications on Tungus Languages and Cultures 20

ULCHA ORAL LITERATURE 2
A Collection of Texts

translated and annotated
by
Shinjiro KAZAMA

2002

ツングース言語文化論集 20

ウルチャロ承文芸原文集 2

風間 伸次郎 採録・訳注

2002年

目次

まえがき

あらすじ (和文)	1
あらすじ (英文) (Summary)	4
あらすじ (露文) (Содержание)	8
テキスト本文 (ラテン文字に基づく音韻表記とその日本語訳)	12
1. 棺桶 (xəul)	17
2. 二人の女が暮らしていた (juə əəktə baldaxati)	26
3. 一人のおじいさんと一人のおばあさんが暮らしていた (um mapa um mama baldaxati)	47
4. 伝説 (təəluŋgu)	74
テキスト本文 (キリル文字に基づく音韻表記)	96
1. хəул	96
2. жүə ээктə балдахати	100
3. ум мапа ум мама балдахати	108
4. тээлүңгү	118

まえがき

[ウルチャとその現況]

ウルチャ（オルチャ、ウリチともいう）はアムール河下流に住む少数民族である。津曲（1996）によれば1979年の人口が2600人、うち話者人口が1009人、1989年の人口が3200人で話者人口が986人である。したがって10年経っても話者の数があまり減っていないことがわかる。筆者も現地でこの言語の活力を感じることができた。少なくとも私の調査した1994年当時、40代50代の中年層でもよく話す話者を見出すことができた。このことには二つの理由が考えられると思う。一つはウルチャが比較的にかたまって住んでいることである。地図を見ると、他のどのツングース諸語よりもその分布が密集している（池上1989の地図を参照されたい）。さらに、ウルチャの中心地であるブラバ村は二つの部分に分かれていて、いわゆるスターレイ・ブラバ（旧ブラバ）の方にウルチャの人々がかたまって住んでいた。もう一つの理由は、ハバロフスクなどの大都市から比較的離れていて、交通の便もあまり良くないことである。ハバロフスクに近いナーナイと比べると、そのことはよりはっきりと感じられる。

筆者は1993年夏、1994年春、1994年夏の三度にわたってウルチャの村を訪れることができた。最初の2回は上記のブラバ村だけだったが、1994年夏にはサヴィンスク村、ドゥジ村、ボゴロツコエ村、トゥイル村を回った。ウドゥリ湖岸のカリチョーム村も訪れたかったが、果たせなかった。筆者の狙いは、ウルチャ語の内部に方言差があるのではないか、またあればそれはどのような方言差か、ということであった。時間的な制約があったため、各地で十分な調査ができたとはとても言い難いが、結論的にいえば、語彙の違いを除いて明瞭な方言差は見出せなかった。

上記の調査の成果は風間（1996、奥付け参照、以下も筆者の先行研究に関しては奥付けを参照されたい）として一部発表した。その後原稿を整理することができずに実に最初の調査から十年近くの時間が経過してしまった。またさらに今回発表したもの以外にも整理中の原稿があり、書き起こしていない貴重な録音テープもかなりある。筆者の怠惰のゆえであるが、労を厭わず惜しみなく協力してくださったコンサルタントの方々にはまことに申し訳ない。

[先行研究について]

まとまった記述としてはPetrova（1935）とSunik（1968）があるばかりである。他は小さな語彙集がある程度である。Petrova（1935）は50p.ほどの文法、35p.ほどのテキスト、44p.の語彙集からなる。Sunik（1968）は33p.の文法、110p.のテキスト、98p.の語彙集からなっている。

[テキストに関するデータ]

テキスト1はボゴロツコエ村にて、Wang, Aksejn'ja Akimovna氏（1929年、Kol'chom村生まれ）より録音し、語り手自身の協力を得て書き起こした。録音日時はテキスト冒頭部分に記した（以下のテキストも同様）。

テキスト2, 3, 4はブラバ村にて、Duwan, Mikhail Semenovich氏（1903年、Kada村生まれ）より録音した。聞き取り及び意味の解釈に関して、Angina, Svetlana Vasil'evna氏（1944年生まれ）の協力を得た。Duwan氏は2, 3などの物語（*ninmaan*）を母方の伯父より聞いたという。

[各テキストに関するコメント]

「1. 棺桶」について。風間 (1993) にも男が棺桶に入って河を流れて行く話がある。ただしその先の筋は大きく異なっている。風間 (2001) では女性が棺桶に入ってやはり河を流れていく話がある。シャーマニズムによって男が生き返るくんだり、ナーナイをはじめとする他の民族のものとよく似た描写になっている (例えば風間 (2001) の 10 番目の話を参照されたい)。

「2. 二人の女が暮らしていた」について。姉の所に男が求婚に来て、妹が女であるのにその男の妹を自分の嫁にしようとする、という展開は風間 (2000) の 1 番目の話に同様のものがみられる。ただしそこでは妹は男にはならず、話は違う展開となる。

「3. 一人のおじいさんと一人のおばあさんが暮らしていた」について。父親が自分の娘に求婚するが、娘は父親に倉を作らせてそれに乗って逃げてしまう、というくどりは、ウデへの民話に同様の話を見出すことができた (今後発表する予定である)。

ハチに姿を変えて敵の様子を見に行くくどりはナーナイの民話にいくつも例がある。

太陽の娘を嫁に得た息子はシーグーニと呼ばれるが、これは池上 (1984) の 18 にあるシーグーニ物語の主人公と同起源のものであろう。以上三つの話はウルチャにおいてはニグマーというジャンルのもので、架空の話であると彼らには考えられている。

なおこの 3 番目の話は、現地で協力者の協力を得つつ 168 行目まで書き起こしたものの、そこで帰国せざるを得ず、169 行目以下は日本において筆者が単独で書き起こし、訳をつけたものである。したがっていくつもの不明な箇所を残している。

[表記と分析]

ラテン文字に基づく音韻表記と、キリル文字に基づく音韻表記は一対一に対応する。

・子音

無声破裂・破擦音	p(п)	t(т)	č(ч)	k(к)
有声破裂・破擦音	b(б)	d(д)	ʃ(ш)	g(г)
鼻音	m(м)	n(н)	ň(нь)	ŋ(нг)
無声摩擦音		s(с)		x(х)
接近音	w(в)		j(й)	
流音		l(л)	r(р)	

・母音

女性母音	i(и)	ə(э)	e(е)	u(у)	
男性母音	ɪ(і)	a(а)	o(о)	ʊ(у)	(ee(еe))

č, j は破擦音であり、IPA では通常 tʃ, dʒ であるが、一音素一文字の原則から、補助記号による文字とした。ň が示している音声は、IPA では ɲ を用いるのが一般的だが、それが体系上で占める位置 (č, j と同一調音点である) からこのような表記をとることにした。意味が不明であるか、よく聞き取れないために最終的に分析できなかった語には下線を付した。ee は、əneʃee, xaŋuree の 2 語の語末部分以外には現れない。

ロシア語からの外来語はイタリック体でこれを示した。

なおロシア語の単語は実際の発音よりも、もとのロシア語のつづりを優先して表記した。ただし一部発音の違いがいちじるしいものはその発音に近づけた表記をしたものも

ある。なおロシア語の単語の転写は以下のような方式に拠っている。

а-а, б-б, в-в, г-г, д-д, е-е, ж-zh, з-z, и-и, й-j, к-к, л-л, м-м, н-н, о-о, п-п, р-р, с-с, т-т, у-у, ф-f, х-kh, ц-ts, ч-ch, ш-sh, щ-shsh, ь-", ы-y, ь', э-е, ю-ju, я-ja.

[参考文献]

池上二良 1984 「ウイльта口頭文芸原文集」 ウイльта民族文化財緊急調査報告書 6
北海道教育委員会。

池上二良 1989 「ツングース諸語」 亀井孝、河野六郎、千野栄一（編著）
『言語学大辞典』第2巻：1058-83, 三省堂。

津曲敏郎 1996 「中国・ロシアのツングース諸語」『言語研究』110: 177-191.

風間伸次郎 1996 『ウルチャロ承文芸原文集 1』 ツングース言語文化論集9.
鳥取大学教育学部。

風間伸次郎 1998 「ツングース諸語におけるウルチャ語の位置について」
角田太作編 『少数民族言語調査報告 1998』 東京大学文学部。

Petrova, T. I. 1935 *Ul'chskij dialekt nanajnskogo jazyka.*
gosudarstvennoe uchebno-pedagogicheskoe izdatel'stvo, Moskva-Leningrad.

Sunik, O. P. 1968 *Ul'chskij jazyk.* AN SSSR, Leningrad.

[謝辞]

コンサルタントの皆様、そして村での滞在を支えて下さった方々にまず何よりも御礼を申し述べたい。調査がすすめられたのはたくさんの現地の方々のおかげがあったからに他ならない。特に現地での滞在や移動、移動先の村への連絡などのお世話を下さった当時のブラバ村村長 Dankan, Jurij Lesnidovich 氏に深くお礼申し述べたい。

あらすじ

1. 棺桶

ある村に一人の若者がいた。彼はすばらしい狩人でたくさんの獣を獲り、村人に分け与えていた。それで村人皆に知られていた。ある時悪い魂によって、その若者は殺されてしまった。悪霊たちは彼の棺桶を作った。棺桶には美しい模様が彫られた。鳥の模様は今にも飛び立ちそうで、獣の模様は今にも走り出しそうだった。悪霊たちは彼が生き返れないように、海へ沈めに行った。海辺には3人のシャーマンの姉妹と一人の少年が住んでいた。一番手前の湾には一番上の姉が住んでいた。次の湾には次の姉が、一番奥の湾には下の妹が住んでいた。3人はシャーマンをして、彼の棺桶が運ばれて来ることを知った。まず上の姉が岸辺に下りて来て、歌を歌ってその棺桶を捕まえようとしたが、できなかった。編んだ髪の毛の片方をほどいて海に投げ、棺桶に巻きつけて引っ張ったが、向こうも引っ張る。引っ張り合っているうちに髪は切れた。もう片方の髪をほどいて投げて、再び引っ張ったが、それも切れてしまった。真ん中の湾に来て、真ん中の姉が再びそのようにしたが、やはり両方の髪がちぎれてしまって引き上げることはできなかった。奥の湾へ来て、一番下の妹がやはり同じようにしたが、引き上げることができない。少年は骨を投げて遊んでいたが、ついに立ち上がって岸辺へ下りて行った。棺桶をつかんで湾の端へ投げた。棺桶の中の男は骨と皮になって死んでいた。女たちはこれを生き返らせるためにシャーマンの儀式を始めた。夜も昼も歌を歌い、踊った。少年は骨を投げて遊んでいた。一日目、体がわずかに動いた。二日目、小さな声を出し始めた。三日目、少年が来て、その髪の毛をつかんで、頭の上で9回振り回してから投げた。男はスックと立ち上がった。少年は男の弟だった。男はその三人の姉妹と全員を妻とした。それからは以前と同じようにたくさんの獣を獲って豊かに幸福に暮らした。終わり。

2. 二人の女が暮らしていた

二人の姉妹が二つの山の間に暮らしていた。自ら獣を獲って暮らしていた。そこへ大河の向こうから男が一人お客にやって来た。姉妹は食事を作ってもてなした。男は姉の方を自分の妻に求めた。三人は犬橋で男の家へと大河を渡った。男の家は町の長の家で、大きな家だった。そこには美しい娘がいた。妹は、男のふりをして、その娘を自分の妻に求め、交換婚することとなった。妹は三日後に戻って来る、と言い残して、スキーで再び大河を渡って行った。大河の向こう側には一軒の家があり、そこからひどく年老いたおばあさんが出てきた。おばあさんは自分と戦うよう求めた。戦い始めると、娘は気を失ってしまった。おばあさんは娘を自分の家へ運び上げ、その皮膚を金属のように頑丈にし、強い体にした上、男性器をくっつけて男に改造した。娘はすてきな男の若者となった。若者は食事を作り、家や蔵のあらゆる所に捧げ物をして感謝し、幸運を祈った。

二晩泊まって三日目に再び大河を渡った。美しい娘のところに行って、正式に結婚することになった。ごちそうを作り、村人を呼んで酒を飲んで祝った。翌朝若者は朝早く起きて森へ行き、すかさず大きな獣を獲って運び下ろして来た。毛皮を剥いで肉を村人に分け与えた。大河を渡り、自分たちの荷物も運んで来た。それからそうして暮らしていると、男の子が生まれた。やがて子供は大きくなると、西へ旅に出たいと言いだした。西に住む恐ろしい者たちを征伐しに行きたい、と。子供はでかけた。敵は火を使って襲ってきたが、彼はこれを倒した。敵の町を支配下におさめ、これを率いて自分の土地へ戻って来た。そして新しく大きな街を作った。それからは豊かに幸せに暮らした。終わり。

3. 一人のおじいさんと一人のおばあさんが暮らしていた

二つの山の間に一軒の家があって、おじいさんとおばあさんが暮らしていた。彼らには一人のたいへん美しい娘がいた。娘は夜も昼もただ寝てばかりいた。父親は腕の良い猟師かつ漁師で、とても豊かに暮らしていた。父親は娘と結婚したいと考えようになった。それを知った娘は、自分のために一軒の倉を、山の方に建ててくれるよう父親に頼んだ。父親は美しい模様を彫った倉を作った。鳥の模様は今にも飛び立ちそうに美しく彫ってあった。母親が手伝って娘の家財道具を倉へ運び上げた。二日経って両親が見に行くと、倉は無かった。倉は娘を乗せたまま空へ飛び去ったのだ。やがて倉は大きな町のそばに着陸した。村の中の一番大きな家、長の家のそばに一人のすてきな若者が立っていた。若者は倉に入ってきて、二人は結婚した。男にはすでに一人、妻がいた。男は半月ほど狩りにでかけることになった。女はすでに身ごもっていて、男が出かけた後で男の子を産んだ。男の一人目の妻は、生まれた子を犬小屋に連れて行き、母親の目と口を糊で糊づけにして塞いでしまった。町の長の命令で、母と子は樽詰めにされ、錨をつけて河に放り込まれた。樽はやがてどこかの岸边に打ち寄せられた。子供はすでにやや大きくなっており、樽を踏み破って二人は外へ出た。子供は母の目と口を開いた。子供は大地に木の枝で家の絵を描き、そこに母を横たわらせて、自分も横になった。そして寝ていると本物の家ができあがっていて、二人はその中に寝ていた。息子は魚を捕り、そうして二人は暮らした。それから息子はスズメバチに変身して、河を渡り、自分たちを苦しめた者たちの様子を見に行った。父親は亡くなっていて、捧げ物が祀ってあった。息子はハチの姿で二人の女を刺してから、母親の元へ戻って来て報告した。それから冥界へ行って父親を連れ戻して来た。父親は偉大なシャーマンとなった。さらに家を作り、獣を獲って豊かに暮らし始めた。その後ある時息子は夜も昼もまる二日間眠り続けた。起き上がると、夢の中で自分の妻を見つけた、と言った。その妻を得るために太陽へ上ることになった。母親が紙から白い馬の形を切り抜くと、それは本物の馬となり、息子はそれに乗って太陽へと上って行った。雹が降って来たが、若者は太陽に着いた。妻に

したいと思った娘とその姉が出てきた。一晩泊まって、その娘と結婚した。娘の兄は太陽と共に行き来していて、正午にだけ昼食を食べに家に立ち寄る。そこでその兄に会ってから下界へ降りた。太陽の主人の娘を妻としたので、家もすばらしく立派な家が変わった。妻は妊娠して男の子を産んだ。また天に昇り、太陽の主人と義姉に子供を見せに行ってきた。やがて子供は成長し、獣も狩りするようになった。息子は「太陽の真ん中にある赤い海から大蛇が僕を殺しにやってくる。僕はそれを倒しに行く、」と言って、でかけた。犬に乗って空へ上った。大蛇は火で攻めてきたが、少年はこれを倒した。村はさらに大きな町となった。少年は成長し、妻を得た。父はかつて自分の妻と息子を苦しめた村の女や長を殺しに行くよう息子に命じた。息子は大河の対岸に渡り、彼らを殺した。それから豊かに幸せに暮らすようになった。終わり。

4. 伝説

ずっとずっと昔、我らの祖先はグーリンジという地方で暮らしていたこのアムールの下流からははるかに遠い所だ。そこには獣もへびや虫も多かった。野生のトナカイやヘラジカを獲り、獣皮で服を作って暮らしていた。ある長老の言葉から、彼らはその地を離れることになった。家財道具も持ち、子供たちも連れて旅立った。支流から大河へ出た。流れは急だったので筏を作り、さらに流れて行った。まる一日一晩下って人のいる村へ出た。夜明けにその村に着いた。岸边は美しく、住んでいたのはナーナイとウルチャだけだった。その村の人々は、彼らの一部がそこに留まることを望んだ。彼らは三つのグループからなっていたが、そのうちの一つのグループ、ミガ・ミハイルの父たちのグループがそこに残った。他は旅を続けた。五つの櫂のある船をもらって、それに荷物を積んでさらに進んだ。次にロシア人の村を見つけたが、そこには立ち寄りなかった。次にウルチャの村を見つけたがそこにも立ち寄りなかった。その村の対岸に良い岸、良い村を見つけたがこれにも立ち寄りなかった。ロシア人の村、サフィンスクに着いたがこれにも寄りなかった。そこから崖を一つ越えたところで休んだ。キジの山を越え、カダ湖に来た。プルサ村があったが、そこにも寄りせず、カダの対岸の大きな島に着岸してそこで荷を下ろした。そこに一ヶ月いて再びカダの方へ渡った。そこで人と出会った。それは、その土地に長く暮らしてきたその土地の主人であった。そこで話し合っ一緒に暮らすことに決めた。お互いに親戚となるために、儀式を執り行なった。まずクマを殺し、大きな火を焚いた。二つの火を一つに合わせ、互いに親戚となった。それからカダ湖で魚を捕って暮らすようになった。ある時私の兄が上流の村にお客に行き、戻って来て祖父の家に入った。するとそこにはトラが待ち伏せしていた。三匹いた犬を食い尽くして家の中で待ち伏せしていた。銃で三発撃ってこれを倒した。秋のことだった。トラは馬でハバロフスクへ運んだ。そうして暮らした。網を作り、鮭やチョウザメやマスを捕って豊かに暮らした。中国の町から定期的に荷船が下って来て、そこでクロテン

やキツネの毛皮やチョウザメの軟骨を売り、布や食料を買って交易した。そうして暮らしていたが、ある時期には人がたくさん死んだ。埋めるのが間に合わないくらい死んだ。下流からギリヤークたちがやって来て、女たちを妻に攫って行った。私は小さい時、アムグン川の、母方の伯父のところを1、2年いた。1913年にここにやって来たが、それからさまざまな地方へ旅をした。ある時は、兄と義父と三人で、三匹の犬を連れて、海へアザラシを獲りに行った。山越えをして海へ行った。モンゴル村の者も、マーイ村の者も、アオリ村の者も、ブラワ村の者もいた。運の良いものは一日に5～10頭のアザラシを獲った。アザラシの肉は全部集積場に売って、お金を得た。山越えをして帰って来た。私は銃を撃つのも上手だった。1937年にここに来て家を建てた。そしてこれまで、喧嘩もせず、悪いこともしないで生きてきた。終わり。

Summary

1. The Coffin

There was a young man in a village. He was a great hunter and caught many beasts, which he gave to the villagers. So he became well known among the villagers. It happened that the young man was killed by an evil soul one day. The evil spirits made him a coffin. There were beautiful carved patterns on the coffin. The bird pattern looked so real that it seemed it could fly out; the beast pattern looked like it could jump right out into the air. The evil spirits were going to sink him at sea to make sure he would not come back to life again. At the seashore lived three shaman sisters and a boy. At the outermost bay lived the oldest sister, at the next bay the second sister, and at the innermost bay the youngest sister. The three performed their shamanism and found out that his coffin was about to be brought there. First of all, the oldest sister came down to the shore, sang a song and tried to capture the coffin, but failed. She untwined one side of her braided hair and threw it into the sea, wrapping it around the coffin and pulled. However, there was pulling on the other side as well. Being pulled in both directions, the hair snapped. She then untwined the other side of her braided hair and threw it out, pulling once again. This also snapped. As the coffin moved on to the middle bay, the middle sister also tried the same thing, but both sides of her hair snapped as well, and she was unable to heave up the coffin. When the coffin travelled to the innermost bay, the youngest sister tried to do the same thing, but she also failed to heave up the coffin. The boy had been playing throwing bones, but finally he stood up and went down to the shore. He grabbed the coffin and threw it onto the edge of the bay. The man was dead inside the coffin and had turned into bones and skin. The women started to perform shamanism to make the man come back alive. They sang songs and danced day and night. The boy threw bones and played. On the first day, the body moved slightly. On the second day, it let out a little voice. On the third day, the boy came, grabbed the body by the hair, swung it around his head nine times and hurled it. The man sprang to his feet. The boy was the man's little brother. The man took as his wives the three sisters. From that time onward, he caught many beasts just as he did before, and lived a blessed and happy life. The end.

2. Two women lived together

Two sisters lived together in the midst of the mountains. They lived by hunting down beasts all by themselves. There came a guest, a man from across the big river. The sisters made a meal and showed hospitality to the man. The man wanted to take the older sister as his wife. The three crossed the big river by dogsled, headed for the man's home. The man's home was the home of the village chief, and it was a big home. There was a beautiful girl there. The younger sister pretended

to be a man, requested the hand of the woman in marriage, and performed an exchange marriage. Promising to return after three days, the younger sister crossed the big river once more by skiing. There was a house on the other side of the big river, and a terribly old grandmother came out of the house. The grandmother requested a fight with her. When they started fighting, the girl fell unconscious. The grandmother carried the girl into her house, made her skin as sturdy as metal and made her body strong. She then attached male reproductive organs onto her and refashioned her as a man. The girl turned into a handsome young man. The young man made meals, presented offerings in all places around the house and storehouse, praying for good fortune. After staying for two nights, he crossed the big river again on the third day. Going to the beautiful girl, he married her officially. He prepared a feast, called the villagers, drank and celebrated. The next morning the young man woke up early, went to the forest, captured a huge beast at once and carried it back down. He skinned it and divided the meat among the villagers. They crossed the big river, carrying their own belongings. After living together for a period, a boy was born to them. When the boy grew up, he said he wanted to travel to the west. He said he wanted to go and subjugate the fearsome people living in the west. So the boy went out. The enemy tried to use fire to attack him, but he struck them down. He placed the enemy towns under his rule, then led them as his captives and returned home. He then built a new and large town, and lived a blessed and happy life thereafter. The end.

3. An old man lived with an old woman

There was a house between two mountains, and there lived an old man and an old woman. They had a very beautiful daughter. All the daughter ever did was sleep, day and night. Her father was a very skilful hunter and fisherman, and they lived a very comfortable life. The father began thinking that he wanted to marry his daughter. When his daughter heard this, she asked her father to build her a storehouse in the way of the mountains. The father built a storehouse with a beautiful carved pattern. The bird pattern was carved so beautifully that it looked like it could fly out. The mother helped the daughter move her belongings and tools up to the storehouse. After two days had passed, the parents went and looked, but the storehouse had all but disappeared. The storehouse had flown away into the sky, carrying the daughter within it. Eventually the storehouse landed at the vicinity of a big town. Next to the biggest house in the town, the house of the town chief stood a handsome young man. The young man came into the storehouse, and the two were married. The man already had a wife. The man went on a hunting trip that lasted about two months. The woman was already pregnant, and give birth to a son after the man had gone out on his hunting trip. The man's first wife took the newborn child to the dog's kennel, and blocked the mother's eyes and mouth with glue. At the command of the town chief, mother and child were

encased in a barrel attached to an anchor and thrown into the river. The barrel eventually hit a riverbank somewhere. The child was already quite big, and he kicked open the barrel for the two to get out. The child opened his mother's eyes and mouth. With a tree branch, the child drew a picture of a house on the ground, and then made his mother lie down. He himself lay down as well. As they slept, a real house was built, and the two slept in it. The son caught fish, and the two lived together. After that the son transformed himself into a wasp, crossed the river to observe the lives of those who had tormented them. His father was dead, and there were offerings placed out for him. In the form of a wasp, the son stung two women, and then went home to report this to his mother. After that he went to the nether world and brought back his father. His father became a great shaman. They built a house, caught beasts and began to live a comfortable life. Then one time the son slept day and night for two whole days. When he woke up, he said he had found his wife while dreaming. In order to obtain his wife, he had to ascend to the sun. When his mother cut out a white horse from a piece of paper, it turned into a real horse, and the son rode on that horse toward the sun. Hail fell on them, but the young man made it to the sun. The girl whom he wanted to take as his wife, as well her older sister came out. He stayed one night and then married the girl. The girl's older brother always accompanied the comings and goings of the sun, so he only came home for lunch at high noon. The son met the older brother, and then went down to earth. Because he had married the daughter of the keeper of the sun, his house became a wonderful, magnificent home. His wife became pregnant and give birth to a son. To show this child to the keeper of the sun and also to his older sister-in-law, he went up to the sun again and came back. The child eventually grew up, and began to hunt beasts. The son said, 'the big serpent from the red sea in the middle of the sun is coming to kill me. I'm going to strike it down.' He then went out, rode on a dog, and flew up into the sky. The big serpent attacked with fire, but the boy struck it down. The village became an even bigger town. The boy grew up and took for himself a wife. His father commanded the son to go and kill the woman and chief of the village who had tormented his wife and son in the past. The son crossed the big river and killed them. They lived a blessed and happy life thereafter. The end.

4. A legend

A long, long time ago, our ancestors lived in a region called Ngeerinji. It's a long way from the lower reaches of the Amur River. There were many beasts, snakes and insects there. People lived by capturing wild reindeer and elks, and by making clothes out of their skins. At the word of an elder, they left that land. They carried their belongings and tools, led their children and departed on a journey. They went from the tributary river to the big river. Because the river current was fast, they made rafts and flowed further downstream. After flowing for a day and a night, they came to

a village with people. They reached the village at sunrise. The riverbank was beautiful, and the only people that lived there were the Nanay and the Ulcha. The villagers wanted some of them to remain there. As they were organised into three groups, one of the groups, the fathers of Miga Mokhail remained at that place. The others continued on their journey. They received a boat with five oars, loaded their belongings onto the boat, and continued ahead. Next, they came across a village of Russians, but they did not stop by. Then they came across a Ulcha village, but they did not stop there either. Across the river from this village they found a good riverbank and a good village, but they did not stop there. They reached the Russian village of Safisk but did not stop there. After that they crossed over a cliff and rested. They climbed over the mountains of Kiji and arrived at Lake Kada. The village of Pulsa was located there but they did not stop by there either. They landed at a big island on the other side of Kada and unloaded their belongings there. They were there for a month, then crossed over again to Kada. There they met other people. These were masters of the land there, who had lived on the land for a long time. They reasoned together and decided to live together. In order to become relatives with each other, they held a ceremony. First, they killed a bear, and made a big bonfire. Then they joined two fires together, thus becoming relatives with each other. After that, they lived by catching fish at Lake Kada. Once, my older brother went to an upstream village as a guest. When he came back he entered grandfather's house. There was tiger lying in wait for him. It had already eaten the three dogs and was lying in ambush in the house for him. He shot it down with three gunshots. It was autumn when this happened. He carried the tiger on a horse to Khabarovsk, and then lived there. He made nets and made a good living by catching salmon, sturgeons and trout. Cargo ships regularly came down from the Chinese towns, and there he sold sable and fox furs, together with sturgeon cartilages. In turn he bought cloth and food supplies from them. So he was living this way, but then there were times when many people died. So many people died that they could not bury them in time. Gilyak would come from downstream and capture women as wives for themselves. When I was young, I lived in the home of my maternal uncle at the Amgun River for one or two years. I came here in 1913, but after that I also visited many regions. Sometimes I would go with my older brother and father-in-law-the three of us would bring three dogs along to the sea to hunt seals. We had to climb over mountains to get to the sea. There were people from Mongol villages, May villages, Aori villages and Bulava villages. Those who were lucky would catch five to ten seals in a day. The seal meat was all brought together to the communal clearinghouse and sold for money. We would then climb over mountains to get back home. I was good at firing guns. I came here in 1937 and built my house. And I've lived all these years without fighting or doing wrong things. The end.

Содержание

1. Гроб

В одной деревне один молодой человек был. Он был замечательным охотником и ловил много животных, раздавал их жителям деревни. Поэтому, Все жители хорошо знали его. Однажды он был убит плохими духами. Злые духи сделали его гроб. В поверхности гроба красивые узоры были вырезаны. Узоры птицы вот-вот улетали в любой момент, и вот-вот узоры животных начинали бегать в любой момент. Злые духи пустили гроб в море так, чтобы он не смог возродиться. Три сестры – шаман - и один мальчик жили на берегу моря. Самая старшая сестра жила около самого переднего залива. Средняя сестра жила около следующего залива, и младшая сестра жила около самого заднего залива. Сделав церемонию шамана, они узнали, что его гроб будет плыть туда. Сначала самая старшая сестра пошла на берег, попыталась поймать гроб песней. Но не удалось. Потом, развязав одну из двух кос, она бросила её в море, обмотала волосами вокруг гроба, попыталась тянуть гроб на берег. Но гроб тянул её. В конце концов её волосы отрезались. Она ещё одну косу развязала, бросила волосы, попыталась тянуть гроб. Но также волосы отрезались. Греб прибыл в следующий залив, и средняя сестра сделала так, как самая старшая сестра сделала. Но волосы отрезались. Гроб прибыл в самый задний залив, и младшая сестра сделала так, как старшие сёстры сделали. Но не удалось. Мальчик развлекался костью. Наконец он встал, пошёл на берег. Он поймал гроб, бросил его к окраине залива. Внутри гроба были только кожа и кости. Три женщины начали церемонию шамана, чтобы молодой человек возродился. Дни и ночи они пели и танцевали. Мальчик развлекался костью. В первый день тело молодого человека двинулось. Во второй день он начал говорить тихо. В третий день мальчик пришёл к нему, и держа его во волосы, он размахивал его 9 раз на своей голове. Потом он бросил молодого человека. Молодой человек вдруг встал. Мальчик являлся младшим братом молодого человека. Молодой человек женился на всех трёх сестрах. После этого, как раньше, ловя животных, они жили счастливо и богато. Конец.

2. Две женщины жили.

Две сестры жили в одном месте между двумя горами. Они жили на животных, которых они сами ловили. Через большую реку один мужчина прибыл туда в гости. Сёстры угостили его блюдами. Он попросил старшую сестру выйти замуж за себя. Они втроём переехали через большую реку на санях, которые сабаки тянут, и приехали в его дом. Его дом был большой, принадлежал главе города. У главы города была красивая дочь. Младшая сестра сделала вид, что она мужчина, и попросила ту красивую дочь выйти замуж за себя. Решили, что они поженятся. Младшая сестра сказала, что она вернётся через три дня. Она опять переехала через большую реку на лыжах. Один дом находился в другой стороне большой реки. Из этого дома одна старуха вышла. Старуха попросила младшую сестру бороться с собой. После того, как борьба начала, сразу младшая сестра потеряла сознание. Старуха несла младшую сестру в свой дом. Старуха сделала её кожу сильной, и её кожа стала подобной металлу, и старуха сделала её тело сильным. Потом старуха поставила пенис в ней, сделала её мужчиной. Младшая сестра стала молодым юношей. Этот юноша готовил блюда, возлагал вещи на дом, склад, то есть на все места, и он молился за счастье. Он ночевал двое суток. В третий день он опять переехал через большую реку. Он пошёл ко красивой дочери, и они женились формально. Они готовили вкусные блюда, потом пригласили жителей города, и все пили алкогольные напитки, отмечали их брак. В следующий день юноша встал рано утром, пошёл в лес, поймал большого животного. Он принёс его домой. Он ободрал шкуру с того животного, раздал жителям мясо. Он переехал через большую реку, и вернулся со своими вещами. И у них ребёнок родился. Он вырос, начал говорить, что он хочет путешествовать к западу. Он говорил, что он хочет подчинить браги, которые живут на западе. Он пошёл. Враги атаковали его, используя огонь. Но он победил, подчинил их город. Потом он вернулся в свой город с врагами, которых он подчинил. И он создал большой новый город. После этого, жили счастливо и богато. Конец.

3. Один старик и одна старуха жили.

В одном месте между двумя горами был один дом, и один старик и одна старуха жили там. У них была одна очень красивая дочь. Она всё время только ложилась. Отец был хорошим охотником и также рыбаком, так что они жили очень богато. Отец стал хотеть жениться на своей дочери. Дочь почувствовала это, так что она попросила отца построить ей один склад на горе. Отец построил склад, у которого вырезаны красивые узоры. Узоры птиц были вырезаны так красиво, что вот-вот птицы улетали в любой момент. Мать помогла дочери донести домашние вещи до склада. Через два дня родители посетили её, но там не было склада. Склад улетел с дочерью. Потом склад приземлился около большого города. Один замечательный молодой человек стоял около самого большого дома в деревне, то есть около дома главы деревня. Молодой человек вошел в склад, и они женились. У того молодого человека уже была жена. После того, как он вышел для охоты в течение полмесяца, дочь оказалась временной. Она родила ребёнка. Бывшая жена несла ребёнка в домик для собак, потом она закрыла глаз и рот матери ребёнка клеем. Под руководством главы деревня заперли матери и её ребёнка в бочке, и бросили бочку с якорем в реку. Через какое-то время бочка попала на кое-какой берег. Ребёнок уже немного рос. Он разбил бочку ногами, и они вышли из бочки. Ребёнок открыл глаз и рот матери. Ребёнок нарисовал веточкой картину дома на земле, положил мать там, и он также лёг. В то время, когда они спали, дом появился. Они, оказалось, спали в этом доме. Сын ловил рыбу, таким образом они жили. Потом сын оборотился в осу, перелетел реку, полетел видеть людей, которые причиняли ему и его матери боль. Оказалось, что отец уже умер, и были возложены вещи. Сын куснул двух женщин в виде осы, потом вернулся и сообщил матери о том, что он сам видел. И он полетел в тот свет, привёл отца обратно в белый свет. Отец стал великим шаманом. Потом построили дом. Ловя животных, они жили богато. Однажды сын продолжили спать два дня. Он встал, и сказал, что он нашёл своего жена во сне. Для того, чтобы найти жену, он решил полететь в солнце. Мать вырезала форму белой лошади из бумаги, это стало реальной лошадью, и сын поехал на этом в солнце. Град начинал идти. Но молодой человек доехал до солнца. Девушка, на которой он хотел пожениться, вышла с её старшей сестрой. Он там ночевал в сутки, и он поженился на той девушкой. Старший брат той девушкой идёт назад и вперед с солнцем, и возвращается к ним только в полдень, чтобы обедать. После встречи со старшим братом, они вернулись из

солнца. Благодаря тому, что он поженился на девушкой, которая жила в солнце, дом стал замечательным. Жена стала беременной, родила ребёнка. Они опять поехали в солнце, показал ребёнка главе солнца и старшей сестре. Потом ребёнок вырос, и начал охотиться на животных. Сын сказал, что большая змея, которая живёт в красном море в центре солнца, придёт убить его, поэтому он поедет убить ту большую змею. Он поехал на собаке. Большая змея атаковала его, используя огонь, но он победил её. Деревня стала все ещё более большим городом. Мальчик вырос, и поженился. Отец попросил сына убить женщин деревни и главы деревни, которые раньше причиняли своей жене и своему сыну боль. Сын поехал на противоположный берег большой реки, и убил их. После этого они стали жить счастливо и богато. Конец.

4 .Легенда

Давным-давно наши предки жили в районе, так называемом "Гуринди". Этот район находился очень далеко от нижнего течения реки "Амур". Там было много и животных, и змей, и насекомых. Ловя диких северных оленей и диких лосей, они делали одежды от шкур. Таким образом жили. Согласно словам одного старшего, мы решили уйти из этого места. Мы ушли с домашними вещами и детьми. Через приток мы попали в большую реку. Так как течение реки было очень быстро, мы сделали плоты, и поехали дальше. После сутнего плавания вниз по течению реки, мы на рассвете попали в деревню, где жили люди. Берег реки был красивый. Там жили только племя "Нанай" и племя "Урча". Люди деревни хотели, чтобы некоторые из нас остались там. Мы состояли из трех групп. Одна группа отцов Мига Михайла осталась там. Другие продолжили поездку. Мы получили судно с пятью веслами, и загрузили судно вещами, и продолжили поездку. Потом мы нашли русскую деревню, но мы не заезжали. Потом мы нашли деревню "Урча", но туда также не заезжали. На противоположном берегу мы нашли хороший берег и хорошую деревню, но мы также не заезжали. Потом мы попали в русскую деревню "Сафинск", но мы также не заезжали. Оттуда мы поехали по утёзу, потом мы одышали. Потом мы поехали по гору "Киди", и попали в озеро "Када". Там была деревня "Пулса", но мы также не заезжали, и поехали на берег большого острова, который находился напротив озера "Када", и там разгрузили вещи. Там мы жили месяц, потом мы поехали к озеру "Када". Там мы встретились с одним человеком. Он являлся главой того района, кто долго жил в том районе. Мы обсуждали и решили жить вместе. Мы

провели церемонию, чтобы стать родственниками. Сначала убили медведя, и развели большой огонь. Мы объединили два огня в один, стали родственниками. Мы начали жить на рыбу, которую мы ловили в озере "Када". Однажды мой старший брат поехал в гость в деревню, которая находилась около берега верхнего течения реки. Он вернулся, и вошёл в дом бабушки. Тигр был в доме. Тигр съел трёх собак, потом сидел в доме. Старший брат стрелял в тигра из пистолета три раза, и тигр умер. Это произошло осенью. Везли тигра в Хабаровск на лошади. Таким образом мы жили. Создали сети, и ловили лососей и осетров, и таким образом мы жили богато. Из Китая торговое судно регулярно приезжало. Тогда мы продавали шкуры чёрной куницы и лисы, и хряща осетра, и покупали ткани и продукты. Таким образом мы жили. Но однажды так много людей умерли, что сразу не могли хоронить мёртвого тела после смерти того человека. Племя "Гиляк" прибыло из низкого течения реки, и они вернулись с женщинами, чтобы пожениться. Когда Я был мальчиком, я жил у брата матери на берегу реки "Амгун" один или два года. Я прибыл сюда в 1913-ом году. После этого я путешествовал по различным районам. Однажды мы со старшим братом и дядей и тремя собаками через гору пошли в море, чтобы ловить тюленей. Там были люди из деревни "Монгол", "Май", "Аори", и "Бурава". Удачливый человек ловил 5-10 тюленей в день. Продавали всё мясо тюлени, и получали деньги. Через гору мы вернулись. Я хорошо стрелял из пистолета. Я прибыл сюда в 1937-ом году, и постороил дом. До сих пор без ссоры и совершения плохого дела я жил. Конец.

1994年8月11日 ボゴロツコエ村にて録音

A. A. Wang氏 口述

1. xəul

棺桶

1-001

daa xəjilatı um gasakaan-daa um biruudu bičini, ŋnsal.
ダーハジラッテー、ある 村人たちが、ある 町に いた、 人々たちが。

1-002

gəə tı biruudu bičini ŋı mangarı-guni,
さあその 町に いたのだ、人、 強い人なのだ、

1-003

ŋı largı ŋı pəskin gərəə ŋı saarı ŋawjaka bičini.
人、すばらしい人、人、強い人、おおぜいの人々が知っている 若者が いた。

1-004

sugdata-daa, dəgdəi gasa-daa čupal waarı~
魚も、 空飛ぶ 鳥も、 全て 狩る、

1-005

sumii sugdatawa-daa čupal waarı, xamataarı-daa
飛び跳ねる 魚をも 全て 捕る、 いかなるものも、

1-006

usəltəwə-dəə čupal waarı bičini
獣をも 全て 獲るので あった、

1-007

tı, məən gasančisal čupa~l tı tı jəpəwənčini bičın.
彼は、自分の村の人々 全員を そうして 食わせ養っていた のだった。

1-008

tıwa gərəə ŋı čupal saarı, gərəə ŋı čupal saarı bičın,
それを大勢の人々が皆 知っている、大勢の人々が皆 知っている のだった、

1-009

gəə tıdu-gdal tı xəjı agbunčırı-nuu,
さあそこで そうして どこから 現れたのか、

1-010

xəjı dičiti-nuu busəl, xai, koildaraa~ xodujuxatı.
どこから やって来たのか、悪い魂が、悪い魔法を使ってその人の命を終わらせる。

1-011

koto koto waaraa xodaxatı jıjıj gərəə ŋı,
跡形もなく消して殺して しまうのだったという、ああ恐ろしい、たくさんの 人、

1-012

ñi mangani-guni ñawjakamba. tutaraa tii xumumbəni
人は強いのだ、その若者を。それから その墓(棺桶)を、

1-013

xumumbəni anjuxa-gdal anana~ dəgdəi gasa jinjin ələə
墓(棺桶)を作った(表面に彫った)、ああ、空飛ぶ鳥はすごい、今にも

1-014

dəgdələmi-nəkə~, puktəi bejen ələə puktəmi-nəkə,
飛び立ちそうな、地を駆ける獣は今にも駆け出しそうな、

1-015

gəə tii tii xarwani, gəə tii xəulwəni tii
さあ そうして 何を、 さあ そうして 棺桶を そうして

1-016

tii tii waaxan busəlsəl-nuu ibaxasal-nuu tii-gdal tii
そうして 殺した 悪霊たちだか、魔物たちだかは、そうして(それを)

1-017

tii daari namutini olbumbami ŋənəwəmi čəgbunđami,
あの大きな海へ 持って 行かせて 沈めに行つて、

1-018

čəlbunđami, xaali-daa~ əŋdəə xoləjua tabdani.
沈めに行つて、永遠に、生き返つたり しないように、だ。

1-019

mangani-daa əŋdəə, agbunjua tabdani.
強い者であっても 再び現れたりしないように。

1-020

gəə tii tii-gdal tii tii xəul jinjin~ muuki pičəŋdəmi
さあ、そうしてそうして その 棺桶はすごい、水の上に沿つて水を跳ねかしながら

1-021

ŋənəini. əsi tii mun glisserwə ičəjəčipi-kə
行く。今 それは我々の水中翼船を 見ているかのよう、

1-022

tii-məəč ŋənəini wəndə. pičər muu-dəə pič~čər
そのように 進んで行くという。バチャバチャと水も バチャバチャ跳ねかして

1-023

ŋənəwəndiiti xəulti olbunmandnti. gəə tii, anjuxati
行かせる、彼らの棺桶を運ばせる。さあ そのように作った、

1-024

xar, bejen puktum i očmi, giliidi anjuxati gasa
獣が 駆けるように、本物のように 彫つて作った、水鳥が

1-025

dəgdəini-məəč taguxati. tii nənəini wəndə.
飛ぶが如く 作った。 そうして 行く という。

1-026

trwa čagbuŋdami tii bəsulsəl olbm... irawandıri.
それを 沈めに行つて、 その 悪霊たちは 運ばせる。

1-027

gəə trwa-gdal dooldaraa~ tii, tii naati xəŋgı~lani tki, xai,
さあそれを 聞きつけて そうして 彼らの向かい側の そこから、

1-028

tii namu-nuu xai-nuu kiraadunı bii əkəsəli. əigə tunjə,
その 海だか、 なんだかの 岸には いる、 女たちが。 姉 妹、

1-029

ilaan əigə tunjə bičiti. samanı, samaa əkəsəl bičın wəndə~
三人の 姉 妹が いた。 シャーマン、 シャーマンの 女たちがいた という、

1-030

tii daari daari saman ambaan daari saman.
それは 大きな 大きな シャーマン、 なかなか 大きな シャーマン。

1-031

um, čuu julu oonjadu tii gasamba jįjala bii oonjadu,
一人は、 一番 前に、 湾の、 その 村の 近くに ある 湾の所に、

1-032

daarduma əigəni~ tii xamıkmı bii tokkonduma oonja,
大きい方の 姉が、 その 後ろに ある、 真ん中の方の、 湾の、

1-033

dəwəduni-gdal, xai duldumə əigəni~ nəuni biči.
端の所には、 一つ下の 姉さん、 妹が いた。

1-034

čuu taawduma duwə oonjadu ili oonja duwəduni-gdal
一番 あっちの 端の 湾の所に、 もしくは、 湾の 端の所に、

1-035

tii čuu nəudumə, biči əi, xai nəuti bičın.
その 一番 年下の方のが、 いた、 その、 妹が いた。

1-036

gəə trısal čupal saman tar
さあ 彼らは 皆 シャーマンの行いをする、

1-037

saman-daa bičiti-nuu xoon-kaa bičiti-nuu.
シャーマン であったのか、 どのようであつただか。

1-038

gəə trwa dooldaraa~ tii xəul pičəŋdəmi ŋəneiweni dool...
さあそれを聞きつけてから、その棺桶が水を跳ねかして行くのを聞いて、

1-039

jiŋjiŋ~ əurərəə, jaajačii xoon-daa tamaari.
すぐ下りてきて、歌もどんなにか歌って、

1-040

xoon-daa, japamii mutəəsi, nuktə tis balanaa naaŋi
どんなにか捕まえようとしてもできない、髪の毛を全部、昔ウルチャ人たちは

1-041

ran'she zhe volos dlinnyj iz ryby kozhe, tii nuktəji,
以前だもの、髪の毛は長い、魚皮から、その自分の髪を、

1-042

um nuktəji xai, xərərəə tii jololoxon, chtoby
一方の自分の髪の毛を、ほどいて、それを投げた、

1-043

tıla xočiraa tis tatamačumi, tii, xaali taisi tisajupi~
そこにからまってがっちりひっかかるように、向こうへ沖へ出ると

1-044

xamasii taakui, əusi, mənəə maŋga opri~
後ろへ引っ張る、こっちへ、自身がしんどくなると、

1-045

bereg baani xərə tuandii, naan taiŋčai maŋga opri
岸の方へ少し引っ張る、彼の相手方がしんどくなると

1-046

tii tii xəulwə naambaani tii taisi tii tii
そうしてその棺桶を彼女の方へそうして向こうへそうして

1-047

tisawandri tamaari tii, usumukəəčixəti-təni tii,
沖へ行かれたりして、そうして、奪い取ろうとしたのだが、そうして、

1-048

nəə japaičaxan tii əəktə, tii xəulwə. taraa tii mutəəsi,
今にもつかまんとしたその女は、その棺桶を。ところがそうしてだめだった、

1-049

tii um čičokaan kəŋ pəŋ xətiŋxən. gəə tii um
その一つの髪を編んであったのはブツリちぎれた。さあそうして一つの

1-050

čičokaan tii-məəč xaixan jololoxon.
編んであった髪が、そのように、どうした、投げた。

1-051

tii um čičokaan-daa xais tii-məč xətijuxən.
そうして もう一つの 編んであった髪も 再び そのように ちぎれた。

1-052

vot vsjo, čupal čičokaan-daa anaa očuxatı. gəə tii tutumi
もはやそれまで、全ての 編んであった髪も なくなつた。 さあ そうして 走って

1-053

tii xasamı tii ɣənəmi tii um, tii duəɣdumə-dəə xatı,
そうして 追って そうして行って そうして もう一人、その、真ん中のも、

1-054

nəuti dičin, gəə tii əəktə-dəə xais tii-məč-lə.
彼らの妹も 来た、 さあ そうして 真ん中の姉も 再び そのようにする。

1-055

tii usuməkəəčii tii usumukəəčiməəri tii, ni kak ni
そうして 奪い取ろうとする、そうして 奪い取ろうとして そうして、どうにも

1-056

mogut ostanovilsja. əɣdəə-mət taxatı.
踏みとどまることができなかつた。 どうにもできなかつた。

1-057

tutaraa tii iliinduma əiwə, nəuti, isıɣdaxatı xəul
それから その 三番目の あの、 彼らの妹が、 やって来た、 棺桶が、

1-058

v obshshem kəət tıla isıɣdaxan. tidu, tidu-daa umutu
やっとこさそこへたどり着いた。 そこで、そこでも 同じように

1-059

tii umunduma guči opjat' čičokaan, xətijuxən tii umunduma.
その 片方を また、また 編んだ髪を、ほどこいた、 その 片方を。

1-060

xai um čičokaan. gəə tii tii nəuduma čičokaan,
片方の 編んだ髪を。 さあ そうして 妹の方の 編んだ髪で、

1-061

tii-daa tii-mač guoraraa tii-mač tatamaačimaari-dıı~
彼女も そのように ほどこいてから そのように 引っ張り合つて、

1-062

xaulı xaulı xaulı xaulı, tii xai, naatı ələə ələə xaabgurtı tii,
何とか 何とか こうして、大地へ もう今にも 着岸させようという時、

1-063

jıɣjıɣ xur tisaajur, ələə ələə xaabgurtı
ひどく強く 沖の方へ引く、 もう今にも着岸しようという時

1-064

xur tisaajuri tii biini, a tii ñawjaka-gdal
強く 沖の方へ引く、そう している、 ところがあの 少年ときたら

1-065

tii arčukaačumi tɔdu tii bii tii bii tii bii,
こう 骨を投げて遊んでいる、そこで そうしている、そうしている、そうしている、

1-066

dolbo inəŋ xəmə xəmə ŋuiti-dəə xarwa-daa jalalrasi,
夜も 昼も 静かに黙って 誰へも 何も 話さず、

1-067

tii ičəŋmi-dii~, ”gəə suu samambal saalumaari,
そうして 見ていたが、 「さあて おまえたちは シャーマンのことを よく知っていて、

1-068

xamaari trwa xai japamaari mutəəsi-tu,” ŋənəxən.
どうして あれを なんて 捕まえようとしても できないのか、」 と言って 行った。

1-069

tutaraa, ŋənərəə, uilə~ oonja, gapakalaraa
それから 行って、 上から、 つかんで

1-070

tii xəuliwə, uilə~ toobujaraa tii oonja duətini
そうして 棺桶を、 上から 岸の方へ引き上げて その 湾の 端へ

1-071

jəpčəm jololoxon, tii ñawjaka.
バラバラに碎け散るように 投げた、 その 若者は。

1-072

gəə tɔdu-gdal tii ñni jinjij~ ələə mangalaxan bučin,
さあ そこで その人は ひどい、もう ぐったりしていた、死んでいた、

1-073

bar gramsajri jukə jukə xərəkta japči tawu očoxani,
ただ 骨と ガリガリ、 皮だけで ほんのわずかに 動くばかりとなっていた。

1-074

biini tɔdu. tutaraa~ ”gəə suu samaambaari saari gursəl,
いる、そこに。それから 「さあ おまえたち シャーマンを 知ってる 者たちは、

1-075

xoruksu, əi əiwə, xoruasrı osıri simbiwə čuppal
生き返らせよ、これを、 生き返らせない ならば おまえたちを すっかり

1-076

waaktaraa xodar-ə'-m-də wəndii. tii xəmə xəmə bičin duələni
殺して しまうぞ、」 と言う。 そうして 黙って 黙っていた、そのあげくに

1-077

tii ñawjaka-tanii, tii arčukaačumi tii bičin ñawjaka.
その若者は、 ああして骨で遊んでいた、そうであった、若者は、

1-078

titaraa, xai, tii əksəli-gdə~l tii, xauli ostanovili
それから、 その女たちが そうしてやっどこさ抑えた、

1-079

ĵapaĵuxa ĵəbə-guni, tii-xət ñii um xərəktə
捕まえた、やっど安心するのだ、そこでやっど人がまるで皮だけが

1-080

ĵukə ĵukə ĵapčii~ ğramsani-daa čupal ĵukə ĵukə ĵapčimi
わずかに くっついていて、骨も すっかり わずかばかりが くっついて

1-081

biiwəni tiwa tii dolbo inəĵ tii jaajai
いるのを それを そうして 夜も 昼も そうして 歌ったり

1-082

tii tii jaajai čupal ochered' ilaan əəktə samaandıti.
そうして 歌ったり 全員で 列を作って、三人の女達はシャーマンを行う。

1-083

tii jaajačmaari-dii~ ĵulə inəĵ xərə~ xərə vrodə
そうして シャーマンの歌を歌うが、最初の日にはわずかにわずかに 何だか少し

1-084

tunčuiini, tii, tii dolbo inəĵ tii jaajačmaari
動いた、 そうして 夜も 昼も そうして シャーマンの歌を歌って

1-085

tii xawasi-daa xəmət tii busəsüməəri tii samandamaari
そうして、どんなにか 全力で、そうして 熱心に努力して、そうして シャーマンして

1-086

tii busəsamaar... ili... xai ĵuui inəĵdulə xaulia
そうして 頑張って、 二日目の日に やっどなんとか

1-087

kuŋaluxan. ĵiljan ĵukə~dəə. tii ilii inəĵdu-gdal,
小さな声を出し始めた。 声は ごくわずかに、だ。そうして三日目の日にやっど、

1-088

tii jaajačmaari-dii~, xauli tunčulə wəndə.
そうして シャーマンの歌を歌って、やっどこさ 動いた という。

1-089

tunčuluxən. ğəə tii taraa tıdu-gdal tii ñawjaka
動いた。 さあ そうして それから そこで あの若者が

1-090

didərəə, wənčini-tənii, "gəə agaa~,," wənčin-tənii,
来て 言ったことには、「さあ 兄さん、」と 言った、

1-091

"ñii ujəkini biuxən osmı~, xai, kīçatak iļjulası~,,"
「本当に他の人より 勝って いる ならば、 スックと 立つだろう、」と

1-092

wənčini, "ñii pəjikini tii biuxən osmı,
言った、「人よりも 劣っている、そのよう である ならば、

1-093

tii xai tukiləsi-tannı," wənčin. gəə tıtaraa tii-gdal
そうして 倒れたまんまだろうが。」と 言った。 さあそれから そうして

1-094

tii dılmı, nuktələni gapakalaraa~ xujə muda dılı uikini
そうしてその頭の、髪のを、つかんでから、 九回 頭の上で

1-095

xərəəluxən-tənii. "gəə aja, agaa, agaa," wəndiini,
振り回した。 「さあ、よし、 兄よ、 兄よ、」と 言う、

1-096

"agaa, mąga ñii biuxən osmı kīçatak iļjulası"-m-də.
「兄さん、 強い 人である ならば スックと足で 立つことだろう、」と。

1-097

tıta~raa tii-xət jololoxon. xaulı kīçatak iļjuxan.
それから そこで ぶん投げた。 なんとか スックと 立った。

1-098

gəə tıtaraa, tii, tıdu, tıdu-muk saajuxatı,
さあそれから、そこで、 その時になってやっと 意識を取り戻した。

1-099

gəə tii tii ñii nəuni wəndə, əi, tii naambaanı
さあそう 人の弟は 言う、 この、こうして 彼の方へ

1-100

xorımdamı dičin. xaidu aldu dooldaraa,
生き返らせるために やって来た。 どこで その知らせを 聞いてから、

1-101

trwa dooldaraa, tii, tii duətini didərəə, tii tii əəktəti,
それを聞いてから、その、 端へ 来てから、あの 女たちの所へ、

1-102

uilərəə tii, tii xalaçımı tii bičin-tənii
働いてから その、そうして 待って、そうして いた、

1-103

ɲuiti-dəə xarwa-daa ʒalalɪasi tɪ arčukaačumɪ dolbo inəŋ.
誰にも 何も 話しかけず、ああして骨を投げて遊んでいて、夜も 昼も。

1-104

ɲuiti-dəə xarwa-daa wəndəsi.
誰へも 何も 言わない。

1-105

gəə əsi tɪtaraa tɪdu aagɲɪ xaulɪa ɪʃuxa~n. wəndiini-tannɪ,
さあ今 それから そこで兄は やつとのことで立ち上がった。言うのだ、

1-106

ʔjəbə~, jəbə~, ɲui wəmbuwu mimbi xuraxan-nuu,
「良かった、良かった、いったい誰なんだろう、私を 救ってくれたのは、

1-107

ɲui wəmbuwu mimbi xai, ɪʃuwančɪmɪ-nuu,” wəndiini.
いったい誰なんだろう、私を 立たせたのは、」と言う。

1-108

tɪdu əsi tɪ, xai, ʔagaa, agaa,” wəndiini,
そこで今 彼は、 「兄さん、兄さん、」と言う、

1-109

ʔbii, bii sin nəusi taam-tann-a,” wəndiini.
「私は、私はあなたの 弟 です、」と 言う。

1-110

ʔgəə simbi jaaičaxan əksəl əi, əi ɪlaan əigə tunjasal,
「さあ あなたに シャーマンの歌を歌った女たちは、この、この 三人の 姉妹たちです、

1-111

əi, xau ŋɲi asɪlɪasi-nuu.” v obshshem, na trjox ətix tɪ ɪlaan
この、どの人と結婚しますか、」と。すなわち、その三人の、その 三人の

1-112

əəktəji čupal asɪlaxatɪ ii. gəə tɪtaraa tɪ tɪ bičiti-tannɪ.
女たち 皆と 結婚した、そう。さあ それから そうして そうして 暮らしていた。

1-113

məən balanaa bičɪn-məč očuxa~n.
自分が 以前そうであつたようになった。

1-114

tɪ nəuni-dəə gəə očuxa~n, tɪ tɪ largɲɪ biməəri
その弟とも 一緒になった。 そうして そうして すばらしく 暮らして

1-115

tɪ, uləənʒi biməəri očuxatɪ-tannɪ. gəə ələə-tənii.
そうして 良く 暮らすようになったということだ。 さあ それまで。

1993年3月2日 ブラバ村にて録音
M. S. Duwang氏 口述

2. juə əktə baldaxati
二人の女が 暮らしていた

2-001

gəə, bii, balapti niŋmaamba, niŋmaandii. juə əktə,
さあ、私は、古い 物語を 語る。 二人の女、

2-002

əigəji juə ŋii, juə xurəə aldandunɪ baldaxa.
姉と 二人、 二つの山の 間に 暮らしていた。

2-003

tii juə əktə. bejembə tii waarii tii waarii tii
その二人の女。 獣を そうして 捕って そうして 捕って そうして

2-004

bejenjuji tii waarii. tikəənji bii, daa~ xajilati~
自分達のための獣を そうして 捕る。 それだけで 暮らしている、ダー ハジラッテ

2-005

tii baldumaari-dii tii biməəri-dii, bajilani, mangū
そうして 暮らしていたが そうしていたのだが、 その向こう岸に、大河の

2-006

bajilani xoton bii, tii xotonji, ŋii, omo ŋii,
向こう岸に 街がある、 その街から、 人が、 一人の人が、

2-007

sultaji jidii, ii. gəə, xəçuxə~n, iixə~n,
スキーで やって来る、 さあて、客に寄った、 入った、

2-008

nakandu təxə~n. gəə, tujuxə~ tujumbə anjuxa~n.
煙道に 座った。 さあ、もてなした、 ごちそうを作った。

2-009

určulundii~ xarwa-daa xum určulundii, "gəə," wəndini,
話す、 何でも 全て 話す、 「さあ、」 と言う、

2-010

dəwəə nakandu nəxə~n, tii dəwəə ojolani,
テーブルを 煙道に 置いた、 その テーブルの 上に、

2-011

jepuwə, tis nəxən. tis jəptii, jəptii ii.
食べ物をつぶりと置いた。 たらふく 食べる、 食べる、 そう。

2-012

tii ñawjuanduma æaktə, gasi xoldonjila tæxən, əgəni-guni
その若い方の 女、片方の側の脇に 座った、姉は

2-013

gası xoldonjila tæxən. tii ñawjaka, dəre maludunı
もう片方の側の脇に 座った。その 若者は、テーブルの真ん中の席に

2-014

tæxən. gəə, tii určulundrı~ xarwa-daa xum
座った。 さあ、そうして 話す、 どんなことでも 全部

2-015

určulundrı, məən bičimbəri určulundrı, məən bejembə
話す、 自分達がどのようにしてきたかを話す、 自分達が 獣を

2-016

xarı-daa puliktəmi bejembə waaxambı tuwa určulundrı.
どこへでも 歩き回って 獣を 捕ってきたことをそれを話す。

2-017

gəə, tamı-drı tii určulomı-drı wəndini,
さあ、そうして そのように 話していたが、 言うのだ、

2-018

''gəə, bii-kəə,'' wəndini, ''balanaa saarı
「さあ 私は、」 と 言う、「ずっと前から知っている、

2-019

sun jədu biiwəsi. bii-kəə,'' wəndini,
あなた達がここにいることを。 私は、」 言う、

2-020

''asıjuji gələndəxəmbi-ə,'' wəndini.
「自分の妻となる人を求めて来たのだ、」 と 言う。

2-021

''sii, nəuwəsi, asıjuji japarčar-a,'' wəndini.
「あなたを、妹さんの方を 我が妻として もらいたい、」 と 言う。

2-022

gəə, tii určulundrı~, tii určulundrı wəndini-dəə nəuni tıxalaxa~n.
さあ、そう 話して、 そう 話すと いうのだが、 妹は 同意した。

2-023

əjgəni tıxalaxa~n. gəə, tımana daowu, tii xotombaani.
姉も 同意した。 さあ、明日 渡るべし、その 街の方へ。

2-024

tii mərgən, xotontırı. naamba mərgən gaajumı
その メルゲンの 街へ。 彼女を メルゲンは連れて行くのだ、

2-025

mænbæni, tɪ æktəwə. gə tɪdu aunjuxa~n.
自分の方へ、その女を。 さあそこで泊まった。

2-026

siksə tɪs jəkpi~ určulunčɪ~, saulmačɪxa~n.
夕べにはたっぷり食べた、話した、宴会をした。

2-027

gə əigəni wəndini, 'gə, mæn xajumbɪ bormačuu.
さあ姉は言う、「さあ、自分の持ち物を分けよ。

2-028

xamataani-daa xajumba, mindu kaltani, dəreju~,
どんな 家財道具も、私に 半分を 残す、

2-029

sii kaltani olbɪndɪ.' gə, tɪ-daa aja-guni.
あなたは 半分 持って行く。」 さあ、それで いいのだ。

2-030

gə, tɪ ŋawjaka wəndini. 'gə əsi xoonɪ,
さあ、その若者が言う。「さあ、今 どうする、

2-031

irčumɪ daujumi-tani aja-guni.' gə tuči-də bii,
曳いて 渡ってこそ よいのだ。」 さあ そりも ある、

2-032

ɪɟda-daa bii, gə, ɪɟda, ambaan malxu ɪɟda,
犬も いる、 さあ 犬は、 けっこうたくさんの犬、

2-033

ɪɟda xalɪraa, ɪɟdɟɪ daurɪmɪ, tɪ ŋawjaka, mærgən,
その犬を そりにつけて、犬で 渡る、 その若者、メルゲンは、

2-034

gaajumɪ. gə, əigəni-də daurɪ, provozhai-tani,
連れて行く。 さあ 姉も 渡る、 見送るのだ、

2-035

mæn nəuji. titaraa tɪ dauxani. tɪ daumaari,
自分の妹を。 それから そうして渡った。 そうして渡って、

2-036

ələ isxan. isxanji, tɪ naan xagdunɪ,
もう着いた。 着いてから、その彼の家は、

2-037

daar xagdu, biruu əjəni mapa xagdunɪ daar xagdu.
大きな家、町の長のじいさんの家だ、大きな家。

2-038

gəə, tɪla tooxon, ɪnda ʧupal aʧuktaxa~n ʧupal uiktəxə~n,
さあ、そこに 上った、犬を 全部 はずした、 全部 繫いだ。

2-039

gəə. saaxan. ɪlaan xusə ɲɪɪ, naan, tɪɪ mapa piktəni.
さあ。そこで知った。三人の 男の 人。 彼、 その じいさんの 子供は。

2-040

tɪɪ əktə ɲaaʃaktani, naan uləəsixən əktə ɲaaʃaktani.
その 女の 男の親族、 彼が 好きになった 女の 男の親族。

2-041

gəə, əɭjumi iiwujuxə~n, nakandu təəxə~n,
さあ、手を引いて 入らせた、 オンドルに 座った、

2-042

mapa bii-guni, mama bii-guni, daar mama, mapa.
おじいさんが いるのだ、おばあさんが いるのだ、偉大な おばあさんと、おじいさん。

2-043

''sorodɪɪ,'' ''sorodɪɪ, sorodɪɪ.'' xarwa wəndini.
「こんにちは。」 「こんにちは、こんにちは。」 何を 言うだろうか。

2-044

gəə siksəjuxən. gəə əsi tujumbə anjuwu, tɪs tujumbə anjuɪ
さあ 日が暮れた。 さあ 今 ごちそうを作るべきだ、 たっぷりと ごちそうを作る、

2-045

tɪɪ anjuɪ tɪɪ anjuɪ, taraa tɪɪ dolbonɪ,
そうして 作る、そうして作る、そうしてから その 晩、

2-046

naatɪ saulmaçɪɪ, ɪɲ, ʃəpuu, saulmaçmɪɪ,
彼らは 宴会する、 そう、 食べて、 宴会して、

2-047

gəə tɪɪ urçulundɪɪ, wəndini, ''amaa,'' wəndini,
さあ そうして 話して、 言う、 「父さん、」と 言う、

2-048

''əɲəə, əi baʃɪɪla bii gursəl, juə əktə,
「母さん、この 向こう岸に 住んでいる 人たち、二人の 女性を、

2-049

bii nəuduməɲguwəni, asɪjuɪ ʃapaxambi-a~, '' wəndini,
私は、 その妹の方を、 自分の妻にと 私は連れて来ました、」と 言う、

2-050

''əsi daunjuɪxambi.'' ''gəə xoon tarsi.
「今 渡って戻って来ました。」 「さあ どう しろというのだ。

2-051

txalamı osmı aja-guni, txalamı osmı japawu-guni," wəndini.
同意したのなら 良いのだ、同意したのなら 娶るのだ、」と言う。

2-052

"sin xagdusı paajı bii, mun mun xagdusı paajı bii,
「おまえの家は 別にある、我々はめいめい自分たちの家が別々にある、」と。

2-053

tu əktə gramata. kaalmajı əktə.
その(夫の家にいる)女、花嫁となる女は、美人の女だ。

2-054

tu pundajuji-tama, tu ŋawjaka, tu mapa pun... piktəni əktə.
その(夫の家の)娘は、その若者の、そのおじいさんの娘の女は。

2-055

gəə, tu určulundı, murčixən, "gəə bii əsi, tu
さあ、そう話して、考えた(渡って来た妹の方は)、「さあ 私は今、この

2-056

əktəwə bii japar, tu əktəwə japar." vot vidish' kak, əsi
女を 私が娶る、その女を 娶る。」『ほうれ見て御覧な、どんなにか、今

2-057

wəndii doola oŋbor, gəə, tu nəuduməŋguni wəndiıdu,
言っているそばから忘れてしまうよ。』さあ、そうして妹の方が 言う時に、

2-058

əigəwəni uzhe japaxati, asıjuji.
その姉(の方)をすでに彼らが娶ったんだった、自分の妻に。

2-059

əi asıjuji japaxan, asıjuji japaxan. gəə, xodaxa~n,
こっちが自分の妻を娶った、(あっちも)自分の妻を娶った。さあ、終わった、

2-060

saulmačıxa~n, gasan ŋııı čupal dıčı~, ŋıı tıs malxu,
宴会をした、村の人々は皆来た、人はすごくたくさんだ、

2-061

saulmačıxan. gəə ŋıı əktəwəni japawuxa~n. gəə, taraa
宴会をした。さあ人はその女を娶った。さあそれから

2-062

əjgəni, baatrı ŋııəxən, ŋııəriini, nəuni-dəə ŋııəxən.
姉は、外へ出た、出ると、出て来た、妹も出て来た。

2-063

"ənejee, nəku xamı tu tırsı-kaa," wəndiini.
「ああ、妹よ、どうしてこんな風にするのか、」と言う。

2-064

”sii æktəsi biəsi-kəə,” wəndiini. ”xaŋjuŋi asŋjuŋi gələi,
「あなたは 女性 じゃないの、」と言う。 「何のために 自分の妻を 求めるの、

2-065

xaŋjuŋi asŋjuŋi gələisi-kəə,” wəndiini.
何のために 自分の妻を 求めるのよ、」と言う。

2-066

”əgəə, xəmə bisuru,” wəndiini. ”xarwa-daa xarwa-daa
「姉さん、黙って いてよ、」と言う。 「何も、 何も

2-067

əji wəndərə,” wəndiini. ”bii mənə saaru, bii mənə
決して 言わないで、」と言う。 「私は 自分で わかっているから、私は 自分で

2-068

saaru-a,” wəndiini. gəə, tii iŋxən, əigəni
ちゃんと わかっているんだから、」と言う。 さあ、そうして また 家に入った、姉は

2-069

soŋgəi, ilamsi. ”əgəə xaŋuree,” wəndii, ”xəmə bisuu,”
泣く、 恥ずかしくて。 「姉さん、うるさいわ、」と言う。 「静かに して いてよ、」と

2-070

wəndii, ”xarwa-daa əji wəndə. bii mənə saaru.
言う、 「何も 決して 言うな。私は 自分で わかっているから。

2-071

bii tmana tıları tmana daujuŋi, ilalta bipi, əwəsi daujuŋi.”
私は 明後日、 明日 渡るわ、三日 経ったら、ここに 渡って 戻って 来る。」

2-072

gəə tii saulmaçixa~n, tii urçulunçı~,
さあ そうして 宴会をした、 そうして 話した、

2-073

tis largmji urçulunçı~, gəə tii əktəbəəni auŋjandar,
すごく よく 話した、 さあ その 女の方へ 寝に行く、

2-074

tii patalambaani, tii, kaalmağa. tutaraa siksə tooraa
その きれいな 娘の方へ、 その、美人の方へ。それから 夕方 上って、

2-075

toogbuxa~n, xagdunı doolanı ŋəə~xunə bii tii əktə biini
オンドルに 上った、家の 中は 明るい、 その 女が いる、

2-076

largmı. iixə~n, tii əktə-dəə soromsıxa~n, naamaŋdaxa~n,
すて きた。 入った、 その 女も 挨拶をした、 抱きに行った、

2-077

dərəgbə alausumaçıxa~n. gəə, jədu tı auñjar. gəə, tı
顔を お互いにキスし合った。さあ、そこに そうして 泊まる。さあ そうして

2-078

gursəl əju... əjuiti. ñaajaktarı-daa əjuxə~n,
人々は また下って帰って行った。男の親戚たちも 下りて帰って行った、

2-079

daamanguji-daa əjuxə~n. tutaraa tı dolbo auñjaxa~.
おじいさんも 下りた。それから そうして 夜 泊まった。

2-080

tutaraa wəndiini, gəə, akpandı ələə, gəə səktuxən,
それから 言う、 さあ、横になる、もう、さあ 布団を敷いた、

2-081

"anda~, " wəndiini, "anda~ puñin," wəndiini,
「友よ、」と 言う、 「友たる プジンよ、」と 言う、

2-082

"min akpambudaji paañjkaa səktiruu," wəndiini,
「私が 横になるためのは 別に 敷け、」と 言う。

2-083

"paañjkaa səktiruu," wəndiini. "bii əsi puje mənđəji-ə," wəndiini,
「別に 敷け、」と 言う。 「私は今 怪我が 体中にある、」と 言う、

2-084

"mimbi mapa pujumbuxəni," wəndiini.
「私を クマが 怪我させた、」と 言う。

2-085

"bii əsi ılaan... əsi tımana daujupı ılalta bimi dauju,"
「私は今 今日 明日 渡ってから 三日 経ったら また渡って戻って来る、」と

2-086

wəndiini. gəə, aja-guni, xañj-la-kaa. saulmaçıxa~n,
言う。 さあ、良いのだ、それならそれで良い。宴会もした。

2-087

jəkpı, ələə, urçulunçı, gəə akpançm. tı ñawjaka,
食べたし、もう、話もしたし、さあ 横になった。その 若者は、

2-088

akpambudarı xangıla... tozhe səktixə~n. naan mənən səkpun
横になるために 彼女もまた 布団を敷いた。彼女は 自分の 布団を

2-089

tıdu səktixə~n. taraa tı auñjaxa~n. tımana tımar bala təəxən.
そこに 敷いた。それから そうして 泊まった。次の日 朝 早く 起きた。

2-090

''gəə, bii ələə ŋənəi-jə,'' wəndii, ''ələə.''
「さあ、私はもう行くよ、」と言う、「もう。」

2-091

əgənəəbəəni əuji, tawasi kiŋ ŋənəi əuji. ''nu ladno,
姉たちの方へ 下りる、そこへ まっすぐ行く、下りる、「さて、いいでしょう、

2-092

aja-guni,'' wəndiini. ''bii ɪlalta bimi əusi dauju,''
いいのよ、」と言う。「私は三日 経ったらここへまた渡って来る、」と

2-093

wəndiini, mæn asɪɪ. ''bii asɪjuɪ baaxa~n.
言う、自分の妻へ。「私は自分の妻を得た。

2-094

sii ədɪjuɪ baaxa~n. ələə-guni. gəə, jəkpii, xodaxa~n.
あなた(姉さん)は自分の夫を得た。十分だわ。」さあ、食べた、終わった。

2-095

tiɪ gursəl provozhaxatɪ~, aldanɪ~ provozhaxatɪ,
その人々は見送った、途中の所まで見送った、

2-096

xai sultajɪ, puŋam ŋənəxə~n daujuxa~n. gəə,
スキーで、すばやく雪を蹴散らして行った、渡った。さあ、

2-097

daujuxa~n naatɪ, naatɪ jədu biini-guni, jədu bii. əi duwə,
渡った、彼らは、彼らはここに居残っているのだ、そこに居る。この端に、

2-098

naa duwəni, kadal, maŋgokɪ, maŋgudu lukčuum biini.
地面の端の所に、崖がある、大河に沿って、大河に まっすぐ突っ立ってある。

2-099

xooŋɪ~daa daujuxan, xagdun too tiɪ ičəptiini ələə.
どうにか 渡った、家が ほうれ そこに 見える、もう。

2-100

tauduu~ tiɪ, tiɪ əi duwəji, mama əuriini,
そこに、その、その、この端の所から 一人のおばあさんが 下りて来る、

2-101

mokčom bii mama əuriini. xokɪ~ xoljoxo, m.
腰の曲がった おばあさんが 下りて来る。カラカラに干からびた様子だ、うむ。

2-102

''ənejee~ piktəji-ə,'' wəndiini, ''xau, xausɪ pulsixəsi-kəə,''
「おいおい 娘よ、」と言う、「どこへ、どこへ行ってきたのか、」と

2-103

wēndiini. "bii mæen asījuji gələŋdičəmi puliktəxəmbi."
言う。「私は自分の妻を 求めに行つて、帰つて来ました。」

2-104

"gəə, gəə minji waalčarsu, borot'sjalami."
「さあ、さあ 私と 戦おう、 取っ組み合いをして。」

2-105

"gəə, ənənə~ əñəə," wēndiini, "xoon, xoon tai borot...,
「ああ、あれあれ、母さん、」と 言う、「どうやって、どう するの、戦うつて、

2-106

sii tis xoljoxo~n, bii tis kusunču."
あなたは すっかり 干からびてしまったようなのに、私は すごく 強いわよ。」

2-107

"aja," wēndiini, "aja," "əji ɣələčirə," wēndiini.
「よい、」と 言う、「大丈夫、」「恐がるな、」と 言う。

2-108

π~ tami-dii, tii ñawjaka, tii əəktə jagaxalas taraa waalčar~,
うむ、そうして、その 若者は、その 女は ガバツとつかみ合つてから 戦う、

2-109

waalčar, tii waalčar. tami-dii xaunčak ɣənəxəni. vse,
戦う、 そうして 戦う。 そうして いて ハツタリと 気を失つた。それまで、

2-110

xaxa, xaxa, xarwa-daa saarasi. tutaraa~ tii mama,
どうしたんだか、どうしたんだか、何も わからない。それから その おばあさんは、

2-111

mæen duwəti mæen duwəŋgubəəni toobujuraa,
自分の 岸辺の所の端へ、自分の 岸辺の端の方へ 持つて上つてから、

2-112

mæen joloma xagdun dootini iiwujuərəə, naambani čuppal
自分の 石でできた家の 中へ 運び入れてから、彼女の服を すっかり

2-113

ačuxan, čupal xaxa~n. naambani anjujuni,
脱がせた、すっかり どうした。彼女を 作るために、

2-114

ñii opami anjujuni. čuppal, xərəktəni aldankini
人の体の形を 作り変える。すっかり、皮膚の 間に沿つて

2-115

čupal čiiiriktə, xar-daa xətəəsi. əi jəduni guči
すっかり 青銅で、何者も かなわないようにだ。この ここの (股の) 所にさらに

2-116

anǰuxa~n. vidish' kak, soǰsop tæxæn. "əneǰə~ daada,
(男性器を) 作った。 さあごらん、 スックと 起き上がった。「母さん、 義母さん、

2-117

əñə bii xarǰdamı iixəmbi." "ǰusaa xamı, sii."
母さん、 私は 何をしに この家に入ったのか。「知らないね、 なんでだか、 おまえが。」

2-118

"xar-daa moçoulı," jəwə tı ǰapursıı, "xar moçoulı
「何だか 邪魔なものがある、」とそれを そうして 触ろうとする、「何か、 余計な物が、

2-119

çto eto takoe xar-kəə," muruçiini xar, tı-daa jədu
何これ、 何だ、」と 考えている、 おばあさんが ここに

2-120

balduwançmı bəsi-kəə tı, uzhe baldaxan.
生えさせたんじゃないのか、 そうして、 もう 生えていた。

2-121

gəə, xusə oçmı-guni ələə. ñawǰaka tıs largı ñawǰaka.
さあ、 男に なったのだ、 もはや。 若者だ、 すごく すてきな 若者だ。

2-122

xar-daa xətəəsini ñawǰaka. gəə, ǰəptii~,
何者も かなわないような 若者。 さあ、 食べる、

2-123

tı mamadu-daa biini bilə. çto to est',
その おばあさんの所にあるんだろう、 何か食べ物がある、

2-124

ǰəpwəñm. "gəə, ǰənuu ǰənuu ǰənuu məən xagduǰkı, tımana tılanı
食べさせた。「さあ、 行け、 行け、 行け、 自分の家へ、 明 後日

2-125

daǰǰulası-ma. tıs baaraçmı~ jəwə ǰapursıı baaraçıı,
渡るのだろう、」と。 とても 喜ぶ、 それを 触って、 喜ぶ、

2-126

gəə, ǰənəxə~n tuju, mənə anǰuxanǰı tujumbə anǰuxa~n,
さあ、 行った、 ごちそうを、 自分で 作った、 ごちそうを 作った、

2-127

malotı tuju, xarwa sugduxə~n,
真ん中の席の所へ ごちそうを、 (神への感謝の捧げ物として) 捧げた、

2-128

taktubaanı tooxo~n, taktu malotı sugduxə~n. çupal tıkı
倉の方へ 上った、 倉の 真ん中の席の所へも 捧げ物をした。 あらゆる所に

2-129

sugdičixəni, tutaraa tii kəsi gələxə, tii kəsi gələi.
供物を捧げた、それから そうして 幸運を 祈った、そうして 幸運を 求めて 祈る。

2-130

tutaraa juəlbə auŋjaxa~n. tretij den' byl, ılaan inəŋ očimɪ ələə.
それから 二日 泊まった。 三日目と なった、 三日 経つ、もう。

2-131

''gəə, əñəə, bii daurn,
「さあ、母さん、私は 渡ります、」と（言う）、

2-132

naati čooŋkoni, daari čooŋkoni. siun tii garpami,
彼らの所の 天窓がある、大きな 天窓。 太陽の光が そうして 射し込んで、

2-133

čooŋko. trwa, čooŋko xoldo... xarduni, ujeləni, xagdu,
天窓。 その、天窓の どこに、 上に、 家の、

2-134

xarduni, uksara sova, daari uksara simču~ uksara, tdu
そこに、フクロウ、フクロウ、大きな フクロウが、シ〜んと フクロウが そこに

2-135

təəsiini. anmani kutax kutax kutax uisiini. ''amaa~, ''
とまっている。その嘴で コトコト、コトコトと 音を立てる。「父さん、」と

2-136

wəndiini, ''jəkpici-sənii, wəndiini, ''aja~, ''
言う、「お食事なさりたいのでしょう、」と 言う、「どうぞ、」と

2-137

wəndiini, ''iirəə, bii dərə ojolanı čuppal
言う、「入ってから、私が 机の上に すっかり

2-138

ǰəbdəsi nəərəə, tii daurn-ja, wəndiini. gəə,
あなたのお食事を 置いてから、そうして 渡って来て下さいな、」と 言う。 さあ、

2-139

tuki~, čupal məəpi bargajıxan, čupal bəjeji largmji
そうしてから、すっかり全部 自分の 身支度を整えた、すっかり 自分の身を すてきに

2-140

bargajıxan. gəə, inəŋ tokon ələə isxə. xarwa dauwu,
支度した。 さあ、正午に もう なった。何を持って 渡る必要があろうか、

2-141

bəje-məl dauvan-daa aja-guni. gəə tii dauxa~.
身一つで 渡った、 よいのだ。 さあ そうして 渡った。

2-142

”gəə ambaan guči pədəm dauruu,” wəndii, tii uksara
「さあ 結構あるから また 気をつけて良く 渡れ、」と言う、そのフクロウは、

2-143

wəndiini, sova wəndiini. ”əji əji ŋuiwə-dəə
言う、フクロウが言う。 「決して 誰をも

2-144

xarwa-daa əji ŋura, uləən dauruu,” wəndiini.
何をも 気にするな、良く 渡れ、」と言う。

2-145

”naati xoon wəndiini, xoon tɪlati, naati xoon wəndiini,
「彼らは 如何様にか 言えば、そのように することだろう、彼らは 如何様にか 言えば、

2-146

xoon tɪl... tii, tɪdu baldɪlati. xajumbi-daa
そのように、そうして そこで 暮らすだろう。家財道具も

2-147

ŋaanjulasu-ma,” wəndiini, ”xajumbi. a bii əi xagdumbasi
取りに来ることだろう、」と言う、 「自分の家財道具を。 私は この 家を

2-148

tii ətəwuri.” gəə, jəkpɪi xodaxaa~l, xajumbari čupal
こうして 見張っているよ。」さあ、食べるのも 終わった、自分の支度も 全て

2-149

barɟajxaal əsi sulta tətupi bar puŋam daujuxan.
準備した、今 スキーを 身につけて すかさず すぐに 渡った。

2-150

dauxan. əigəni uzhe, ačaal... ačaalamɪ. ičəxən.
渡った。 姉は もう、 迎えに出て来ている。見た。

2-151

tutaraa əsi ka~p naamančini, songomi. ”əgəə xarwa
それから 今 ガバツと 抱きしめた、泣いている。「姉さん、何を

2-152

mudalası-kaa,” wəndini, ”xarwa gələmi songorsi,
そんなに騒ぐのか、」と言う、 「何を 求めて 泣くのか、

2-153

əji songoroo,” wəndini. ”japaɪčası,
泣くな、」と 言う。 「触りたければ、

2-154

min saaljawaji, jəpuu, gəə pərgəmi jəpuu,” tutaraa tii
私の、股間を 触れ、 さあ 試しに ・め、」と。それから そうして

2-155

xarwa, pəruugbi ačuxan. ojojo~ uzhe jədu baldaxan, ii.
何を、ズボンを脱いだ。あれあれもうこの股の所に生えていた、そう。

2-156

tutaraa, əigə tis baaračii-guni. xusə očmi, ii,
それから姉はひどく喜ぶのだ。男になっている、ああ、

2-157

xusə očmi-guni. gəə əsi xoon. tii əəktə, tii əəktə
男になっているのだ。さあ今どうする。あの女、あの女(嫁)の

2-158

tii iirii-guni, tii iixə~n. naamaŋdaxa~n, dərəgbəəni
そうして家に入るのだ、そうして入った。行って抱いた、顔の方へ

2-159

alausimačixaal, gəə nakandu təəxən. tii əikəji xai,
キスをし合った、さあオンドルの上に座った。そうして姉と

2-160

tujumbə anjuxaal-daa jəptii dərəndu təəjuxən.
ごちそうを作った、食べる、机に座った。

2-161

''gəə, əsi amaanaabaani ŋənəwu,'' wəndini,
「さあ、今父さんたちの方へ行くべきだわ、」と言う、

2-162

gəə tila tawasi ujalumi. gəə tii jəkpədu, daari xagdu.
さあそこに、そこへお客に行く。さあそうしてそばに、大きな家がある。

2-163

gəə, juə ŋii, əljəməri~, tii xagduntii iixən, əigəni-dəə
さあ、二人、手を取り合って、その家へ入った、姉も

2-164

ŋənəxə~n, əigəni tidu biini-guni, ədiji baaxan.
行った、姉はそこに暮らしているのだ、自分の夫を得た。

2-165

əigəni tis baaračimi, konečno baaračimi-guni
姉はひどく喜ぶ、もちろん喜ぶのだ、

2-166

xusə ŋii očuxan. gəə. guči dərə anjui
男の人になったのだから。さあ。また机を用意する、

2-167

dərəwə nəəxə~n, daari dərəču daari dərəwə nəəxəni,
机を置いた、大きな机を持っている、大きな机を置いた、

2-168

gəə tujumba anjuwuxa~n. gasan ŋɪwani čupal xəərsixə~n.
さあ ごちそうを 作った。 村の 人を 皆 呼んだ。

2-169

xəərsii, mənə mənə saari gursəlbə xəərsixə~.
呼ぶ、 めいめいそれぞれが知っている人たちを 呼んだ。

2-170

tɪdu tujumba anju~. tɪdu dɪrga,
そこで ごちそうを作る、 そこには たくさんの種類のごちそうだ、

2-171

gəə xamataa kəwəni.
さあ どんなごちそうだってないことがあるか。

2-172

araki bii, gəə araki jawji araki, manju araki,
酒がある、さあ 酒、 中国の酒、 中国の 酒、

2-173

jawji araki. sanja məndə tɪdu nəəxən, jashshik,
中国の酒。 箱 丸ごと そこに 置いた、 箱ごと、

2-174

məndə tɪdu nəəxən. gəə tɪ əsi towa supučumi,
丸ごと そこに 置いた。 さあ そうして 今 それを 注いで、

2-175

əi-čii~ bii rjumkati supu... tɪ
このぐらいの大きさの 杯へ 注いで、 そうして

2-176

tɪ buuktəmi tɪ buuktəmi tɪ buuktəmi
そうして 注いで回って、 そうして 注いで回って そうして 注いで回って

2-177

ŋɪsaltɪ čupal umrwaančini. gəə, ŋɪsal wəndiiti-guni,
人々に 皆 飲ませた。 さあ、 人々は 言うのだ、

2-178

”largɪ~,” wəndiini, ”largɪ ŋawjaka~, xəəktəni
「すばらしい、」と 言う、 「すばらしい 若者だ、 その柔らかい肌を

2-179

ičəmi-dəə, xarwan-daa ičəwəsi, tɪs largɪ ŋɪ,”
見ようとしても (全身鋼のようで) どこにも 見えない、 すぐくすてきな 人だ、」と

2-180

wəndiini. ŋɪ wəndiini. gəə tɪ əsi tɪ
言う。 人々が 言う。 さあ そうして 今 そう

2-181

wəndiini-guni tui, tui ńawjaka, tui mǝrgen.
言うのだ、そう、その若者、そのムルグンのことを。

2-182

mǝrgen očmri-guni, əsi. ʔgə, bii, xawası-daa ɲənəi-dəə kəwə,
ムルグンとなっているのだ、今。「さあ、私は(今や)どこへ行くこともない、

2-183

əi, əsi ələə ʔapaxambi əəktə, xagdondoni tui baldai,
この、今もうつかまえた、女(妻)を、家にそうして暮らす、

2-184

tui bii. tui biləmbi~, ʔ wəndiini,
そうしている。そうして暮らす、」と言う、

2-185

ʔxajumbri taira bii xajumbri čupal gaajuri~, jədu bii.
「自分の家財はあちらにある家財は全部持ってくる、ここにいる、

2-186

ədəkəənji gəsə, sunji gəsə baldai. ʔ vot tui wəndiini.
お義父さんと一緒に、あなたたちと一緒に暮らす、」とほうれそう言う。

2-187

gəə aja-guni. gəə ələə xodaxa~n, pakturaanʔuxan, siksejuxən dolbo.
さあ良いのだ。さあもう終わった、暗くなった、日も暮れた、夜だ。

2-188

tutaraa tila aunʔuri, tutaraa, timari~ bala təəxən.
それからそこに泊まる、それから朝早く起きた。

2-189

čupal bargajrxan taraa xarxan kəŋgur kəŋgur ɲənəxən.
すっかり全部身支度した、それからどうした、パツともう見えなくなって行った。

2-190

moolčotri~ tooxon. bejen poktoni tis malxu.
森へ上った。獣の足跡はすごくたくさんだ。

2-191

tooxon xai goro. tos, uzhe umumbə waaxa~n.
上った、何の遠いことであろうか。まっすぐにパツともう一匹を獲った。

2-192

tutaraa~ tuwa əuwuʔuini irčumi əuwuʔuini
それからそれを下ろして来る、引きずって下ろして来る、

2-193

tutaraa, tui əuwuʔuxəni. tui daar xagdoni
それからそうして下ろして来た。その大きな家、

2-194

tii ədəkəəmbi əñəkəəmbi xagdunı učəni kiraatını əuwujuxən,
その義父と 義母の 家の 戸口に 運び下ろして来た、

2-195

tutaraa iixən. "amaasal, əñəsəl," wəndiini,
それから 入った、「お義父さん、お義母さん、」と言う、

2-196

"bii, xarwa-nuu əuwujuxəmbi-ə," wəndini,
「私は、何だか 運び下ろして来ました、」と言う、

2-197

"duisi tookpočixambı, "xar əuwujuxən,"
「山へ ちょっと上って来ました。」 「何を 運び下ろして来ましたんだ、」と、

2-198

gəə tii čupal ñixən, xar aluu
さあ そうして 皆 出て来た、 ああなんてすごいことだ、

2-199

bejen uzhe tıdu waaxan bejen. xar baaraçii.
大型獣が もう そこに 獲って来てあった、 獣が。 なんと 喜ぶ。

2-200

xar aluu baaraçii, tii ulsə vse nantani ačuxan.
なんと すごく 喜ぶ、 そうして 肉を、 全ての 皮を 剥いだ。

2-201

gəə, "ənənə~," wəndiini, "xodu, gəə xodəjuji bakaxambı,"
さあ、「あれあれ、」と言う、「真の娘婿、さあ 娘婿を 私は得た、」と

2-202

tutaraa, tıdu mapa wəndiini, tii ılaa ñawjaka-daa biini.
それから、そこで おじいさんは 言う、あの三人の若者も いる。

2-203

gəə, tii bormaçixa~n, otıtaka otıtaka gasan ñırdunı
さあ、そうして 分配した、 ちよつとずつ ちよつとずつ 村の 人々に

2-204

buuktəxə~n ulsəwə. tawançı tii biçi.
分け与えた、肉を。 それから は そうして 暮らしていた。

2-205

tii baldomı-dıı~, tii ələə, burtıı ələə tii
そうして 暮らしていて、そうして もう、すつかり もう そうして

2-206

tii oçıı. əsi xoon taxan. əsi təwəji ɲaanjuı.
そうなる。 今 どう したか。 今 自分の荷物を 取りに行く。

2-207

ʃakpu ɲda, naan tučɪni, tunʃaʃi bəgdi tuči.
八匹の犬、そのそりは、五本の足があるそりだ。

2-208

tiʃi daurni, əigə-dəə daurni. ausm-daa daurni.
それで渡る、姉も渡る。義兄も渡る。

2-209

a tɪ juə uzhe eto ausi eto ausi ostat'sja... oboix.
いやその二人はもう、この義兄、この義兄は残った、二人共だ。

2-210

gəə xoon. təwəni čupal gaajoxan. 'ajaji ʃaila
さあ どうする。荷物を すっかり 取った。「良い 小舟が (あるのは)

2-211

bijini," wəndiini, 'aja, ʃua ɲaanʃur-daa aja, ɲəŋŋə
そのままにしておけ、」と言う、「よい、夏に 持って来れば 良い、春に

2-212

ɲaanʃur-daa aja ʃarwa. ajanɪ bii."
持って来ても 良い、舟は。大丈夫だ。」

2-213

xajun čupal daaʃur. bəičuwu xajun, xamataani-daa xajun
家財を すっかり全部 渡す。 狩りをする 道具、 どんな 道具だって

2-214

čupal biini. ɲui gida ɲui xamataa ɲui ʃabdɔni
全て ある。 誰の 槍だって、 誰の どんな 誰の 弓だって、

2-215

ɲui xai čuppal jom biini, tətəə-dəə čuppal jom biini,
誰の 何だって 全部 ぎっしりと ある、 服も 全て ぎっしりと ある、

2-216

čupal daaʃoxan. gəə, tawanči tɪ biči~
全て 渡した。 さあ、それからは そうして 暮らしていた、

2-217

largmji tɪla baldaxatɪ uləəŋji bal... tamɪ-dɪr~
すばらしく そこで 暮らした、 良く 暮らす、 そうしていて、

2-218

tɪ asɪni, ələə uzhe xəmdələ piktə est', piktə
その妻は、もう もう お腹に 子供が いる、 子供が

2-219

bii, ələə bakai piktə. ələə ələə osɪn ixnij
いる、 もう 生まれる、 子供が。 もう、 もう なる、 彼らも

2-220

uzhe god uzhe. gəə, ələ ələ, xaxa~ ələ-də ələ-də
もう一年近くになっている。さあ、もうすぐ、どうした、今にも もう

2-221

xarwa anjuxa-nuu. zemljanka xarwa, taktowa anjuxa-nuu
何を 作ったのか。半地下式土小屋だか何かを、倉を 作ったんだか、

2-222

ili xagdumba anjuxa-nuu. tu xagdundu, tis largi
もしくは家を 作ったんだか。その小屋で、とても すてきな、

2-223

otru nuucikəən xagdu, tıdu piktəwə bakaxan. iiwujuxən.
とっても小さな 小屋、そこで 子供を 産んだ。家に運び入れた。

2-224

ñıgmalar piktə xar gorojını urəini.
民話の中の 子供だから、何で 長いことかかって 育つだろうか。

2-225

kazhdıj den' urəini-guni. ambaan daar očını ələ.
毎日 育つのだ。 けっこう 大きくなっている、もう。

2-226

god, uzhe um aňandu bii. daar ambaan daar.
一年、もう一年に なる。大きい、けっこう 大きい。

2-227

ilaan aňan bimi, bejembe-də waa... xarwa, beičiku-də
三年 経って、大型獣も 獲るし、何を、 獣も

2-228

beičii~ očını, tu piktə. čupal saarını.
狩猟するようになる、その 子供は。 すっかり何でも知っている。

2-229

tamı-dır~ wəndiini, "amaa~," wəndiini,
そうして、言う、 「父さん、」と 言う、

2-230

"bii ɲənəičəi-jə," wəndiini. "əi siun tukıjını kaltaajrı,
「僕は 行きたい、」と 言う。 「この太陽が 沈む 方向へ、

2-231

tawası ɲənəičəi," wəndiini. "bii baaçındaçar," wəndiini.
あっちへ 行ってみたい、」と 言う。 「僕は 会いに行きたい、」と 言う。

2-232

sorevnovalımı baaçındaçar," wəndii.
力比べしに 人に会いに行きたい、」と 言う、

2-233

”taja ñimi ñimi tis ɲəələpsuli gursəli-ə,” wəndiini.
「あちらの人は、そいつらは、ひどく恐ろしい者たちだそうだ、」と言う。

2-234

”jəgdə məgdə didiini. tɪ jəgdəwə, bii dabdɪŋdar~,” wəndiini.
「火事が周り中から向かって来る。その火事を僕は倒しに行くよ、」と言う。

2-235

əñə songoi ama songoi, ”baɪbaɪ, baɪbaɪ,” wəndii,
母親は泣くし、父親も泣く、「ダメだ、ダメだ、」と言う、

2-236

”bɪjiti, bɪjiti, əji-lə,” wəndii.
「そんな奴らはそのまま放っておけ、行くな、」と言う。

2-237

”aja ɲənei, aja ɲənei,” gəə ɲənəwu, xoon taisu.
「大丈夫、行くよ、大丈夫、僕は行くよ、」と。さあ、行くことになる、どうする。

2-238

daar mapa-daa wəndii, ”ɲənəjini~,” wəndiini,
大きなおじいさんが言う、「行かせよ、」と言う、

2-239

”aja, məəpi saara-tani, tɪ piktə xərəktə čupal
「よい、自分でわかっているのだから、その子供の皮膚はすっかり

2-240

sələ-məəč biini. tɪ ñawjaka. tɪ piktəni. amni-daa takoj.
全部鉄のようである。その若者は。その子供は。父親もそうだ。

2-241

gəə, tɪ waalčami tɪ ɲənəxən tɪ. xaiki
さあ、そうして戦いに そうして行った、そうして。どこを通過

2-242

ɲənəxə-nuu xaiki ɲənəxə-nuu ɲui-dəə ičəmi-dəə kəwə.
行ったんだか、どこを通過して行ったんだか、誰も見えもしない。

2-243

puñalılı puñalılı tɪ ɲənəxən. dəgdəmi ɲənəxə-nuu
疾風の如く竜巻の如くそんな風に行った。空を飛んで行ったのか、

2-244

xoon ɲənəxə-nuu, ɲui-dəə saarasi. ɲənəxən tɪ piktə.
どうやって行ったのか、誰もわからない。行った、その子供は。

2-245

ələə isiini, taɟi jəgdə əi-məət tɪ didii naantni.
もう着く、そこからは火事だ、このように そうして来る、彼に向かって。

2-246

ojojoo, ɲəələpsuli. juə ɲaala əi-məət tɪ əwrixən, tɪsɪ, tɪsɪ,
ああ、恐ろしい。両手をこのように、こうして上げた、そっちへそっちへ

2-247

ɲənəwənçi. əi ɲaala tɪsɪ ɲənəwənçi.
行かせた。(もう一方の)この手をこっちへ行かせた。

2-248

ʒəgdə čimčaram ɲənəxən. ni ʒəgdə net nichego net.
火事は静かになった。一つの火事もない、何も

2-249

solnce solnce bii. bii. vot əldəŋgə. tɪs əldəŋgə.
太陽だけが、太陽がある。ある。ほうれ不思議だ。とても不思議だ。

2-250

tutaraa xamar tɪ ʒiʒuxə, dabdaxa, tɪ ɲim dabdaxa. xoton
それから後ろへそうして戻った、負けた、向こうの奴らは負けた。街を

2-251

məŋdəə buuxə tajaʒi. biruu məŋdəə buuxən.
丸ごとくれた、そこから。町を丸ごとくれた。

2-252

mənəə, irami, maŋgu mənəə, iramaari xoon tamaari.
自分で、運んで、大河を自分で運んだ、どうやってか。

2-253

taraa tɪ mənəə baʒa kaltaajila mənəə aagbi bəsuntini.
それからそうして自分の向こう岸の側に、自分の兄の土地へ。

2-254

tɪla biruuwə anʒuxan, daari biruu očmi. tɪ piktə tɪ baldaxan.
そこに町を作った、大きな町になる。その子供はそうして暮らした。

2-255

largi. amiri-daa tɪ əəktəʒi, naan, tɪ piktə əŋjini,
すばらしく。父もその女と、彼の、その子供の母親と一緒に、

2-256

tɪ tɪ bii. "xaali-daa dauʒula-ma~, " wəndiini,
そうしてそうしている。「いつか渡るのだろう、」と言う、

2-257

"naa mənəə baa, mənəə naati, mənəə baldaxambi naati,
「土地へ、自分の地、自分の土地、自分の生まれ育った土地へ

2-258

dauʒulasi-ma, xoon taisu." gəə tɪ dauri~,
渡るのか、どうするのか。」さあそうして渡る、

2-259

”gəə əsi-lə xawasi-daa xawasi-daa əji ɲənərə,” wəndiini piktəti.
「さあ今 どこへも どこへも 行くな、」と 言う、 子供へ。

2-260

amaa-daa sagdanjuxa~, ”gəə sii-dəə, əñəmusi-dəə sagdanjumi OSI.
父も 年老いた、 「さあ おまえも、おまえの母さんも もうけっこうな年になる。

2-261

xawasi-daa əji ɲənərə. ələə, kaukaa kaukaa bii,
どこへも 決して行くな。もう、じっと じっと している、

2-262

məən bejen waarii mənəə waarii, məən sugdata waarii mənəə waarii,
自分の 獣を 獲る、自ら 獲る、自分の 魚を 捕る、自分で 捕る、

2-263

tu taruu,” wəndiini, tu baldaxati
そうしろ、」と 言う、 そうして 暮らした、

2-264

tu gursəli tu baldumaari tu uləñji tu bičiti, largi.
その 人々は そうして 暮らして、 そうして 良く そうしていた、 すばらしく。

2-265

xoton bii-guni xoton xamataa kəwə.
街で あるのだ、 街とならば 何だって 無いことがあるうか。

2-266

xamataa mədəə tu, xarwa, nəpultə waami,
どんな ニュースだってある、 そうして、 何を、 毛皮獣を 獲って、

2-267

tu xudasii, tis largıñji, bajan, tis bajanji baldaxan,
そうして 売る、 とっても すばらしく、 金持ちに、 すごく 裕福に 暮らした、

2-268

tu bajanji baldaxati. uləñji bii, tis uləñji
そうして 裕福に 暮らした。 良く いる、 すごく 良く

2-269

biči, i largıñji biči, i tis, čupal largı oçmi.
暮らした、 で、 すばらしくいた、 で、 とても、 全て すばらしく なる。

2-270

vot tak i vse.
ほうれ このとおり、 で、 終わり。

1993年8月3日 ブラバ村にて録音

M. S. Duwang氏 口述

3. um mapa um mama baldaxati
一人のおじいさんと一人のおばあさんが暮らしていた

3-001

daa~ xajilatiri~ um xuræen juæ xuræen aldalani, um xagdu
ダー ハジラッテ~, 一つの山の、二つの山の間に、一軒の家が

3-002

xæwəjəjæ~ baldaxan, 'gæ,' tɪdu um mapa um mama.
ど~んとあつて住んでいた、[さあ]そこに一人のおじいさんと一人のおばあさんが。

3-003

piktəni um æktə, patalan. 'gæ,' gæ, tɪ
その子供は一人の娘、美しい娘だ。[さあ、] さあ、そうして

3-004

bimi-dæ, tɪ æktə wəndiini, dolbo inəŋ auriɪɪ.
暮らしていたが、その娘はというと、夜も 昼も 寝ている。

3-005

xarwa murčimi auriɪ-nuu, xarwa murčimi auriɪ-nuu,
何を 考えて 寝ているんだか、何を 考えて 寝ているのか、

3-006

tutaraa tæxəni-guni. amiri tis sugdata butaj,
それから 起きたのだ。 父は たっぷり 魚を 捕り、

3-007

bujumbə-dæ waari, taktuni tangʊ, dəsuni dəji,
獣も 獲る、 倉は 百、 納屋は 四十、

3-008

xomorani xori, jani jakpon, gæ tɪ
白樺製の小屋が 二十、 小舟は 八、 さあ そのように (豊かに)

3-009

baldaxan, tɪ mapa. gæ, tɪ baldumi-dæ~,
暮らしていた、その じいさんは。 さあ、そうして 暮らしていたが、

3-010

tɪ patala wəndiini, "amaa," wəndiini, "sii minji
その 娘が 言う、 「父さん、」 と 言う、 「あなたは私と

3-011

xupiləndičəisi bilə," wəndiini. ənini tagdaxan,
夫婦が愛し合うように遊びたいの でしょう、」 と 言う。 母親は 怒った、

3-012

əj, tɪ mapawa, ənini naksɪ, gəə, 'əji-lə,' wəndii,
その じいさんを、母親は 叩く、 さあ、「やめて、」と言う、

3-013

'əji naksɪra. aja~ too duilə min taktujuji
「叩かないで。(娘が言う) いいわ、ほら 山の方に 私の 倉を

3-014

anʒundəŋar-tanɪ,' wəndiini. 'min taktujuji anʒurɔu,
作りに行かせてよ、」と言う。 「私の 倉を 作れ、

3-015

anʒuwanurɔu,' wəndiini, 'dəgdəi gasa dəgdəi-nəkə~,
作らせよ、」と言う、 「飛ぶ 水鳥の 飛ぶが如く(倉の板を彫って作れ)、

3-016

puktui bəjen puktui-nəkə~ bii. tamata taktu
駆ける 獣の 駆けるが如く、 であるような。 そんな 倉を

3-017

anʒundawanurɔu,' wəndiini. 'bii tɪla ŋuulʒii~,
作りに行かせよ。」と言う。 「私は そこに 引越すわ、

3-018

bii tɪdu bii.' 'tɪ əəktə wəndiini?' nu, tɪ patala wəndiini.
私は そこで 暮らすわ。」 [その女が言うのか。] そう、その 娘が 言う。

3-019

gəə amtɪni wənčini-tənii, sormačɪmi-dəə.
さあ、父へ 言ったのだ、 口喧嘩して、だ。

3-020

gəə anʒundaxan, ʒuəltə anʒuxan-nɔu, xai alm tɪ mapa
さあ 作りに行った、二日間も 作っただろうか、なんとも すごいのを その じいさんは

3-021

anʒuxanɪ ʒiŋʒiŋ ələ ələ dəgdəi taktuwa anʒuxan. 'gəə,'
作った、 全く 今すぐにも 飛びそうな 倉を 作った。 [さあ、]

3-022

irganɪ tɪs largɪ~, xamataanɪ irganɪ anʒuxan-nɔu
模様も すごく 素晴らしい、なんて(素敵な) 模様を 作ったことか、

3-023

anʒuxan, tɪ taktunɪ čəŋgə~ čəŋgə bii taktu.
作った、 その 倉は 遠くからも際だって見えるような 倉だ。

3-024

gəə, 'gəə~' tɪlanɪ tooxon, təwəni xajumbanɪ~
さあ、 そこに 上った、 荷物を 家財道具を、

3-025

ənini bələčimi toobuxa~n, bɪlja mudalamı ələə,
母親が 助けて 運び上げた、(喉が 痰が絡むよ、もう)

3-026

gəə, əsi "əñəə əji songoroo," wəndiini, "əji songoroo," wəndiini.
さあ、今、「お母さん、泣くな、」と言う、「泣くな、」と言う。

3-027

ənini jəbdəni tɪi irasɪ. "gəə, əñəə
母は 食べ物 を そうして 運んで来る。「さあ、母さん

3-028

əji əji songoro, bii ələ ələ dəgdəi," wəndiini,
泣くな、私は もうすぐにも 飛ぶわ、」と言う。

3-029

'gəə,' "ŋənəi-jə," wəndiini. "əi taktu xawası ŋənəini
[さあ、] 「行くわ、」と言う。「この 倉が どこへ 行くなら、

3-030

xawası tɪi ŋənələ-mə," wəndiini.
その行く方向へ そうして 行くわ、」と言う。

3-031

dəgdəmi olbındımı əi taktu. jʉəltə-nuu biči taktu kəwə.
飛んで 運んで行くのだ、この 倉が。二日もたっただろうか、倉がない。

3-032

amını ənini niəxəni ičəxəni, taktu-daa kəwə xar-daa kəwə.
父と 母は 外に出て 見た、倉も なければ何も ない。

3-033

ələə tɪi ələə dəgdəxən, xawası ŋənəxən-nuu
もはや そうして もう 飛び立ったのだ、どこへ 行ったのか、

3-034

xawası ŋənəxən-nuu, ŋui-dəə saarası. 'gəə,' gəə, tɪi
どこへ 行ったのか、誰も 知らない。さあ、そうして

3-035

dəgdəmi-dəə~, auriini, aumi-dəə ənəjəə tɪi taktumı
飛んでいたが、(彼女は) 寝ている、寝ていたが、おやおや その 倉は

3-036

tɪjçumi-dəə tɪjçuəsi~ osmı. xar-la-kaa dooxon-nuu
ゆらゆら揺れていたが 揺れなく なった。どこかにか 着陸したのか、

3-037

əi xarxan-nuu. 'gəə,' tutaraa təerəə bargajıraa učəji
これは どうしたことか、[さあ、] それから 起きあがって 服を着てから 戸を

3-038

ačuraa ičəxən. biruu biəsi-kəə, ŋn biruuni,
開けて 見た。 大きな町 ではないか、 人々の 町、

3-039

ŋn gasanı, daa gasa. 'gəə,' tii gasa ʃangudmi xagdunı
人の 集落、 大きな 集落だ。 [さあ、] その 集落の 長の 家は

3-040

daajr~ xagdu. tii učəni kiraadunı um ŋawjaka ilisunı.
大きな 家。 その 戸の 端に 一人の 若者が 立っている。

3-041

largı~ ŋawjaka ilisunı,
すてきな 若者が 立っている、

3-042

xətunı tis irgaču. naambaanı tii ičəjui,
服の襟には たつぷり 模様が縫ってある。彼女の方を そうして 見ている、

3-043

tii əəktə-dəə naambaanı ičəjui. gəə, 'gəə,' tutaraa iijuxən,
その 女も 彼を 見る。 さあ、(女は) それから 家に入った、

3-044

iijurə ʃəbdəji uŋurəjuxə~n, ʃəkpıi, xar-kaa xar-kaa
入ってから 自分の食べ物 を 煮た、 食べた、何だって 何だって

3-045

biəsi-kəə uŋun, xarxaa~l. tutaraa ələə siksəjuxəni
なかろうか(ある)、鍋には、食べた。それから もう 日が暮れる、

3-046

akpanči. tawudu~ tii ŋawajaka taktunı tookomoorı, tooroo
横になった。そうしてる時に あの 若者が 倉に 上って、 上って来て

3-047

učəwəni naksanı. "ŋui-ʃə-kəə," wəndiini. tutaraa tii
戸を 叩く。 「誰か。」と 言う。 それから そうして

3-048

tii ŋawjaka iixən. iiwənči~ tii určulunči~ ixərə
その 若者は 入った。入らせた、 そうして 話した、 明かりを

3-049

taawuxaal. "gəə, gəə puji~n," wəndiini, "gəə pujin,
灯した。 「さあ、 プジンよ、」と 言う、 「さあ プジンよ、

3-050

bii simbi tis ajapumı ičəxəmbi-ə," wəndiini, 'gəə,'
私は あなたを すごく 好ましく 見たのだ、」と 言う、

3-051

”bii sinji asilarčar-ja,” wendiini, ”sinji asilarčar-a muručii,”
「私はあなたを妻としたいのだ、」と言う、「あなたで妻としたいと思う、」

3-052

wendiini. ”usa~,” wendiini. ”usa,” wendiini.
と言う。「知らないわ、」と言う。「知らない」と言う。

3-053

”mutəwu-nuu xooni tawu-nuu simbi, sinji asilami...
「そうできるのか、どうすべきなのか、あなたを、あなたで

3-054

ədiləmi.” ’gəə,’ tui əəktə tis pakči,
夫としていいのか。」[さあ、]その女はすごく器用で上手で、

3-055

xamataani-daa čupal anjui. gəə tutaraa tixalamačixa~n.
どんな物だって全て作ってしまう。さあそれからお互いに合意した。

3-056

tui taktun-daa tis largıni. gəə, tixalaxa~n.
その倉もそれはすごくすばらしいのだ。さあ、賛成した。

3-057

tui ŋii asıni um əəktə, xai-daa xoonu xoonu bii
その男の妻には(すでに)一人の女がいた、何をやってもどうにもダメな

3-058

əəktə. gəə, ’gəə,’ toobujuxa~n, məən xagduntji toobujuxa~n,
女。さあ、上った、自分の(男の)家へ上った、

3-059

maluti, maluti iswanči~,
真ん中の席へ、真ん中の席へ就かせた、

3-060

gəə tui əəktəji tui asilaxan, tui ŋii.
さあその女とこうして結婚した、その男は。

3-061

gəə tui asilaraa naan wendiini, ”gəə, əsi bəičiŋdəmi ŋənei,
さあそうして結婚してから彼は言う、「さあ、今獣を狩りに行く、

3-062

’gəə,’ goj baati bəičiŋdəmi ŋənei,” wendiini.
[さあ、]別の土地へ狩りをしに行く、」と言う。

3-063

”gəə xooni tarsi.” ”ŋənuu, xaali jjiuisi.”
「さあ(おまえは)どうする。」「行ってらっしゃい、いつ戻ってくるの。」

3-064

"bii mingga osmı kaltaa bıadu bıle-mə," wəndiini.
「私は しんどく なったら 半月ぐらいしか とどまらないだろう。」と 言う。

3-065

"kaltaa bıadu bii," wəndiini, "gorodu bii-dəə kəwə,
「半月ぐらい (向こうに) いる、」と 言う。 「長く いることは ない、

3-066

turgən jıjui," wəndiini, "aja." gəə, tı bıçi~,
早く 戻って来るよ、」と 言う、 「大丈夫。」さあ そうしていたが、

3-067

tı ɲənəxə~n, tı ədini, gəə tı bii, tı əəktə
そうして 出発した、 その 夫は。 さあ そうしている、その 女は

3-068

uzhe, xəmdəni daarı oçmı. ələə ələə piktəji bakarı ələə.
もう 腹が 大きく なった。 もうすぐ 子供が 生まれる、もう。

3-069

jua. gəə bakarı ələə ələə tımana əinəj tımana bakamı ələə.
夏であった。さあ 生まれる もう今にも 明日にも 今日にも 明日にも 生まれる、もう。

3-070

ələə əlini isxan, ələə bakaxan
もはや その時が 来た、 もう 生まれた、

3-071

çua~k baka... tutaraa tı naan taktunı tılatını,
すんなりと 生まれた。 それから あの 彼女の 倉の 裏へ、

3-072

wagbanrı tawası əusi taraa tı əəktə tıla
手袋を あっちの手と こっちの手に してから その 女を そこに

3-073

təɲdəwənçini. tı piktəwə jəpaxa~n, ıɲda omɲtı
行って座らせた (もう一人の妻は)。その 子供を つかんで、 犬の 小屋へ

3-074

nəɲdəxə~n, tı piktəwə. əɲbəni kamduɲdaxan
置きに行った、 その 子供を。 母親の方へは 魚製の糊で糊付けに行った、

3-075

isalbani, aɲmawani-daa çupal daarpunçı, xai
目を、 口を 全て 糊で塞いでしまった、どうして

3-076

wəndiini, buçin-məç osmı-guni. 'gəə,' gəə, gəə
話すことができようか。 死んだようになっちゃったのだ。 さあ、

3-077

taraa, xooni tawu əsi. tii xaixanji, tii piktə ələə,
それから どう すべき、今。 そのように してから その 子供は もはや

3-078

ambaan, ələə ambaan daaji osim
かなり、 もう けっこう 大きく なっていた、

3-079

nu, niymaani piktəni xai goroni urəini, ii.
物語の中の 子供が なんて 長いことかかって 育つものか。

3-080

tutaraa, tii biruu əjəni wəndiini, "taisi čagbuḡdawu~, "
それから その 町の 長は 言う、 「あっちへ 錨で沈めに行くべし、」

3-081

wəndiini. bochka doolani nəərəə, kongururəə, taisi tuisawu,
と言う。 樽の 中に 置いて、 縛り付けて、 彼方へ放て、

3-082

tii čagubuwə, " wəndiini. paanmi osisui~,
その 錨を、」と 言う。 ある者は 嫌がり、

3-083

paanmi aja čagbuḡdar, 'gəə, gəə xooni tai əsi.
ある者は 従う、 錨で沈めに行くことに。 さあ どう する 今。

3-084

ñii tii wəndiini tii osii. tutaraa tii bochkaji tii
人が そう 言う そのとおりに した。 それから そうして 樽で そうして

3-085

taisi tii tusal ələə čagbuxati. 'tii əəktəwə?' ŋj
彼方へ その人々は もう 錨で沈めた。 [その女を?] ああ、

3-086

tii piktəwəni-dəə. əḡbəni piktəwəni čagbuxati.
その 子供もだ。 母親を 子供を 錨で沈めた。

3-087

tii bochka doolani nəərəə kuubururəə-dəə. gəə,
その 樽の 中に 置いて 蓋をしてから、だ。 さあ、

3-088

xasulta bičin-nuu, xooni bičin-nuu, jəmuru-guni,
何日 たっただろうか、 どう なのだろうか、 腹をすかしているのだ、

3-089

tii əñə kəəni-dəə xarwa buurii xarwa-daa jəptəsi,
その 母親は 乳でも 何でも (子に) 与える、 (自分は) 何も 食べない、

3-090

xai niəriini. tutaraa, ənejəə, tami-dəə dosojumi,
どうして 出られようか。それから、 おやつ、 ところが 聞こえるのだ、

3-091

naala kən, naala kən, waatapsami, tii boçka.
地面に ゴツン、地面に ゴツン、と 波に揺られぶつかっている その 樽が。

3-092

”əñəə,” wəndiini, ”xooni tilasi-kaa,” wəndiini,
「お母さん」と言う、 「どう しようというの、」と言う、

3-093

”manga jaa, tii əi boçkawa, baasaçumi bujaçta, wəndiini.
「とても 易しいよ、この 樽を、 踏みつけて 壊してみせようか、」と言う。

3-094

”naala waatar osini,” wəndii, ”aja, naala
「地面に 打ち寄せられているのなら、」と言う、 「良い、地面に

3-095

waatar osini, mutəi osini busəsiruu,” wəndiini.
打ち寄せられているのなら、 できるのなら 努力してみよ、」と言う。

3-096

mutəi osini busəsiruu,” wəndiini. ambaan daajmi
できるのなら より強くやってみよ、」と言う。 やや 大きく

3-097

osini aja, aja-guni. xawuli xawuli tii boçka bujalaxan.
なっている、良い、良いのだ。 なんとか やつとこさつとこ その 樽を 壊した。

3-098

çumpurum nənəxən. nınmaarul-guni siun jıñjıñ...
突き抜けた。 目が眩んだ、 太陽が とても眩しい、

3-099

gəə, tooxon naani kət largı, bırıgıni-daa largı~,
さあ、上った、 その大地は とっても すばらしい、その岸边も 素敵だ、

3-100

duin-dəə tis largı naa, uləən naa.
森の方も とっても 素敵な 土地、 良い 土地だ。

3-101

ənini, əñbi naabaan, əljuxə~, xai, xaabujuxa~,
母、 自分の母を 陸地の方へ 手を引いて行った、 上陸させた、

3-102

naadu təəsii. ’tii aqmanı xamı daalbuxa təpəm biini?’
地面に 座った。 [あの 口を 何だっけ、 塗り付けた物は そのまま なの。]

3-103

čupal ačuxan. 'ačuxanı?' piktəni čupal ačuxan.
全部 取り除いた。 子供は 全部 取った。

3-104

isalbanı-daa čupal ačuxan. "gəə, əñəə," wəndiini
目のも 全部 取った。「さあ、お母さん、」と言う、

3-105

"jədu kawkaa təəsiruu, bii goroji biasimbi,"
「ここに じっと 座っていて下さい、私は 遠くへは 行きません、」と

3-106

wəncini. ələə siksəjuini.
言った。 もうすぐ 日も暮れようとしている。

3-107

"gəə, bii-kəə," wəndiini, "xagdun durumbəni jaunđar-ta,
「さあ、我こそは今、」と言う、 「家の 形を 描きに行こう、」と

3-108

wəndiini, too duisi. "xagduji xarwanı durumbəni
言う、 ほうれ 山の方へ。「自分の家の 何を、 形を

3-109

jaunđar," wəndiini. "baawuču~, doowuču~, tamataa
描きに行く、」と 言う。 「中の部屋があり、外の部屋もある、そんな

3-110

xagdunı durumbəni, jaurı," wəndiini, "mooji.
家の 形を 描くのだ、」と 言う。 「木で。

3-111

tıı jauraa, tıı doolanı simbi tıla toobujır~,
そう 描いてから、その 中に あなたを そこに 運ぶ、

3-112

baawudu simbi akpanwandıı, bii doowudu bii akpandıı."
中の部屋に あなたを 横にならせて、 私は 外の部屋に 私は 横になる。」

3-113

tıı aumaarı-dəə aurıı~, "anajıı~ xarı-daa pukulı~,
そうして 寝てまた 寝ていると、「あたら、なぜだか 暖かい、

3-114

xarı xarı püksı," ičəini, xagdu. uzhe, xagdu očmı.
何だ、どうして 暖かいのか、」と、見る、 家だ。 もはや 家になった。

3-115

"əñəə~ təəruu," wəndii, "ičuu, bar naa bičmı,
「お母さん、起きろ、」と 言う、「見てよ、ただの 地面 だったのが

3-116

ičuu əsi xagdu očini.” əldəngə-guni. gəə, təəxə~n,
見てよ、今 家に なった。」 不思議なことなのだ。さあ、起きた、

3-117

waisi əuxə~n. tii mənən xaikaal xaikaal čupal ŋii
岸边へ 下りた。 そうして 自分たちで 何だの かんだの 全部、 人が

3-118

bochka doolani nəəxəni xajumbani, xarwa čupal ŋii
樽の 中に 置いた 家財道具を、 何を、 すっかり全部 人が

3-119

nəəxən bochka doolani tuwa xarxa~n. ”əñəə əji gasara,”
置いたものを、樽の 中の 荷を 運び上げた、「母さん、悲しまないで、」と

3-120

wəndiini. ”bii ŋaala undaa~ undaa~ əi-mət
言う。 「僕の腕は 自由に 自由に動くよ、これでもって

3-121

tilambi, wəndiini. ”siru, siru,” mənəə əurii,
やるよ、」と言う。 「小魚を、小魚でも、」と自ら 下りて行く、

3-122

wəndiini. sirumbə waari, siru ulsəni jəptii,
言う。 小魚を 捕る、 小魚の 魚肉を 食べる、

3-123

”aja,” wəndii, ii. əŋ daaji očini-guni tii piktə.
「よし、」と言う、 そう。 さあ 大きくなっていったのだ、その 子供は。

3-124

uzhe daaji, ambaan daaji, niŋmaan ŋii xai goroni,
もう 大きい、 けっこう大きい、 物語の中の 人間が どうして長いことかかって、

3-125

urəi. ”gəə, əñəə,” wəndiini, ”bii dawurii-ta,”
育つだろうか。「さあ、母さん、」と言う、 「僕は 河を渡るよ、」と

3-126

wəndiini. ”əi mun xagdumu čooŋkoni daaji čooŋkoni,
言う。 「この 僕らの家の 天窓は 大きな 天窓だ、

3-127

tii čooŋkola um xaapuna dooxoni,”
その 天窓の所に 一匹の スズメバチが とまった、」と

3-128

wəndiini. ”soogjo xaapuna. gəə tii xaapunaŋi,
言う、 「黄色い スズメバチだ。 さあ、この スズメバチの姿で、

3-129

jupturæ dawurn-ta," wændii tawasi, tii biruubæni.
これを覆いとして被って渡るよ、」と言う、向こうへ、あの村の方へ。

3-130

mæpi singgeræxæn gursælbe ičæŋdæmi. tutaraa tii dawuxan
自らを苦しめた 者たちを見に行くために。それから そうして渡った、

3-131

ænini tii ičæjuini-guni, gujælæ, songomɪ ičæjuini
母親は そうして 見ているのだ、かわいそうに、泣きながら 見ている、

3-132

gæ, dawuxan, tutaraa čooŋkotmɪ dooŋdoxon.
さあ、渡った、それから 天窓の所に 行ってとまった。

3-133

tii amɪni xaali-a jijuxæ-nuu, xaali-a jijuxæ-nuu, xoŋmoxon
あの父親はいつ 戻って来たのか、いつ 戻って来たのか、亡くなって祀ってあった、

3-134

diljila sugduxæ~n,
その頭（魂のいる場所としての枕）の所に 人々は供物を捧げていた、

3-135

gæ ambaani, waaxati-nuu xoomɪ taxati-nuu tii ii.
さあ 魔物が 殺したのか、 どう したのか、そうして、さあ。

3-136

gæ tutaraa tiki puliktæiti æksəl, xar-gdal æksəl-nuu,
さあ、それから そこを通って歩き回っている、女たちが、何の 女たちなんだか、

3-137

tii-gdal iimi um æktæwæ xačuxan. ananaa-daa ənənæə-dæə
そこへ 入って一人の女を 刺した（ハチは）。ああ痛い、うう痛いと言う、

3-138

tii umuni ŋənæxæn tɪla xačuxan.
そうしてもう一人の所へ行った、そこでも 刺した。

3-139

tutaraa tii, puñar, dawujuxan.
それから そうして、すばやく、渡って戻って行った。

3-140

mænbenæn dawujuxan, "əñæə," wændiini, "jæk əji songoro,"
自分の方へ 渡って戻った、「母さん、」と言う、「もうこれ以上泣くな、」と

3-141

wændiini. "aja bii čupal saarnɪ," wændiini.
言う。「大丈夫、僕は 全部 わかったよ、」と言う。

3-142

''gəə, amaa j̄juxən balanaa bile,'' wəndiini, ''buči-nuu,
「さあ、父さんは戻って来ていた、ずっと前にだろう、」と言う、 「死んだのか、

3-143

uju-nuu, xoŋmoxo,'' wəndiini, ''nakandu xoŋmoxo,
生きているのか、祀ってあった、」と言う、 「オンドルの席の所に祀ってあった、

3-144

j̄uliələni dilj̄rlani sugduxə, xarwa-gda-nuu sugduxə~,
その前に、頭の所に供物を捧げていた、何をだか、 捧げていた、」と

3-145

wəndiini. ''bii juə əəktəwə xačuxambri-a,'' wəndiini.
言う。 「僕は二人の 女を 刺して来た、」と言う。

3-146

''mangalaxatɪ~, '' wəndiini,
「ひどく痛がっていたよ、」と言う、

3-147

''tutaraa tɪi dawuj̄xambri-a,'' wəndiini.
「それから こうして 渡って戻って来たんだ、」と言う。

3-148

məən xoon tamaari xoon tamaari.
自分がどのようにして、 どのようにして (来たかを語った)。

3-149

''gəə, tɪmana indəpi dawuri,'' wəndiini.
「さあ、明日一日 間を空けてから また渡るよ、」と言う。

3-150

''aambri ŋaanjumi, ama tidu kəwə, bar pañan.
「父さんを連れて戻るために、父さんは あそこにいない、ただ 魂だけだ。

3-151

ama almmdu ŋənəxən. 'bučini,' bii ambri bakui,'' wəndiini.
父さんは 冥界に 行った。 [死んだ、] 僕は父さんを見つけてくるよ、」と言う。

3-152

''ambri bakui, ambri gaajui, kaltaa biruuwə, əwəsi
「父さんを見つける、父さんを連れて来る、半分 村を、 ここへ

3-153

daawujui, məŋdəə-dəə, tɪi gursəlbə tɪi waari-daa aja
渡らせて運んで来る、丸ごとだ、 あの者たちは、そうして殺しても よいし、

3-154

xarii-daa aja tɪi ŋaalaraa xudar,'' wəndiini.
どうするのよ、 そうして 放っておいてから 売るのよ、」と言う。

3-155

tii məəpi siŋgərexən gursəlbə. i biruu əjəmbəni-dəə. tutaraa tii
その自らを苦しめた 者たちを。そして村の 長もだ。 それから そうして

3-156

məən wənčin-mət tii taxan, tii ŋawjaka, aambi,
自分が 言ったとおりに そのように した、その 少年は、 自分の父を、

3-157

'tii xaapunaŋi dawujuxani?' ŋŋ, aambi,
[そのスズメバチの姿で 渡ったのか?] うん、 そうだ、 自分の父親を

3-158

gaajuxa~n. amini, jijuxən. maŋgu muujini agbuŋjuxan,
連れて来た。 父が 戻って来た。大河の 水から 再び現れた、

3-159

tii amini. samaan, tis daaji samaan očini, tii amini.
その父親は。 シャーマン、 すごく 大きな シャーマン となった、その 父親は。

3-160

gəə tutaraa wəndiini, 'gəə xoon tɪlasɪ-kaa, wəndiini.
さあ それから 言う、 「さあ どう おまえはするのか、」と 言う。

3-161

əsi ambi xagdumbani paajukaan guči anjuxan,
今 自分の父親の 家を 別々に また 作った、

3-162

ələdə anjuxan. turgən turgən anjuxan-daada, ələdə anjuxan tɪdu biiti.
十分に 作った。 すばやくすばやく 作ったのだ、 十分に 作った、そこに 暮らす。

3-163

ənini-dəə tɪla niəjuxə. aja-guni tii juə ŋŋ
母親も そこへ 出て来た。 よいのだ、 そうして 二人で

3-164

xagdu kap anjuxan aja-guni. tasi dəŋsɪxəti.
家を 合わせて共に 作った、良いのだ。 そこへ 働いた。

3-165

gəə tii biči~n, bəjəmbə-dəə tii waari~, xarwa-daa xum
さあ そうしていた、 獣も そうして 獲る、 何だって 全て

3-166

tii waaktar, sujasa-daa waandasi, tii bičin, tii ŋawjaka.
そうして 狩りする、 魚も 捕りに行って来る、 そうして いた、その 若者は。

3-167

tis largŋi osmi. tami-dəə wəndə, siksə akpančini, jəkpiŋi,
すごく すてきになった。 そうしていたが、 いうには、 夕方 横になった、 食事はした、

3-168

xodaxanǰijr akpančm, amni-daa akpančm, ənini-dəə akpančm,
終わってから 寝た、 彼の父も 寝た、 母も 寝た、

3-169

naan-daa akpančm, maludu akpančm.
彼も 寝た、 真ん中の席に 寝た。

3-170

ti inəŋ, ti dolboni tis auxan, tmanani dolboni, inəŋi,
そうして 昼も、そうして 夜も ずっと 寝た、 次の日の 夜も、 昼も、

3-171

tis auxan. ǰialani inəŋu, ti ənini wəndiini, "ənəjəə," wəndiini,
ずっと 寝た。 次の 日に、 そうして 母親が 言う、 「あれあれ、」と 言う、

3-172

"xami aurni-kaa," wəndiini. "aamiǰi ajarai,
「どうして (ずっと) 寝ているのか、」と 言う。 「夢で 脂を取り、

3-173

aajaraisi-tani, tolcini tonggurun xəǰjuisi-təni," wəndiini.
取ってるのか、夢で ボロボロと 鱗を取ってるのかねえ、」と 言う。

3-174

soŋsop təxən. "əñə, xai mədəsii, əñə xarwa gosolaxasi-na."
ガバツと 跳ね起きた。「母さん、何て 訊いたの、母さん 何を 叱ったの。」

3-175

"gosolami kəwəmbi," wəndiini. "bai wənčimbi"-ə-m-də.
「叱ったんじゃないのよ。」と 言う。 「ただ 言っただけよ、」と。

3-176

"bii-kəə," wəndiini, "tmana iŋdəpi, siumbəəni toori-a," wəndiini.
「私は、」と 言う、 「明日 一日おいてから、太陽の方へ 上るよ、」と 言う。

3-177

"siumbəəni. siunǰientini toorimi, solntsebaani. "tula baaxambi," wəndii,
「太陽の方へ。太陽の側へ 上る、太陽の方へ。「そこに 見つけた、」と 言う、

3-178

"asiǰuji. biinin patalamun baaxambi," wəndiini.
「自分の妻を。 娘を 見つけた、」と 言う。

3-179

"aamidu tolcindu baaxambi," wəndiini.
「夢で、夢で、 見つけたんだ、」と 言う。

3-180

"bii towa, tawasi toori-a," wəndiini.
「私は、その人を、そこへ 上る、」と 言う。

3-181

”tmana inəŋ, tɪ inəŋu, inəŋdu, čaagjan murumba,
「明日の 昼間、その 昼、 昼に、 白い 馬を、

3-182

čaagjan xausaŋi, xaŋalaruu,” wəndiini.
白い 紙から 鋏で切り取れ、」と言う。

3-183

”tɪ, tɪ murun, baatɪ niə... baatɪ ŋaalaŋdapi tipur tipur ɪɪɪ,
「その、その 馬が 外へ 出る、外へ 投げたなら、パカ パカッと 立ち上がる、

3-184

bii tɪ oomɪ ələə tɪ dəgdəpsii toorn. siumbəəni,
私が そうして 乗ると すぐに、そうして 飛び立つ、上って行く、太陽の方へ、

3-185

kak raz obeda vremja. tɪ siun əjən,
ちょうど 正午の 時間にだ。あの 太陽の 主人は、

3-186

siunŋi gəsə pulsiini-guni. tɪ obedadu baŋ ijuini.”
太陽と 共に 行き来しているのだ。その 正午の時に すかさず 入って来るよ。」

3-187

gəə, ənini agdawasi, songičɪ. ”əji-ə mudalara,” wəndiini ”aja-guni,
さあ、母親は 喜ばない、泣く。 「嫌がるな、」と 言う、 「大丈夫だよ、

3-188

anjuuru,” wəndiini. ”uləə~ dəreŋni uləəmbə anjuɪ murumba.
作れ、」と言う。 「良く、その顔も 良いのを作るんだ、馬を。

3-189

əi xoldondonɪ xasačuoxam anjuuru,” wəndiini.
この 脇腹の所に 作れ、」と言う。

3-190

”bii tɪ oonŋi uzhe, baatɪ ŋaalausɪ
「私が そうして 乗ったなら もう、外へ 投げれば、

3-191

tɪ murun tipər tipər ɪɪjuɪ. tɪ uun uzhe
その 馬は パカパカッと 立ち上がる。 そうして 乗ったなら もう

3-192

bii tɪ dəgdəmi toorn, uisi dəgdəmi ŋənəi,” wəndiini.
私は そうして 飛んで 上る、上へ 飛んで 行く、」と言う。

3-193

gəə, gəə tɪ ŋənəini ərindu, ŋənəxəni,
さあ、さあ そうして 行く 時に 行った、

3-194

ambaan uilə toowandani ŋui saarimɪ.
かなり 上まで どんなに上ったんだろう、誰にわかるだろうか。

3-195

bookto darlakajɪ~ bii boono, sneg, daajɪ boono, tukusiini.
松ぼっくり程の大きさ である 雹が、雪が、大きな雹が、落ちてくる。

3-196

tɪ ɕimɕamjɪ ŋənəijini gəsə, uzhe siun, isxan, isxan.
そうして ぴちャぴちャになりつつも 行くや いなや、もう 太陽に、着いた、着いた。

3-197

tɪ uləəsixəni əktə-dəə niəxə~n, uləəsixən əktə əigəni-dəə niəxən.
あの 好きになった 女も 出て来た、好きになった 女の 姉も 出て来た。

3-198

naati juur nɪ. əigəni, nəuni-dəə. tɪ nəuwəni jəpaxan asijɔjɪ.
彼らは 二人だ。姉と、妹、だ。 その 妹を 娶った、自分の妻に。

3-199

ñaajɪmɪ uzhe ñaajaktanɪ uzhe ŋənəxəəl.
妻の男兄弟は もう、妻の兄弟は もう 行ってしまった。

3-200

tɪ siunjiji gəsə pulsii nɪ, tɪ bii-guni.
ああして 自分の太陽と ともに 行き来している、人は、そのようである。

3-201

obeda, kak raz obeda ijui.
正午に、ちょうど 正午にだけ 家に戻って来る。

3-202

jəptii xairɪ, určunondɪ xairɪ, ələə tɪ niəxəni.
食事をしたり、何したり、話したり、なんだりして、もう そうして 出て行った。

3-203

gəə, tutaraa tɪmana tɪdu aunjaxa~n, gəə xoonɪ əsi, agaa nəku oçm.
さあ、それから 次の日、そこに 泊まった、さあ どうする 今、兄弟と なった。

3-204

siun amnɪ, siiguuni oçmɪ. uləə-guni. asiji bakaxan.
太陽の 父、 シーグーニと なった。 良いのだ。 自分の妻を得た。

3-205

gəə, tɪ biçin. tɪmananɪ ələə obeda vremja,
さあ、そうしていた。 次の日 もう 正午という 時間に、

3-206

kak raz tɪ jijuini. ələə aangar ijui. ələə ijuxən
ぴったりと そうして 戻って来た。 もう 兄が 家に入って来る。 もう 入って来た、

3-207

əsi, čək dəre čupal čupal tək naan nəxəni
今、きちんと机にはたっぷり たっぷりとちゃんと彼女が置いてあった、

3-208

jəbu-dəə čupal.
食べ物も たっぷりと。

3-209

ɲui xamataa ɲui xamataa. "ənəjəə," wəndiini,
誰に どの食事を、誰に どの食事を、という風に。「あれあれ、」と言う、

3-210

"əi xooni taŋ-kəə," wəndiini. "ni, ni, ni əuriini bilə,
「これはどうしたことだ、」と言う。「人が、人が、人が降りてきたんだろうな、

3-211

naverno xagdondū." 'aŋ wəndiini.' ii, tu aŋ wəndiini.
たぶん 家に。」 [兄が言うのか?] そうだ、その兄が言う。

3-212

tu əktə, aɪsima, salbuwa aŋjoraa, aɪsm salbuji jəptukən tu nɪrwa, ədiji.
その女は、金の 箸を 作って、金の 箸で 食べさせた、その人を、自分の夫を。

3-213

tutaraa kəmə dooloni nəxəni. gəə tuwa saaxan aŋ. saaxan.
それから 皿の 中に 置いた。さあそれを知った、兄は。気づいた。

3-214

"agaa," wəndiini, "bi-kəə," wəndiini,
「兄さん、」と言う、「私は、」と言う、

3-215

"sii-dəə saarasi, saarasi, saarasi-guni," wəndiini.
「あなたも知らない、知らない、知らないのよ、」と言う。

3-216

"bii ədijuji baaxambi-a," wəndiini.
「私は自分の夫を得た、」と 言う。

3-217

"ni-məč bii ədijuji baaxam biəsi, largi nɪrwa baaxambɪ-a"-m-da.
「普通の人の 様なので自分の夫を得たのではない、すてきな人を 得た、」と。

3-218

"gəə. gəə ičəisi." "xardu biini."
「さあ、さあ見て下さいな。」 「どこに いるんだ。」

3-219

kəmə dooloni salbijaram paaji ŋaalaxani. kɪçatak iliini-guni.
皿の 中から 箸で取ろうとして、別の所へ投げた。 スックと 立ち上がるのだ。

3-220

xar, largu nu jinqin, largu. baldaxan-daa tis largu.
何とも、すてきな人だ、すごく、すばらしい。生まれついた顔、体もとてもすばらしい、

3-221

tətuəni-dəə tis largu. gəə jəpaxa~n naamansu, dərəgbəni alausran,
服も とてもすばらしい。さあ、つかんだ、抱いた、顔に キスをした、

3-222

dərədu təəjuxən. gəsə təəjuməəri gəsə jəkpın, jəmi xodaxan,
机のそばに再び座った。一緒に座って 一緒に食べた、食べ 終わった、

3-223

xodaxanjji gəsə, ələə, ələə ələə uzhe, aaj ɲənəxəni.
終えるや いなや、もう、さあ、もう、すでに 兄は行ってしまった。

3-224

”gəə tımana bii ijurəmbi,” wəndiini.
「さあ、明日 私が家に戻って来る、」と言う、

3-225

”inəɲu obedəji soloru ijui.”
「昼に、昼御飯時に 上って 家に入ってくる。」

3-226

gəə, tu biči~n, doosičmaamaari tu bičin, əigəni-dəə tu,
さあ、そうしていた、 そうしていた、 姉も そうして、

3-227

”xooni tılası-kaa~,” wəndiini.
「どう おまえはするのか、」と言う。

3-228

”tu gajulası-ma,” wəndiini. ”əgəə-mə-kəə dərəjilə-mə,
「そうやって 連れて行くのだろうか、」と言う。 「姉が 残すだろうか、

3-229

agawati. tu jəpuwəçimi tu bilə-mə,” wəndiini.
兄を。 そうして養って そうしているだろう、」と言う。

3-230

”sagdandala-daa. baa puupiliçini, naa pəisiçini bilə-mə,” wəndiini.
「老いてしまうまで、だ。天の 東側に、 大地の下側に いるだろう、」と言う。

3-231

voŋ, gəə jiala tımananı uzhe, obeda oçmi. ələə, ələə ijuxən.
ほうれ、さあ 次の日の もう、正午になった。もう、もう 入って来た。

3-232

ka~p naamançm, dərəgbəni alausran-daa ačıkılar-daa xar-daa.
ガバツと抱いた、 顔を キスしたり、 なでたり、 何だりした。

3-233

”gəə əŋəsi əŋjupəəri, kaltaa biadu biməəri əusi tooksaruu,” wəndiini,
「さあ 降りたなら、半月 経ったならば、ここへ上って来い、」と言う、

3-234

”ujalajusalto,” wəndiini. ”guči ujalajusalto,” wəndiini.
「客に来い、」と言う。 「もう一度 客に来い、」と言う。

3-235

”gəə ujalajur, ujalajur,” wəndiini, ”ujalajur,” wəndiini.
「はい、客に来ます、客に来ます、」と言う、 「また客に来ます、」と言う。

3-236

əi-tul murmǎjji, uuwuči əŋjumi, əigəni guči murumba anjumi.
この馬で、乗って 下りるのに、姉が また馬を 作る。

3-237

nəuji uubdan. gəə dasičal opaami. tǎjǎ tǎ əŋjuxən.
妹が 乗れるように。さあ それで そうして降した。

3-238

gəə timana timan, timar bala tǎ, əŋjuxən naati.
さあ 次の日の朝、朝 早くに そうして、降した、大地へ。

3-239

tǎ dolbonǎ tǎ tǎs, tǎlaxa~n xaadu əŋuəəŋjuxən jəpuwəntiini.
その晩に そうしてすっかり、やった、 料理を煮た、食べさせた。

3-240

xai ičobodomo tǎ ui arǎ nar, largǎ. gəə tǎ ŋənəxən.
すばらしい。さあ そうして 行った。

3-241

tǎ ŋənəxən aarǎanaxan. gəə əigəni tǎ songoi.
そうして 行った、泊まりに行った。さあ 姉は そうして泣く。

3-242

”əji songoro~,” wəndii, ”əgəə əji songoro,” wəndiini.
「泣くな、」と 言う、 「姉さん、泣くな、」と 言う。

3-243

”buu turgun tookoopo~,” wəndii,
「私たちは すばやく 上って来ますから、」と言う、

3-244

”naati simbi ičəŋdəmi tookoopo,” wəndiini.
「彼らは あなたに 会うために 上って来ますよ、」と言う。

3-245

”əi aldamba pulpuri xai maŋga~,” wəndiini.
「この 二つの世界の間を 行き来することの 何が 難しいことか、」と言う。

3-246

ii, "xai mangga." nu koneshno tooksoŋji gəə
そう、「何が 難しいことか、」と。そう、もちろん 上るやいなや

3-247

pulsii gursəl xai. gəə, tmana əŋjuxə~n.
行き来する 者たちなのだ。 さあ、次の日に 降りた。

3-248

əŋjui, xajombarı čupal ɟapaxan, murun ojakını nəəktuxən.
降りる、自分たちの持ち物を すっかり 取った、馬の 上へ 載せた。

3-249

məənduji nəəxən. naandını čupal,
自分の所に 置いた。 彼には すっかり、

3-250

xai murumbəni-dəə čupal xukuluxən xarxan.
何だ、馬も すっかり その向きを変えた、どうした、

3-251

gəə əigəni songomı~ dəreŋixən. "əji songoro~," wəndiini,
さあ 姉は 泣きながら 居残っていた。「泣くな、」と 言う、

3-252

"xai buu-təmə, əsi juultu bimi ɪalta bimi əusi tookoi,"
「さあ 私たちは、今 二日 して、三日 したなら、ここへ上って来ます、」と

3-253

wəndiini, "siumbəni tii." gəə tɪ určulumi-dɪ tɪ dəreŋixən.
言う、「太陽の方へ、そう。」さあ そう 話したが、 そうして 居残った。

3-254

xai tɪ boono, ɟɪŋɟɪŋ, sɪatɪl daajɪlanı boono, sɪmata.
さあ、そうして 霜が、 ひどく、 大きさの 霜、 雪だ。

3-255

pəkəə məŋdə məŋdə əsi, sɪmana tukuini. xauɪsɪ-daa tuli tɪ bat. kəŋ,
丸ごと、丸ごと、今、雪が 降る どこへ、 中庭へか、そうして、ドン、と

3-256

ələ-dəə, ɟɪjuxəni. ənini niəxən, amɪni niəxən,
もう、 戻って来た。母が 出て来た、父が 出て来た、

3-257

xai alnakını naamandı-daa naamandı, alaɪsɪ-daa alaɪsɪ,
抱きに 抱く、 キスする キスする、

3-258

ojojo, əɟəməəri iɪwɪjuxən tɪ əəktəwə, xai aldu,
あれあれ、手を取って 家に入れると、その 女を、 どう したことか、

3-259

nii xarguji mənə xagdu-ma biəsini-guni, largi.
人のあれ(家)は、自分の家のようにではなくなったのだ、すばらしい。

3-260

xagdunı doolanı jıjıjıŋ n̄əm bii. ajaçuxa~n tıdu bisin, goropti.
家の中はすごく輝いている。喜んだ、そこにいたのだ、ずっと以前から。

3-261

tawai, tı wəndiini, əntini wəndiini, "əgəə," wənçini,
そうして言う、彼の母親へ言う、「お義母さん、」と言った、

3-262

wəndii, "əsi duiltə ıalta bimi, mimbı ičəŋdəsuruu," wənçin.
「今四日か三日か経ったら、私を見ることでしょう、」と言った。

3-263

"aja," wəndiini, "pulsiksu," wəndiini,
「よい、」と言う、「行って来なさい、」と言う、

3-264

"aja, pulsiksu," wəndiini. "xar-daa gujələsi-nuu,
「よい、行って来い、」と言う。「何も嘆かないよ、

3-265

simbi, aja jəpələpu~," wəndii, nai.
おまえの(いないことを)、ちゃんと食べているよ、」と言う、人は。

3-266

"buu baa əjən taapu," wəndiini. "buu əndur əjəni.
「私たちは天の主人です、」と言う。「私たちは神の主人です。

3-267

gəə suu saarıpu," wənçini. nu, wəndii, əjəni.
さあ、あなた方、私たちは知っています。」と言った。さあて、言う、主人だと。

3-268

baa əndur, tı əjən. nu siun, solntse eto, baa əjəni-guni.
天の神の、その主人であると。さあ太陽、太陽、あれは天の主人なのだ。

3-269

gəə tıjı asılaxan tı, tı əktəji asılaxan.
さあそれと結婚した、その、その女と結婚したのだ。

3-270

tis largıjı biçini. ələə tı əktə-dəə
とてもすばらしく暮らした。もうその女も

3-271

ələə daulu osıı. daulu osını-guni əjən əktə xai.
もう身ごもることとなる。妊娠することとなるのだ、主の女でも、何でも。

3-272

gəə xasulta~ bimi bičin, xooni-a-daa bičin.
さあ、数日 経って、いた、どんなにだか、経った。

3-273

ələə, əigəti-dəə tookupučixa~n. xaikaan xaikaamba tooboxan.
もう、姉の所へも上った。 何だの、かんだのを 持って上った。

3-274

xarwa-daa xum tooboxan. tətujuni xaijuni čupal tooboxan.
何でも 全部 持って上った。服でも 何でも みんな 持って上った。

3-275

tutaraa tii əujuxən. ələə tmana xaali
それから そうして 降りてきた。もう 次の日だか いったか

3-276

tii əəktə piktə bakamı.
そうして 女は 子供を 産む。

3-277

kojak bakaxan ələə, tii ii, xusə, xusəwə bakaxan.
パッと 産んだ、もう、そうして、そう、男の子を、男の子を 産んだ。

3-278

uzhe guči xusəwə bakaxan. tii ədəkə-dəə~
もう また 男の子を 産んだ。 そうして 義父にも・・・

3-279

tutaraa tii piktəwə kamur japaraa guči tooko...
それから その 子供も 一緒に つかんで、また 上った、

3-280

tii əigə ičəgiwu. məən tii, tii siun əjəni,
そうして 姉にも 見せるべきだ。 自分の、あの、あの 太陽の 主人、

3-281

tiwa ičəndəwu, toobojujan tii piktəwə.
それに 見せるべきだ、連れて上った、その 子供を。

3-282

xarwa tidu baaračim tooxon-daa tidu ojojo~.
何を そこに見出せないことがあるうか、上ったが、そこに、ああ～、

3-283

tis largii nii tis bargajıxan, boipumba,
すごく すばらしい人だ、すっかり 身につけた、ネックレスを、

3-284

mongomba boipombanı jukim aňalawambanı. ıui daajı barbar,
その首に、その鎖を、 首飾りを。 誰が そんなに大きいのを できようか、

3-285

čəŋgə~ čəŋgə tɪmɪ, nɪŋmaalarɪ pɪktə xar gorəjɪmɪ urəɪnɪ.
ブラリ ブラリと揺れている、民話の中の子供が どうして長くかかって育つだろうか。

3-286

uzhe vse. xar əldəŋgə, čop əldəŋgə očmɪ.
もう それまでだ。何が 不思議だろうか、何も ないさ、不思議なことなど。

3-287

gəə, tɪ inəŋ, vot tɪdu, aɒŋjakanjɪmɪ, tɪmar bala,
さあ、その 昼、 ほうれ そこに、 小屋から、 朝早く、 さあ

3-288

gəə ələə sobrat'sja əŋjuxən.
さあ もう、 準備ができた、 下りて行った。

3-289

əksənɪjje-tənii wəndiini, ŋui jrasɪl. "gəə əi siksə ui saa,
言う、 「さあ、この夕方に、

3-290

aalɪ čək, puktəŋəi bisertu~," wəndiini. "puktəŋəi bisertu,
いるように、」と言う。 「いるように、

3-291

əgəəbəəni, əgəəbəəni agaabaanɪ puktəŋəi bisertu," wəndiini.
母の方へ、 母の方へ、 父の方へ いるように、」と言う。

3-292

"gəə tɪ tɪlapu-ma," wəndiini, "ajaŋɪ bii osmɪ."
「さあ、そうしよう、」と言う、 「よく 暮らしているのなら、」と。

3-293

gəə, əŋjuxə~n əsi, tɪ piktəwə japaŋuraa,
さあ、降りた、 今、そうして子供を 再びつかんでから、

3-294

ambi xəmdəŋi doolanɪ nəərəə, mənə ʊnaa əŋjuxən.
自分の父親のお腹の所に、中に 入れて、自らが 乗って降りた。

3-295

asɪjɪ-daa xoldon, muruŋguni xarwa, tɪ əŋjuxən.
自分の妻も 脇腹の所に、 そうして降りた。

3-296

ambaan daaŋɪ osɪɪ, tɪ piktə, xusə piktə. ičəŋəi-mə,
やや 大きくなっていた、その子供は、男の子は。 ちょっと見たらばすぐに、

3-297

xarwa-daa xum čupal saarɪmɪ. əldəŋgə. ələə daaŋɪ osmɪ.
何でも 全て、みんな 理解してしまうのだ。 不思議だ。もう 大きくなった。

3-298

siñaktawa-daa garpanası~, tuksawa-daa xai, bəičəi~, oçını.
毛皮獣も 撃つようになり、ウサギも 何だ、狩りするように、なった。

3-299

ambaan daajı oçını. tami-dəə ambaan daajı, əi jıjamər kadi.
けっこう大きくなった。そうしていたが けっこう大きい、この。

3-300

tami-dəə wəndiini, "amaa, əñəə, daada, daama,
そうしていたが 言う、 「父さん、母さん、おじいさん、おばあさん、

3-301

bii-kəə," wəndiini, "siun tokombanı ɣənəijə," wəndiini.
僕は、」と言う、 「太陽の真ん中へ 行くよ、」と言う。

3-302

"siun tokombanı. səəğjən namu, siun tokonja kaltaajıanı səəğjən namu,
「太陽の真ん中へ。 赤い 海、 太陽の真ん中の側の所には赤い 海、

3-303

tıla ɣənəi," wəndiini.
そこに行くんだ、」と言う。

3-304

"tajajı jabda didiini," wəndiini, "jabda, mimbi waajdamı didiini.
「あそこから大蛇がやって来る、」と言う、 「大蛇が、僕を 殺しに やって来る。

3-305

bii tıjı baaçırdamı ɣənəi," wəndiini. ənini amını osısını-guni, xai,
僕はそいつと戦うために 行く、」と言う。 母親と父親は 嫌がるのだ、

3-306

"orkın," wəndiini, "orkın." "aja," wəndiini,
「悪い、」と言う、 「良くない、」と。「大丈夫だよ」と言う、

3-307

"əji ɣəələçiksu," wəndiini. "əji ɣəələçiksu." tətü çupal açuxan.
「恐れなくて、」と言う。 「恐れなくて、」と。服をすっかり脱いだ。

3-308

kərker ñaluxan tı. ičəini, xərəktəni aldaŋkını çupal tasiçını,
投げた、そして。見てみると、その皮膚の間は すっかり

3-309

xərəktəni aldan çupal tasiçı. xai-daa xətəəsini.
皮膚の間は すっかり 何も 叶わないように。

3-310

sələ-məç oçını, xərəktəni. tutaraa tı xajı,
鉄のようになっていた、彼の皮膚は。それからあの、あれで、

3-311

gəur ɪɟdawa wəmbuwu, tamataa ɪɟda, sələmə ɪɟda.
グウルの 犬という名の、 そのような 犬、 鉄の 犬だ、

3-312

tʃi tʃi ɲənəxən. xaxukʃi ičəjəməri tʃi ɲənəi tʃi dooxombani.
それで、そうして行った。 見ながら、そうして行く、そうして

3-313

tʃi, ɲənəxən tʃi ɲənəxən tʃi ɲənəxə~n,
そうして、行った、そうして行った、そこへ行った、

3-314

təəti ɲənəxən, tajaʃi ʃiɲiɲ
ほうれずっと遠くそこへ行った、そこから ああすごい、

3-315

ʃəɟdə əi-mə tʃi didiini. ʃəɟdə ʃiɲiɲ, ɔlɡomɪ ʃəɟdə, didiini.
火が そんな風に そうして やって来る。火が、 すごく、大蛇の 火が、 来る。

3-316

xai, xai wəndiini, xai~ əsi, tawasi tʃi, ɲaalaji gajaɲčumi,
何だ、何だ、言う、 ええと何だ、今、そこへ そうして自分の手を 振りかざした、

3-317

əusi tʃi gajaɲčumi, pəisi,
こっちへ そうして 指し示すと、下へ

3-318

məən məən dičini poktola ɲɲar, xai ʃəɟdəni.
勝手に 勝手に 来た 道から、消えて行った、何だ、火は。

3-319

ʃəɟdə-dəə kəwə, xai-daa kəwə, čupal buuktu xodaxan. vot dabdaxan.
火も 無く、何も 無く、すっかり 消えてしまつて終わった。ほうら 勝った。

3-320

dabdaxanwa dabdaxan, i puɲar obratno ʃiɲuxən.
勝った、 勝った、 そして雪煙を上げて来た方向へ 戻った。

3-321

vot. vot ɲawʃaka. gəə tʃi baa nɪni piktəni, siunʃi piktə.
ほうれ、ほれ 若者は。 さあ、そのようだ、天の人の 子供は、太陽の子供は。

3-322

siunʃi piktəʃini, xamataamba-daa čupal saarɪni. xai-daa ugdambani~,
太陽の 子供でなら、どんな事だって 全て 知っている。どんな 言い伝えも、

3-323

xamattani-daa təəlunguwə čupal saarɪ, əldəŋgeʃi tʃi baldaxan.
どんな 伝説だって、全て 知っている、不可思議に そのように生まれついた。

3-324

gəə tɪ gursəl tɪ biçiti.

さあ その者達は そうして 暮らしていた。

3-325

amɪni-daa sagdanjuxan, ənini-dəə sagdanjuxan.

父親も 年老いた、 母親も 年老いた。

3-326

vot taki i byli, gəə i tɪ baldumaari-dəə uləən biçiti.

ほうれ そんな風に いた、 さあ、で、 そうして 暮らしていたが 良く 暮らしていた。

3-327

xagdɔni-daa biruuwə, biruuni daaji, daaji biruu oçɪni.

家も 村を、 村は 大きい、大きな 村と なった。

3-328

nɪ gasan, tɪs daaji. naamaji ətəwu nɪ paaʃi bii, tɪ biruudu.

人の村は、 すごく 大きい。 良く 見張っている 人が 特別にいる、 その村には。

3-329

ətəwuri gursəl. xamataani kəwə tɪdu.

見張りの 人々が。 何だって 無いことがあろうか、 そこには。

3-330

xamataa maɪman kəwə~, xamataa nɪ kəwə,

どんな 船だって 無いことか、 どんな 人だって いないことがあろうか、

3-331

tɪs largɪ biçiti. gəə tɪ biçini, jələ,

すごく すばらしかった。 さあ そうして いた、 ここまで、

3-332

xarjaara naani jələ baldaxani biçini, ələə.

ウルチャの人は そこまで、 暮らしていたの だった、 そこまで。

3-333

naani uisii ugdimi-la tookpaçixani siumbəəni,

彼は 上へ 上った、 太陽の方へ、

3-334

tɪ əəktə ugdimi-dəə asi asi, gəə tookpaçixan.

そうして 女を 得たが、 妻、妻とともに 上った。

3-335

tɪ piktə əsi asijuji bakaxani. bakaxan-nuu bakaxani-nuu,

その 子供は 今や 自分の妻を 得た。 得たんだか、 どうしたんだか、

3-336

xaali-daa bakaxani. gəə tutaraa, tɪ biməəri-dəə wəndiini,

いつだかに 得た。 さあ それから、 そうして 暮らして いて 言う、

3-337

amini wendiini, "bii-dæ sagdanjuxa~n, əñæ-dæ sagdanjuxan.
父親が言う、「私も 年老いた、 母さんも 年老いた。

3-338

tii gursəlbe, tmana inəñji, məəpi singərəxən gursəlbe
あの者たちを、明日の 昼から、自分を 苦しめた 者たちを、

3-339

əksəlbe naa əjəmbəni, waəndamı dauksu" wendiini.
女たちを、土地の 主人を、 殺しに 渡って行け、」と言う。

3-340

tii biruubəəni, manggu, bəjra kaltaajila.
あの村の方へ、 大河の、 向こう岸の 側に。

3-341

tutaraa tii xəsəni daxurma dauvan, tii, tii ñawjaka-daa dauvan.
それから その言葉の とおりに 渡った、 そうして、 その 若者は 渡った。

3-342

tii ñawjaka dauvan osim, mərəgen taijumi-guni xai.
その若者は 渡った なら、 英雄の 振る舞いであるのだ、 さあ。

3-343

vot kak oni byli. tii bičiti,
ほうれ そんな風に 彼らは 暮らした、 そのよう だった、

3-344

largii, largii niu bičiti.
すばらしく、 すばらしく 人は 暮らした。

3-345

tis uləəñji~, tis largıñji~, tis bəjanji, tis uləəñji baldaxati.
すごく 良く、 すごく すばらしく、 すごく 豊かに、 すごく 良く 暮らした。

3-346

xai-daa xətəəsini bičiti naati. vot əi niqmaa, əi niqmaa jələ bii.
何者も 叶わないの だった、 彼らには。 ほうれ この 民話は、 この 話は ここまでだ。

3-347

tochno, vse. ələə, jələ bii. ələə.
間違いなく、 終わり。 それまで、 ここまでだ。 それまで。

1993年8月3日 プラバ村にて録音
M. S. Duwang氏 口述

4. tælunngu
伝説

4-001

gəə, buə munu daaji sagdilmu, baldaxan,
さて、我ら 私たちの 偉大なる 先祖の老人たちは、暮らしていた、

4-002

baldaxan. xasu añan-nuu
暮らしていた。 何 年頃のことなんだか、

4-003

bii saarasim-guni. tii balanaa~ baldaxati,
私は 知らないのだ。 そうして ずっと昔に 暮らしていた、

4-004

čup gor baadu baldaxati, gəərinjip, gəərinjip wəmbuwu,
全く 別の 土地に 暮らしていた、 グーリンジ、 グーリンジ という名の

4-005

kaltaajila baldaxati, tii gəərinjip wəmbu, jədu biəsinii,
地方で 暮らしていた、その グーリンジ という名の、ここでは ない、

4-006

goro bua. naa duwəni~, baa duwəni~-dəə. tıdu
遠い 土地だ、地の 果て、 地の 果てだ。 そこに

4-007

baldaxati. mun mun sagdilmu. tıdu baldaxanjiji,
暮らしていた。 我らが 先祖達は。 そこに 暮らしていてから

4-008

tii biməəri, xamataani-daa bejen, xamataa xai,
そうしていて、 いかなる 獣も、 いかなる 何だ、

4-009

tii waaktamaari, tii baldamaari, tii bičiti, nn.
そうして 獲りまくって、 そうして 暮らして、 そうして いた、 うむ。

4-010

tawanči, gəə tawanči tıdu, tıdu bičin,
そこへ、 さあ そこへ そこに そこに いた、

4-011

kulaan-daa ŋuuji-dəə umutu~, jabda, muuji, muduli, xamataani-daa
虫も 蛇も 同じく、 大蛇に カワウソ、 竜、 と いかなる

4-012

kulaan, čupal tıdu baldamı, tıs manga.
虫の類も全て そこに住んでいた、ひどくたくさん。

4-013

bejen-dæ tıs malxu~ xar-daa xum čupal malxu.
獣も とっても多い、何でも全て皆たくさん。

4-014

gæ, tı tuwa waaktamaarı tı, tı bičiti tıdu.
さあ、そうしてそれを獲りまくって そうして、そうして いた、そこに。

4-015

bejen tætu, bejembe waarı~, siro, too,
獣皮の服を、獣を 獲り、野生のトナカイを、ヘラジカを、

4-016

sromba waarı, oromba waarı, oronji tætuæ anju. tı bičiti.
野生のトナカイを 獲り、シカを 獲り、シカ皮で服を作る。そうしていた。

4-017

tawanči tı bimæri-dæ, um mapa wənčini, daaji mapa.
それから そうして いたが、一人の じいさんが 言った、偉大な じいさんが。

4-018

xaalı baldaxa-nuu, xaalı baldaxan, daaji mapa.
いつ 生まれたのか、いつ 生まれたのか、大年輩の じいさん。

4-019

bužaktarı tıs wormı. tı mapa wəndiini,
髭は すごく長い。その じいさんが 言う、

4-020

”gæ, buæ əsi jədu xarwa tamı biwu, ŋəneisu~,” wəndiini.
「さあ、我々は今 ここに何を して 留まっているべきか、行こう、」と言う。

4-021

”ñı baldamı baatı~, ñı biini baatı~, ŋəneisu~,” wəndiini.
「人が暮らしている 土地へ、人が いる 土地へ、行こう。」と言う。

4-022

”əi mangı dərənjinı, əj mangı, tı tı
「このアムールの支流から、このアムールの、その

4-023

tawanči, tı ŋərinjip, tılanı naatı biini tam
そこから、あの グーリンジの、向かう側に 彼らはいる、

4-024

tıdu ŋægejən baa, ŋægejən baa. gæ, tawanči dimeəri,
そこには 明るく美しい土地、明るい 土地がある。さあ、そこへ 来て、

4-025

tɪ xarlaraa xajumbari tɪ ʒapaktaxaa~l, ŋuučikəŋjuməri
そうして 何して、家財道具を、そうして 取った、 子供達も

4-026

čupal ʒapaxaa~l, gəə tɪ olbmaari, tɪ dičiti naawa.
全員 連れて行った、 さあ そうして 運んで行って、そうして 進んで来た、その土地を。

4-027

tutaraa mangʊ dərentini əuxəti, əi mangʊ dərentini.
それから アムールの 支流へ 下りて来た。このアムールの 支流へ。

4-028

tutaraa tawanči xooni, əsi xooni ŋənəwu,
それから そこから どうやって、今度は どうやって 行くべきか、

4-029

xəjəni tis mangʊ əi mangʊ. gəə, tɪ-dɪ wəndiini
流れは ひどく きつい、この 大河は。 さあ そこで 言う、

4-030

''gəə əsi xooni tawu, moo tugbulsirəə
「さあ、今 どうやってすべきか、木を 倒して

4-031

mooʒi ugda anʒuisu, '' wəndiini, ''mooʒi, ugda anʒumi, təmə-məəči,
木で 船を 作れ、」 と言う、 「木で、 船を 作り、 筏のように、

4-032

təmə-məəči anʒuraa tɪla təučirəə tɪ xəjənʒuisu, '' wəndiini.
筏のように 作って、 そこに 積んで そうして 流れて行こう、」 と言う。

4-033

gəə aja-guni. tɪ-daa aja~,
さあ、良いのだ。 そうするも よし、

4-034

baa uləən osiri, uləənʒi ŋənəwu, əj mangʊ xəjəni tis mangʊ.
天気が 良い ならば、良い時に 行くべし、この 大河の 流れは とても 激しい。

4-035

gəə tɪ tawanči tɪ, tɪ xəjəməri
さあ そうして そこから そうして 流れる、

4-036

ʒəkpɪi~, xodaxaa~l, tawanči tɪ, tɪ xəjənčiti.
食事した、終わった、 それから そうして 流れて下った。

4-037

tɪ xəjəməri-dəə~ ambaa goro, goro xəjənčiti,
そうして 流れていったが、 かなり 遠く、 遠く 流れた。

4-038

um dolboni~, um inəŋi xəjənčiti. tamr-dəə ŋŋi gasambani ičəxəti.
まる一晚、まる一日 流れた。 そうして 人の 村を 見た。

4-039

tutaraa murčiini, tŋi mapa wəndiini, 'əi
それから 考える。 その じいさんが 言う、 「この

4-040

ŋŋi gasambani xəčumi aja," wəndiini. gəə jədu
人の 村に 立ち寄るのも よい、」と 言う。 さあ そこで

4-041

xəčŋəsi-mət, 'xəčŋi, ŋŋi čupal, ŋŋi aldaču,"
立ち寄る、 「立ち寄ったら、人は 皆、 人は 説明するのだぞ、」と

4-042

wəndiini. 'ŋŋi jəki ŋŋi biiwəni~, xoonr-daa ŋŋi biiwəni~,
言う。 「人が ここ通って来て いることを どうやって いることを、

4-043

čupal ŋŋi aldačila-ma," wəndiini. gəə aja-guni.
全部 話してきかせよう、」と 言う。 さあ よいのだ。

4-044

gəə tŋi xəjənčuməəri, ŋəəm-dəə~ giwaanaxani.
さあ そうして 流れて、 明るく 夜が明けてきた。

4-045

ələə tŋi gasamba isxaa~l. beregni tis largŋi. sia~n, jori.
もう その 村に 着いた。 その 岸边は とても すばらしい。 砂と、 砂利だ。

4-046

kargŋi, kargŋi naani, tŋi kargŋi naani, tuwa
すてきな場所だ、すてきな 地に、そこに 良い場所に 彼らは、そこに

4-047

isxatŋi biəsi-kəə, tŋi gasamba. tŋidu ŋŋi tis malxu,~
着いた んじゃないか、その 村に。 そこには 人々が ひどく たくさん

4-048

naaŋi, goldŋi-mal. gəə, xulunčŋi~ čupal xulumbuxəə~l,
ウルチャと、ナーナイだけだ。 さあ、 舟を下りた、全部 (荷を) 下ろした。

4-049

ŋŋisal-daa əuxəə~l, ičəŋdəxəə~l, sorodŋdaxaa~l.
人々が 岸へ下りて来た、見に来た、 挨拶をしに来た。

4-050

tutaraa tŋi wəndiini, gəə, tŋidu xəčuxən, xəčuxən
それから こう 言う、 さあ、 そこに 立ち寄った、立ち寄った、

4-051

tıdu awunjaxaal. tamı-dəə tıdu naa tıı, kargı-a
そこに泊まった。ところがそこにその地のその良い場所の

4-052

ʃangudmı wəndiini, "gəə, um ʃıawar jədu ɲaalaksuu," wəndiini,
長が言う、「さあ、一つ自分の仲間をここに残せ、」と言う、

4-053

um xubaamba, naati ilaan xubaa,
一組のグループを、彼らは三つのグループだった、

4-054

mun, mun isxan. gəə, tutaraa tıı ɲui, mixail, ɲui,
私達の着いたのは、さあそれからその誰だっけ、ミハイル... 誰だっけ

4-055

əsi isxapı arıma doolan wəndii-dəə oɲboı,
今着いた、(口の口まで出かかっているのだが忘れた、)

4-056

um, um xala, um, um xala tıdu dərəjixən. mıga, mixajı,
ある、ある一族が、一つの一族がそこに残った。ミガ、ミハイル、

4-057

mıga mixail. tıı amını, tıı amnaanı tıı dərəjixən, kargıdu.
ミガ ミハイル。その父が、その父たちがそうして残った、その良い場所に。

4-058

tıı mun duxamu, u nas eto tozhe.
それは我らの親戚だ、私たちにとってもそれはそうだ。

4-059

gəə tıdu, tıı dərəjixə~n, gəə tıı dolbonı
さあそこにそうして残った、さあその夜は

4-060

tıs arakı umnasıxa~n, tıs určunundi, largıı,
たつぷりと酒を 一晩中飲んだ、たつぷりと話をする、すてきだ、

4-061

tıı təəsuməəri tıı určunundi, "gəə ɲənəməəri-dəə~
そうして座り込んで そうして話をする、「さあ行ったならば

4-062

bakalası-ma," wəndiini, "ɲıı gasanı-daa bii~,
見つけることだろう、」と言う、「人の村もある、

4-063

lučaa gasanı-daa əgdi~, tıı ɲənəpi bakalası-ma," wəndiini.
ロシア人の村も 多い、そうして行くと、見つけることだろう、」と言う。

4-064

”gəə xaila-daa um, məən uləəsii baatji ɲənəmi,
「さあ どこでもよい、一つ、自分の 気に入る 場所へ 行って、

4-065

tɪɾdu kookaŋasɪ-tanɪ,” wəndiini.
そこに 留まるがよい、」 と 言う。

4-066

gəə, gəə tɪmana ələə, ələə tɪ, naa, naa ugdawanɪ buuxəti,
さあ、さあ 明日は もう (旅立つ)、そしてその土地の 船を 与えた、

4-067

daa ugda, tunjan ɣioli ugda. tutaraa tɪla təwəwəni təuɕirəə
大きな 船、 五つ 櫂のある 船。 それから それに 荷物を 積んで、

4-068

tawanɕi tɪ, tɪ, tɪ diɕi, xəjənɕiti,
そこから そして 来た、流れて来た、

4-069

tɪ mun ɶiasil, mun, mun daaji gursəl, mapasal.
そして 我らが 仲間たち、 我らが 偉大なる 先祖たち、 じいさんたち。

4-070

gəə, xoonɪ, ɲənəmi-dəə~ luɕa gasambanɪ bakaxatɪ.
さあ、どうした、 行って、 ロシア人の 村を 見つけた。

4-071

luɕa gasa-nuu? luɕa gasambanɪ bakaxan, tuwa xəɕumi kəwə.
ロシア人の 村か? ロシア人の 村を 見つけた、それには 立ち寄りはない、

4-072

tɪ ɲənəmi-dəə naaɲɪ gasambanɪ baaxatɪ.
そして 行ったが ウルチャの 村を 見つけた。

4-073

naaɲɪ gasan baaxan-daa tɪla-daa xəɕumi-dəə kəwə.
ウルチャの 村を 見つけたが そこにも 立ち寄ることを しなかった。

4-074

kaŋ tɪ talja... tamɪ-dəə, tɪ diməəri-dəə, xarwa,
川の反対側、 ところが、 そして来たが、 何を、

4-075

kargɪwa baaxatɪ. kargɪwanɪ tɪ kargɪ gasan-daa
すてきな場所を見つけた。 すてきな場所を そうした すてきな 村を、

4-076

ambaan daaji biɕin təəli. tuwa-daa xəɕuməəri-dəə kəwə~,
けっこう 大き かった、 その時に。 そいつにも 立ち寄ることも なかった、

4-077

taasi, tu xəjəmæri, xarwa, sapiskawa,
そして、そうして流れて、何を、サフィースクを、

4-078

lučaa gasambaan, tuwa, tuwa bakaxati, ičəxəti.
ロシア人の村の方、そいつを見つけた、見た。

4-079

”gəə, jəwə, əi tu xurəən tɪlanɪ, tu əi maŋgu ŋənəini
「さあ、これをこれはあの山の向こう側だ、それはこの大河を行って

4-080

tɪlanɪ, tu, takɪ naa duwəni, kadal duwəni,
向こうにある、そのそこの地の端、崖つぶちの端、

4-081

əi tɪlanɪ apɪjəisu,” wəndiini, ”tɪdu uŋurəjui~, jəkpi~ , určənəndɪ,
この向こうで休もう、」と言う、「そこで煮て食べて、話して、

4-082

gəə tawanči tɪdu apɪjaači guči xəjəmi aja,” wəndiini,
さあそれからそこで休んでからまた流れて行けばよい、」と言う、

4-083

”ŋənəmi aja,” wəndiini. gəə, gəə sɪla tɪla xaŋdaxa~n,
「行けばよい、」と言う。さあ、さあやっこさそこに着岸した、

4-084

uŋurəjuxə~n uŋuwə tɪsəuxa~n.
煮た、鍋を火にかけた、

4-085

ŋui ulsəŋguji xamaataaŋguji jəpuu tɪs bii aja.
誰の肉、誰のあれやこれやの物、食べ物、たつぷりとある、よし。

4-086

gəə, jəmæri xodaxaŋji tɪdu, určənəndɪ. əsi məən-mə
さあ、食べて終わってからそこで、話をする。今自分たちは

4-087

xamataa baati ŋənəwu-nuu, xamataa naati ŋənəwu-nuu,
いかなる場所へ行くべきであろうか、いかなる地へ行くべきであろうか、

4-088

ŋui-dəə saarasi. məən xoonɪ uləəsii,
誰も知らない。自らがどれだけ気に入るか、

4-089

xoonɪ uləəsii naati ŋənəruu, tɪdu baldumɪ aja,” wəndiini.
それだけ十分に気に入った土地へ行け、そこに暮らせばよい、」と言う。

4-090

gəə tɪdʊ ʊrʧʊnʊndɪrɪ. gəə aja-guni.
さあ そこで 話し合う。 さあ よいのだ。

4-091

daar mapa wəndiini "aja-guni," wəndiini, "sun tixalarɪ
偉大な じいさんが言う、 「よかろう、」と 言う。 「おまえたちが 同意して

4-092

opʧanɪ. gəə aja. gəə tawaŋʧɪ dəŋsiluxən,
居残ってくれ。 さあ よし。 さあ それから 動き始めた。

4-093

guʧi ŋənəlʊxən tɪ xəjəjumi. kargɪ, xaiʃɪ, sapiskaji,
再び 行き始めた、 そうして 流れて。 すてきな土地、 どこから、 サフィースクから、

4-094

doowu mangʊ oʧomi-guni, əjədu gawɲɪ, gawɲɪ
内側の 大河と なるのだ、 流れに、 ウルチャの村、 ウルチャの村、

4-095

ɲɪ gasan tɪdʊ bii gawɲɪ-daa, doowu mangʊki
人々の 村も そこに ある、 ウルチャの村も、 内側の 大河に沿って

4-096

tɪ xəjəmæri tɪ ŋənəxəti. tɪ xəjəmi ŋənəmi,
そうして 流れて そうして 行った。 そうして 流れて 行って、

4-097

xarla ŋənəxən. kiʃɪ, xurəəmbəni iʧəxəti,
どこに 行った。 キジの、 山を 見た、

4-098

marinska xərəəmbəni, kiʃɪ xurəəmbəni tuwa iʧəxəni.
マリンスクの 山を、 キジの 山を あれを見た。

4-099

"gəə, tɪ xurəəmbə uləən iʧəjuksu, tɪla ŋənəpi xoonɪ biini osɪɪ,
「さあ、あの 山を よく 見ろ、 あそこに行つて どのようであるかを、 そしたら、

4-100

tɪdʊ opuwu-daa-tanii, xoonɪ-daa bii-nuu osɪɪ,
あそこに 留まるかもしれない、 どのようであるか、 そしたら

4-101

tɪ xəjəŋdiləpu-mə. gəə aja-guni xoonɪ taisu.
こうして 流れて行くかもしれない。 さあ よいのだ、 どう する。

4-102

gəə, tɪ xəjəndii~, tɪ ʊrʧʊnʊndɪ ʊrʧumaari
さあ、 そうして 流れて行く、 そう 話す、 話して

4-103

tii xəjəndəə xooni-daa xum xarwa-daa xum určunundır-guni.
そうして 流れて、 なんでも 全て 何をも 全て 話すのである。

4-104

tamr-dəə əi munu kada xəwəən xai, xurəəmbəni ičəxəti.
ところが この 我らが カダの湖、 何だ、 山を 見た。

4-105

too tii kada solr~la ĩii gasan biini,
ほうれあの カダの 上流に 人々の 村が ある、

4-106

pulsanča, pulsa. ĩii gasan biini.
プルサの人々、プルサ村だ。人の 村が ある。

4-107

tuwa-daa xəçumi-dəə kəwə, kil talja diçini. təj didəə,
そこにも 立ち寄り は しない、 その反対側に 来た。 まっすぐ 来て、

4-108

too kada bəjilani daa, daari baača, tıla xaəndaxatı
ほうれカダの 向かい側に 大きな、 大きな 島がある、 そこに 着岸した、

4-109

tii gursəl. tıdu, çupal tuwa, xulumbuxə~n tıdu çupal opa xarı,
その 人々は。 そこで、 全て それを、 荷を降ろした、 そこで 全て 何を 何する、

4-110

gəə tıdu xəgdumba anjıçamı joojburı.
さあ そこで 家を 作ることを 思いたった。

4-111

sirgəni tis siñəktəni-dəə malxuu~, xamataa səjuxə
細長い丘は たっぷり ラムソンも たくさん、 いかなる 果実も

4-112

çupal bii tii baaçandu. tıdu oçtı.
全て ある その 島には。 そこに 留まった。

4-113

um bradu bimi guçi kadambaan dawujuxatı. kadanı tırlanı biini,
一ヶ月 いて、 再び カダの方へ 渡った。 カダの 向こう側に ある、

4-114

əsi-dəə biəsi-kəə mun bəsumbi, ŋj. gəə tii, tıla dawuxatı.
今も あるんじゃないか、 我らが 場所、 うむ。 さあ そうして そこに 渡った。

4-115

gəə tıdu tıla dawujuraa tıdu xəgdumba anjıçamaarı
さあ そこに そこで 渡ってから そこに 家を 作ろうとして

4-116

guči moo xoomi joombuxati.
再び 木を 切ることを 思いたった。

4-117

tami-dəə ičəjuini tıdu obedadu uñurujuməəri,
そうして見る、そこで 昼飯時に 話し合っていると、

4-118

anai um mapa pulməŋdəini, um piktəji juə ñii pulməŋdəini
あらら、一人の じいさんが 歩く、一人の 子供と 二人で 歩いて行く、

4-119

tii kadan duwəni xoolmı. tutaraa dičin.
その カダの 周りを 迂回する。それから やって来た。

4-120

''ənejəə gursəlbə~, '' wəndini, ''suə xai baajımi dičin
「あらら人間がいる、」(彼らは)言う、「おまえたちはいったいどこから来た

4-121

gursəl-kəə, '' wəndiini. ''ñirwə saarası~, ñirwə ičəwəsi
人間か、」と言う。「人を知らない、人を見たことがない

4-122

gursəl-nuu, '' wəndiini ''suə. xai kadamba xəçumi
人たちか、」と言う、「おまえたちは。なんだ、カダに 立ち寄っては

4-123

barbar-nuu, '' wəndiini. ''kadantı xəçumi barbar-nuu, '' wəndii,
いけないのか、」と言う。「カダへ 立ち寄っては いけないのか、」と言うと、

4-124

''buə ñii, '' wəndiini, ''balanaa tii jədu tii baldaıpu, ''
「我らが 人々は、」と言う、「ずっと昔から こうしてここに 暮らしている、」

4-125

wəndiini. kadan bajan, tii ŋui, susu mamarı ədəkəəni,
と言う。カダの 富裕なる、その 誰だっけ、スス ばあさんの 母の父、母方の親戚、

4-126

tısal, tii mapa tı-da-kaa~, daaji mapa bičin-gun,
その人々だ。その じいさんは そうして、偉大な じいさん であったのだ、

4-127

naa, naa əjəni. ''gəə xoomı tırsı, ŋəneısu~, '' wəndii,
その土地の 主人である。「さあ どう する、行こう、」と言う、

4-128

''kadambaan. bii sumbə çupal gajur wəndiini.
「カダ村の方へ。私はおまえ達を 全員 連れて行く」と言う。

4-129

”xagdumbi anjursi-daa gorōji anjuri-daa kəwə~

「家を 作るのも 遠くに 作ることも ない、

4-130

xagdumbi gələisi osimi. ŋii malxuu,” wəndiini

家を 求めるのならば。人々はたくさんだ、」 と言う、

4-131

naani manjui-daa tis malxuu ŋii-daa tis, naaŋi tis malxuu.

その地は 中国人も とても多い、人も たっぷり、ウルチャも とても多い。

4-132

gəə aja-guni, gəə gəə tixalamačixaa~l, určununči,

さあ よいのだ。 さあ さあ 互いに賛成した。 話し合った、

4-133

gəə tii mapa wəndiini, duxa obdaji, məən doola duxa

さあ その じいさんが言う、 親戚となるために、自分たちの間で 親戚と

4-134

oobdaji, aɡaa nəku-məəči oobdaji, bejəmbə waariti mafawa.

なるために、兄弟のように なるために、獣を、殺す、クマを。

4-135

mafawa waariti tutaraa tii tawawani rwaanditi,

クマを 殺す、それから そうして 火を 燃やす、

4-136

siundiiti, iskra, tii tamataa iskra. luča wəndii iskra,

火の粉が散る、火の粉が、こう、このような 火の粉。ロシア人の言う 火の粉、

4-137

mun wəndii siun. gəə tawa rwaanči,

我々の言う 火の粉。さあ 火を 燃やした、

4-138

gəə tiiji tawa rwaandaa, ”gəə əi tawa, sin tawasi,

さあそれで 火を 燃やしてから、「さあ この 火と、おまえの 火と、

4-139

əi tawa um tawa osimi, aɡa nəku-məəči opuwu. tii opuwu,”

この 火が 一つの 火となり、兄弟のように なるべし。そうなるべし、」

4-140

wəndiini, ”duxa opuwu.” gəə aja-gun.

と言う、「親戚となるべし。」 さあ よいのだ。

4-141

gəə tii tixalamačixaa~l, ŋənəxəə~l, uzhe xagdumbaən,

さあ そのように 互いに賛成した、行った、もう 家の方へ、

4-142

əi moo čupal ŋi bargaxa~n, čupal ələə ŋi anjumi,
その木を全て人は用意した、全てもう人々が作っている、

4-143

naa xagduni, daar xagduni, ambaan daaji xagduni.
彼の家、大きな家、けっこう大きな家だ。

4-144

tidu biəsi-kəə sičuwə anjuxa, sushilka,
そこにはあるではないか、新しいのを作った、魚を干す小屋も、

4-145

tii xaali-gdala xai biəsi-kəə, tii, tii daar daamti xagduni
それはいつだってなんでなかっただろうか、そうして、大きな家で

4-146

bičin tidu. tii xagduni tii təəl anjuxan.
あった、そこに。その家をそうしてその時作った。

4-147

gəə, xagdombi xudaxan, čupal xudaxan, gəə oxotindami ŋənəiti.
さあ、家(作り)も終わった、全て終わった、さあ狩りをしに行った。

4-148

juə. əi təə tii ŋənəi osimi bejen biini-guni.
夏である。これはほれそうして行くならば獣がいるのだ。

4-149

ni, gəə mɪwtičixan xaixan ələə waaxan gajuxan.
さあ撃った、どうした、もう獲った、運んで来た。

4-150

gəə gajuxanji tii xairi tii dəŋsii,
さあ持って来て、そうしてどうする、そうして解体する、

4-151

ŋiwa čupal saawančim, tii dəŋsii, uləən tii dəŋsixə~ti,
人々 みんなに知らせた、そうしてさばく、良くそうして解体した、

4-152

gəə əsi siun, əsi siunguji tawa rwaanditi, tutaraa,
さあ今火の粉、今火の粉を飛ばして火を焚いた、それから、

4-153

''əi tawa, sin tawasi-daa mingi~, min tawaji-daa singi,
「この火、お前の火も私の火だ、私の火もお前の火だ、

4-154

tii osimi, '' wəndiini. ''agaa nəkuu-məəči osuwu, duxa.
そうなる、」と言う。「兄弟と なるように、親戚と。

4-155

tii opuwu tii balduwu," wendiini.

そうなるように、そうして暮らすように、」と言う。

4-156

"sugdatani-daa tis tuumi, xəwəən tis daari xəwəən, kada xəwəən,
「魚も たつぷりと捕って、湖は すごく大きな湖だ、 カダの湖は、

4-157

kada xəwəən, xamataani-daa sugdata čupal bii,
カダの湖は、 どんな 魚だって全部 いる、

4-158

xamataani-daa nupolta čupal bii. gəə tii jədu balduwu osiri
どんな 毛皮獣も全部 いる。さあ、そうしてここで暮らすこととなれば

4-159

largu~, " wendiini, "uləən, uləənji balduwu," wendiini.
すてきだ、」と言う、 「良い、良く 暮らせる、」と言う。

4-160

gəə, gəə tii tixalamačixaa~, tii bisi~. xasu aňan-nuu,
さあ、さあ そうして同意し合った、 そうしている。 何 年だか、

4-161

nadan aňan-nuu ńungun aňan-nuu bičini. bolo-nuu tuwə-nuu.
七 年だか、 六 年だか だった。秋だか 冬だか。

4-162

tuwə bilə, tuwə bilə~, bolo, bolojur-tə bilə.
冬 だろう、冬 だろう、秋、 また秋になるの だろう。

4-163

ambaan kaalčami, tigr. gəə tii, min aagbi
トラが 近くまで忍び寄って来た、トラだ。さあ そうして私の 兄、

4-164

əsiwəndə bičin tii, əsiwəndə bučin-guni,
ついこの間まで いた、あのつい最近 亡くなったのだ、

4-165

tii, tii min aagbi, um jiaji uručunumaari tii soloi ńənəxəti,
その、その私の 兄が、一人の仲間と話しながら、 そうして川を遡って行った、

4-166

təə duwə, xarti, ńii gasanti, ńimərxəti. taraa xaması jįjumi,
ほうれあのはずれに、どこへ、人の村へ、 お客に行った。それから 後ろへ 戻って、

4-167

tii xagdumbaani iijičəxəni, tii min daambi xagduntmi.
その家の方へ 入ろうとした、あの私の お祖父さんの家へ。

4-168

kak raz tii kuxnja doolani ətəwuxən, tii amba.
ちょうどその時、その 台所の 中で 待ち受けていた、そのトヲは。

4-169

učə iiriijini gəsə, vot
戸に入るや いなや、ほれ、

4-170

tii ńurwa bultı tirəxəni, bultı tirəxəni.
その人を すっかり 押さえつけた、すっかり 押さえつけた。

4-171

gəə, tii pakturlı, tii moo xai biini-guni,
さあ、そうして、 その木の 何があるのだ、

4-172

tuwa ʒapačamı xarırdunı xop ɲaalalanı gapakalaxanı.
それを つかもうとして どうする時に、 ガバツと その腕を ～した。

4-173

gəə tii tamatanjı, xaixanı, tuwa ətəxə~n, ətəwuxə~n
さあそうしてそのようなので、どうした、それを見張っていた、待ち伏せていた、

4-174

xai ʒapaxa~n, tii tuwa ətəwuri luča saarasi,
捕まえた、 そうしてそれが 待ち伏せていることを ロシア人は知らない、

4-175

khabarovsk-a ńıi ətəwundəwəni diwuxə tamataamba. tii ńıi taktu,
ハバロフスクの人が 来た、 そのようなのを。 そうして 人の 倉の、

4-176

učən taila biči, oŋbojılan tii xagdun biči,
戸の 向こうに いた、 はずれの方に その家は あった、

4-177

tuwa saarası. ıgdawa čupal manamı, waaxan, tii dolbonı.
それを 知らないでいた。犬を すっかり 殺し尽くして、殺した、 その 晩に。

4-178

uinəkuu, ilaa uinəku-nuu biči čupal waaxanı.
繋いであった、三匹 繋いでか あったのを 全部 殺した。

4-179

gəə taraa tii ńıi saaxa~n, ilaan muxaljı mıwtılamı
さあそれからその人は知った、 三発の 弾で 撃って

4-180

xawlın waaxa~l. tutaraa əwəsi diči, zvonil, marinskabaanı.
やっとのことで 倒した。 それから こっちへ 来た、電話した、 マリンスクの方へ。

4-181

”gəə waaxapu, tuwa ŋaanjuksu.”

「さあ、獲った、これを取りに來い。」

4-182

balanaa pochta gonjat, pochta murindoni, tila uuwujuraa
昔は 郵便は 馬を走らせて、郵便は 馬に、 それを 乗せてから

4-183

khabarovskabaani gaʒumi, tu ambaamba. tutaraa tu,
ハバロフスクの方へ 運んで行く、 そのトラを。 それから そうして、

4-184

tu biməeri-dəə tu, biiti-guni xai, məən aduri anjur~,
そうして 暮らしていたが、そうして、 いるのだ、 自分たちの網も 作り、

4-185

məne dagdali anjur~, silčimba tis waarii dawa tis waarii
自分たちの大網も 作り、 夏の鮭も たっぶり 捕り、 秋の鮭も たっぶり 捕り、

4-186

əere tis waarii sugdata tis waarii, aʒimba tis waarii
マスも たっぶり 捕り、 魚も たっぶり 捕り、 カルーガも たっぶり 捕り、

4-187

koŋdo tis waarii, koŋdo tis waarii
チョウザメも たっぶり 捕り、 チョウザメを たっぶり 捕って、

4-188

aʒimba tis waarii tu buksəwəni manju magazmduni xudasii.
カルーガを たっぶり 捕って、 その 軟骨を 中国人の店で 売る。

4-189

xamatani-daa jəpuuwə čupal gadii. xoton, manju xotonjini
どんな 食べ物だって 全部 買う。 町、 中国の 町から

4-190

didiini mama, xəjəndiini,
来る 荷船のはしけが、 流れて下って来る、

4-191

tu xaŋdami, xaisi-ma tila xudasii, nanta xodasii,
そうして 着岸して、 再び そこで 商売をする、 毛皮を 売り買いする、

4-192

ŋui səəpə nantani, sulı nantani, xamil nantawa čupal xudasowu.
ある者は クロテンの 毛皮を、 キツネの 毛皮を、 何かの 毛皮を たくさん 売る。

4-193

gəə tuji bajančiti, səurə ŋui xamataa
さあ、それで 金持ちになって、 絹を、 ある者は どんなのでも

4-194

čupal gadu, xamataani-daa busu čupal gadu, jəpuu-dəə
たつぷりと買い、どんな 布だつてたつぷり買い、食糧だつて

4-195

tis tu gadu. gəə tu baldaxatu.
たつぷりとそうして買う。さあ そうして 暮らしていた。

4-196

tu baldamaari-dəə tu baldamaari tu, manju tis bučin,
そうして暮らしていたが、そうして暮らしていてそうして、中国人もたくさん死んだ、

4-197

malxuu, tu naadu, əi kadandu. um inəŋə tunja jungun nəəriini.
たくさん、その地で、この良い土地で。ある一日に五人、六人も亡くなる。

4-198

ŋui korpini xumumi, ŋui-dəə korpini-daa kəwə,
誰が間に合うだろうか、埋めるのに、誰も 間に合う者など いないさ、

4-199

tutu tawasi əwəsi naa taxan
ほうれそのあっちへ こっちへ地面を掘った、

4-200

tu xumuxə. tis bučin.
そうして 埋めた。 たくさん死んだ。

4-201

gəə tu biči, tu biməəri-dəə
さあそうしていた、そうして暮らしていて、

4-202

məən jrasini-daa tu budii-gun, mapasal, ŋuučikəən gursəl,
自分の仲間たちも そうして死ぬのだ、老人たち、若い 者たちも、

4-203

tusal-daa umutu tu budii, xasua xasua mapa očuxani.
そんな者たちも 同じ、そうして死ぬ、幾人、幾人ほどのじいさんとなつてしまった。

4-204

min daaməŋguji-daa deshataj goda umer,
私の養祖父も 十歳の時に死んだ、

4-205

mimbi ujičuxən mapa. gəə, xooni, əsi baldowu,
私を 育ててくれたおじいさん。さあ、どう、今、暮らして行くべきか、

4-206

xoon tasi, əsi-dəə baldowu, tu baldumi,
どうやってこれから、今 暮らすのに、こうして暮らして、

4-207

tii sugdataji-mal baldowu~. sugdataji ulænji waapi ulænji baldowu,
こうして魚で 暮らすべきだ。魚で 良く 捕って、良く 暮らすべきだ、

4-208

əsi, bæičuku-dæ kəwə oçuxa~n, xar-daa kəwəni.
今、狩りの獲物もいなくなった、何も いない。

4-209

səəpə-dæ kəwə~ xar-daa kəwə, oçuxani. sugdataji-mal
クロテンもいないし、何も いない、なった。魚ばかりで

4-210

tii baldar. buə waari-guni bejen xarwa-daa waari siru,
そうして 暮らす。私たちは 獲るのだ、大型獣も 何でも 獲る、野生トナカイ、

4-211

eto tii xarwa tii, tuwa waari-guni.
この、そうして、何を、そうして、あれを 獲るのだ。

4-212

toowa waari, bejəwə waari, gəə tii tiiji, tamatanji-mal
ヘラジカを 獲る、大型獣を 取る、さあ そうしてそれで、そのようなものばかりで

4-213

naati ulænji baldaxati. gəə jələ bičimbi, buə mun
彼らは 良く 暮らした。さあここに いて、私たちは 私たちの、

4-214

əsi puə... jərgəjəxəpu, buə daaji gursəl-dæ ŋui-dæ
今、 悲しい事となった、私たちは 年輩の人々も 誰も

4-215

ŋui-dæ kəwə oçuxa~n, mapasal-daa ŋui-dæ ŋui-dæ kəwə oçuxa~n,
誰も いなくなった、じいさんたちも 誰も 誰も いなくなった、

4-216

əi amiri~, əi amiri nəuni~, mundu bičini
この 父親と、この 父親の 弟と、私たちの所に いた

4-217

koŋoŋoso wəmbuwu. ŋui, bətəkə mapa~, iwan mapa~,
亡くなった親族と 言うべき者は。誰だっけ、プトウク じいさん、イワン じいさん、

4-218

apai mapa~, oçuxani. ələə mapa net bol'she
アパイ 爺さん、 だけになった。それだけだ、じいさんたちは、もうそれ以上いない、

4-219

min min daambi~ oçuxani. gəə, min amimbi~-daa.
私の 祖父と、 だけになった。さあ、私の 父も、だ。

4-220

gəə, min əgəŋguji, giləm asijuri japaxa~n.
さあ、私の 義理の姉を、ギリヤークの者が 自分の妻に 連れて行った。

4-221

umunduma əigəwəji daaji əjgəwəji, xarbaani, kadakambaani japaxa~n.
一人の方の 姉を 大きい方の 姉を、どちらの方へ、カダカンの方へ 連れて行った。

4-222

guiwə, pulə ənini. umunduma, pundaji,
誰を、プラ 姉さんを。一人を、 私の姉を、

4-223

daaji əgəŋguji-dəə xais umutu kolčoombaani japaxa~n.
大きな 姉さんも 再び 同じく カリチョームの方へ 連れて行った。

4-224

tii, ñəədiga mapa mamawa-la tii gaajuxati giləm,
そうして じいさんと ばあさんを そうして 連れて行った、ギリヤーク人は、

4-225

tərəmbəəni gaajuxati. beloglinka, tıdu biçiti,
トゥイルの方へ 連れて行った。ベログリンカ村、そこに 彼らはいた、

4-226

eto plastin.
それは プラスチンだ(?)。

4-227

guçi biini. guçi bii otrıtakan aldaçı, bii
まだ ある。まだ ある、ほんの少しだけ 話そう、私は、

4-228

xəŋgundu, juə umu aňandu biçimbi, məən əmbi
アムグン川に、一、二年 いた、自分の 母親の

4-229

agəŋgudunı biçinmbi. mimbi, ñuučkə biçimbi, ələə
お兄さんの所に いた。私を、小さかったけれども、もう

4-230

daajmaxan rosta takaja, mimbi, xəŋgun dərəmbəəni,
大きくなってきていた、背丈は こんなもんだ、私を、アムグン川の 源の方へ、

4-231

mimbi olbmçi jaiji. tii ɣənəxəpu.
私を 運んでいった、小舟で。そうして 我々は行った。

4-232

tokon awunjaxapu-nuu, namu umutu tii, tii xəŋgun xəwəəni,
真ん中で 夜を明かしたんだったか、海と まるで同じだ、あの アムグンの 湖は、

4-233

namu-muŋči biini. muuni soo~xuna bii. siun kak raz tla tukuini.
海のように。水は青々としている。日はまさにそこに落ちる。

4-234

tu mimbi jooločumi naawa baawa čupal
そうして私を 大地を地を すっかり

4-235

tiki jooločumi mimbi orpičixan. gəə tawanči tu
そこを通過して 私を 引き上げた。さあそこからそうして

4-236

xamar jijuməəri, tu soliduma xəngunti əwujuxə~n,
通り過ぎて戻って、そうして上流の方の アムグン川の所へ運び下ろした、

4-237

tu, tu apijumaari, bičin, tawanči guči,
そこに、そうして泊まって いた、そこから また、

4-238

xarbaani tərəmbəəni dawuxa~n. tərəmbəəni dawuxanji
どちらの方へ、トゥイルの方へ 渡った。 トゥイルの方へ 渡るや、

4-239

beloglinkati mənə əigəti dawuxan, tu du um bradu biči~,
ベログリンカへ 自分の姉の所へ 渡った、そこで 一ヶ月 いた、

4-240

tawanči tu jijuxənji marta bradunı ja, əwusi
そこからそうして戻って来てから、三月に 私は、ここへ

4-241

jijuxəm. trinadcatom godu, skol'ko ja xodil,
戻って来た。 1913年のことだ、どんなにか 私は 行ったり来たりしたものか、

4-242

bii, min pulčimbi min pulsixəmbi. duwan mixajl simenovich
私は、私の旅した事は、私の旅した事は。ドゥワン ミハイル セミョーノヴィッチは

4-243

xodil. vezde ja xodil, xarı-daa xum čupal pulsixəmbi.
旅した。あらゆるところを私は旅した、どこだって全て、そこらじゅう行ったものだ。

4-244

tutapı~daa buə ilaan ŋı, mun aagbı~,
そうしてしばらくしてからだ、私たちは 三人で、私の 兄と、

4-245

min amənguji, bii, bii ələə kusəču oči. əi, əi namukı,
私の 義父、私、私はもう力持ちになっていた。この、この海に沿って、

4-246

joosonɔdomɪ ɲənəxən, groksa waanɔdamɪ,
アザラシを獲りに行った、アザラシを獲りに行って、

4-247

ilaa ŋɪ-kaa ɲənəxən. ilaan, ilajɪ, ilaan ɲɔda, buə ilaan ŋɪmi.
三人ほどで行った。三人、三人で、三匹の犬、私たちは三人だった。

4-248

tɪ ɲənəxəpu, əi, əi duwanɔki wəəlumi ɲənəxəpu.
そうして私たちは行った、この、この、峠に沿って山越えをして私たちは行った。

4-249

əi duwanɔkɪmi. gəə tɪdu joosoxoni, ugda tɪs malxuʊ ŋɪ,
これを峠越えた。さあそこで、アザラシを獲った。舟はすごくたくさんの人だ、

4-250

mongolčoo, maajɪnčaa, awurɪnčaa, əi bulawančaa,
モンゴル村の者、マーイ村の者、アオリ村の者、この、ブラワ村の者、

4-251

əgdi ugda tɪdu, malxuʊ. tunɟani ɟolɪɪ,
たくさんの方々がそこに、たくさんだ。五人で漕ぐようなのや、

4-252

juŋgun ɟolɪɪ-daa. buə juəɲikəən buə juə ɟolɪɪ.
六人で漕ぐようなものだ。私たちの二人だけの、私たちは二人で漕ぐ。

4-253

xai ɟəbə. um inəɲi juamba waaru, paandon, uləən osɪɪ,
何が楽なものか。一日に十匹を獲り、ある者には、運が良ければ、

4-254

tunɟa juŋgumbə waaru, tutaraa tawanɔɪ, čupal jɪjui-guni, əsi,
五匹、六匹を獲る、それからそこから、すっかり戻って来るのだ、今、

4-255

taaba, tɪla xaangajuxan. tɪla xaangajɪraa
ターバ、そこに再び着岸した。そうして岸に着いてから

4-256

tawanɔɪ tɪ wəəlujumi, kɪji xəwəəmbəəni tɪla wəəlujurəə,
そこからそうして再び山越えして、キジ湖の方へそこで山越えしてから、

4-257

tɪ əwusi jɪjuxən. əi min, min təəlungujə əi.
そうしてここへ戻って来た。これは私の、私の話だ、これは。

4-258

min, min bičini təəlungu. gəə bii tɪ baldaxambi, ɟələ biini,
私の、私のだったな、話は。さあ私はそうして暮らした、これまで暮らしてきた、

4-259

əi buə tɪi gɹoksa ulsəni, xami, ʧupal *integralla* buuxəpu.
この私たちはそうして アザラシの肉は、何だ、すっかり 集積場に やった。

4-260

nantawani-daa təəl tamanɪ mangga bii uləən bičini-guni.
毛皮も その時に、お金は ものすごくある、良かったのだ。

4-261

tii buuxəpu. aja. uləən, miočisiɪ-daa largɪn bičini.
そうして やった。大丈夫。良い、銃を撃つのも すばらしかった。

4-262

xoonɪ-daa tawu ʧupal miočisiɪ-daa aja.
どう するのも、全て、銃を撃つのも 良い。

4-263

gəə tɪi baldaxambɪ. min baldaxanɟɪɟi jələ bisimbi jələ
さあそうして 暮らしていた。私は 生まれて この方 暮らしてきた、これまで、

4-264

məəmbi-lə ʧupal saarnɪ, məəndu bičɪn ʧupal saarnɪ,
自分のことを すっかり わかっている、自分に あったことを全部 知っている、

4-265

orkɪn bičim-dəə kəwə, ɲɲɟi sorumačimi-daa kəwə,
悪いことをしたこともないし、人と 喧嘩したことも ない、

4-266

jələ tɪi baldai, min nəuji əi, buə ʊmɔtu gursəl.
これまで そうして 暮らす、私の 弟も これは、私たちは 同じような 者たちだ。

4-267

gəə tawančɪ buə əsi tɪi bisinɟi əi naati, pulsajɪ,
さあ それから 私たちは 今 そうして いてから、この地へ、 プルサから、

4-268

bisinɟi, əi naati ɲulɟixə~n, 37go goda, jələ ɲulɟixəpu.
いてから、この地へ 引っ越した、 37 年のことだ、ここに 引っ越した。

4-269

tutaraa jədu tɪi baldarpu. əsi tɪi baldarpu.
それから ここに こうして 我々は暮らしている。今 こうして 我々は暮らしている。

4-270

buə ɟuləsi dičipu. buə gəə xagdumbarɪ tɪdu,
私たちは前へ 来た。私たちは共に 家を そこに、

4-271

tɪdu əsi biini gusikanaa gəə xagdunɪ. gəə ələ-guni, bejəmbe-dəə
そこに 今は ある、叔父さんと 一緒の 家だ。 さあもう十分だ、獣も

4-272

baaxambri~, xarwa-daa xum čupal manaxambri bii-dæde məjə-dæ.
得たし、何だって 全て すっかり 獲り尽くした、私も

4-273

gəə, buə jələ, əini tælunguə bii mæn
さあ、我々はここまで、この話は 私自身の

4-274

tælunguji kamurji opowanči, juəji sagdi tælunguni
話だ、一緒に してしまった、二つの 古い 話を

4-275

gəərinjip tjajin dičimbəni towa tælunguičəxə~n.
グーリンジの かなたから やって来たことを そいつを 物語った。

4-276

əjələ bii.
ここまでである。

1. хэул

даа хазілатіі ум гасакаан-даа ум бирүүдү бичини, ыісал.
гээ тii бирүүдү бичини ыii маңгані-гүни,
ыii ларгiні ыii пэскин гэрээ ыii саарііні ыавзака бичини.
сугдата-даа, дэгдэи гаса-даа чупал ваарii~
сүмii сугдатава-даа чупал ваарii, хаматаані-даа
үсэлтэвэ-дээ чупал ваарii бичини
тii, мээн гасанчiсал чупа~л тii тii эпэвэнчини бичин.
тiва гэрээ ыii чупал саарii, гэрээ ыii чупал саарii бичин,
гээ тiiду-гдал тii хаізі агбунчiті-нүү,
хаізі дичити-нүү бүсэл, хаі, коилдараа~ ходузухаті.
кото кото ваараа ходахаті зiңзiң гэрээ ыii,
ыii маңгані-гүни ыавзакамба. тутараа тii хүмүмбэні
хүмүмбэни анзуха-гдал анана~ дэгдэи гаса зiңзiң элээ
дэгдэлэми-нэкэ~, пүктэи бөјөн элээ пүктэми-нэкэ,
гээ тii тii хаівані, гээ тii хэүлвэни тii
тii тii ваахан бүсэлсэл-нүү ібахасал-нүү тii-гдал тii
тii дааі намутіні олбумбами нэнэвэми чагбундами,
чалбундами, хаалі-даа~ эндээ холазуа табдані.
маңгані-даа эндээ, агбунзуа табдані.
гээ тii тii-гдал тii тii хэүл зiңзiң~ мүүки пичэндэми
нэнэини. эси тii мүн *глицсервэ* ичэээчипи-кэ
тii-мээч нэнэини вэндэ. пичэр мүү-дээ пич~чэр
нэнэвэндиити хэүлти олбунмандiті. гээ тii, анзухаті
хаі, бөјөн пүктүні очіні, гилииди анзухаті гаса
дэгдэини-мээч тагухати. тii нэнэини вэндэ.
тiва чагбундами тii бэсүлсэл олбiн... іравандiті.
гээ тiва-гдал доолдараа~ тii, тii наати хаңгii~лани тiкі, хаі,
тii наму-нүү хаі-нүү кiраадуні бии экэсэли. эигэ түнзэ,
ілаан эигэ түнзэ бичити. самані, самаа экэсэл бичин вэндэ~
тii дааі дааі саман амбаан дааі саман.
ум, чүү зүлү оонзату тii гасамба зiзала бии оонзату,
даадума эигэни~ тii хаміікіні бии токкондума оонза,
дэвэдуні-гдал, хаі дүлдүмэ эигэни~ нэүни бичи.
чүү таавдума дүвэ оонзату *или* оонза дүвэдуні-гдал

тii чүү нэүдүмэ, бичи эи, хаi нэүти бичин.
 гээ тiiсал чупал саман таi
 саман-даа бичити-нүү хоон-каа бичити-нүү.
 гээ тiва доолдараа~ тii хэүл пичэндэми нэнэивэни доол...
 3иң3иң~ эүрэрээ, жаајачii хоон-даа тамаарi.
 хоон-даа, 3апамi мүтээси, нүктэ тiс баланаа нааны
раньше же волос длинный из рыбы коже, тii нүктэји,
 ум нүктэји хаi, хэрэрээ тii 3ололохон, *чтобы*
 тiла хочiраа тiс татамачумi, тii, хаали таiсi тiсазупi~
 хамасi таакуi, эүси, мээнэ маңга опi~
берег баани хэрэ туандii, наан таiңчаi маңга опi
 тii тii хэүлвэ наамбаани тii таiсi тii тii
 тiсавандii тамаарi тii, үсүмүкээчихэти-тэнии тii,
 нээ 3апаiчахан тii ээктэ, тii хэүлвэ. тараа тii мүтээси,
 тии ум чiчокаан кэң пэң хэти3эхэн. гээ тii ум
 чiчокаан тii-мээч хаiхан 3ололохон.
 тii ум чiчокаан-даа хаiс тii-мэч хэти3үхэн.
вот всjo, чупал чiчокаан-даа анаа очухати. гээ тii түтүми
 тii хасамi тii нэнэми тii ум, тii дүэндүмэ-дээ хаитi,
 нэүти дичин, гээ тii ээктэ-дээ хаiс тii-мэч-лэ.
 тii үсүмэкээчii тii үсүмүкээчимээри тii, *ни как ни*
могут остановилсja. эндээ-мэт тахати.
 тутараа тii илииндүма эивэ, нэүти, iсiңдахати хэүл
в обсчсчем кээт тiла iсiңдахан. тiду, тiду-даа умуту
 тii умундума гүчи *опјат'* чiчокаан, хэти3үхэн тii умундума.
 хаi ум чiчокаан. гээ тii тii нэүдүма чiчокаан,
 тii-даа тii-мач гуурараа тii-мач татамаачiмаарi-дii~
 хаули хаули хаули хаули, тii хаi, наати элээ элээ хаабгүитi тii,
 3иң3иң хүр тисаазүи, элээ элээ хаабгүзүитi
 хүр тисаазүи тii биини, *a* тii Һав3ака-гдал
 тii арчукаачумi тiду тii бии тii бии тii бии,
 долбо инэң хэмэ хэмэ нүити-дээ хаiва-даа 3алалиасi,
 тii ичэээмi-дii~, "гээ сүү самамбал саалумаарi,
 хаiмаарi тiва хаi 3апамаарi мүтээси-ту," нэнэхэн.
 тутараа, нэнэрээ, үилэ~ оон3а, гапакалараа
 тii хэүлиэвэ, үилэ~ тообу3араа тii оон3а дүэтини
 јэпчэм 3ололохон, тii Һав3ака.
 гээ тiiду-гдал тii Һii 3иң3иң~ элээ маңгалахан бүчин,
 баi гiрамса3i 3үкэ 3үкэ хэрэктэ 3апчi таву очохани,

биини тiду. тутараа~ "гээ сүү самаамбаари саарii гүрсэл,
хоруксу, эи эивэ, хоруаситi осинi симбивэ чуппал
ваактараа ходai-э"-м-дэ вэндии. тii хэмэ хэмэ бичин дүэлэни
тii Һавзaкa-тaниi, тii арчукаачумi тii бичин Һавзaкa.
тiтaрaа, хaи, тii эксэли-гдэ~л тii, хаули *остановили*
зaпaзyхa jэбэ-гүни, тii-хэт Һii ум хэрэктэ
жүкэ жүкэ жaпчii~ гiрамсанi-дaа чупал жүкэ жүкэ жaпчiiмi
биивэни тiвa тii долбо инэж тii jaajai
тii тii jaajai чупал *очередь* iлаан ээктэ самаандiiтi.
тii jaajaiчiiмaарi-дii~ жүлэ инэж хэрэ~ хэрэ *вроде*
түнчүини, тii, тii долбо инэж тii jaajaiчiiмaарi
тii хавасi-дaа хэмэр тii бүсэсүмээри тii самандaмaарi
тii бүсэсамаар... или... хaи жүүи инэндүлэ хаулиa
кiiңалухан. жilжан жүкэ~-дээ. тii илии инэндү-гдал,
тii jaajaiчiiмaарi-дii~, хаули түнчүлүэ вэндэ.
түнчүлүхэн. гээ тii тараа тiду-гдал тii Һавзaкa
дидэрээ, вэнчини-тэнии, "гээ агаа~," вэнчин-тэнии,
"Һii үжэкини биүхэн осинi~, хaи, кичатак iлзyласi~,"
вэнчини, "Һii пэжикини тii биүхэн осинi,
тii хaи түкилэси-тaниi," вэнчин. гээ тiтaрaа тii-гдал
тii дiлинi, нүктэлэни гапакалараа~ хүжэ муда дiли үикини
хэрээлүхэн-тэнии. "гээ аja, агаа, агаа," вэндиини,
"агаа, маңга Һii биүхэн осинi кичатак iлзyласi"-м-дэ.
тiтa~рaа тii-хэт жололохон. хаули кичатак iлзyхан.
гээ тiтaрaа, тii, тiду, тiду-мук саазухатi,
гээ тii тii Һii нэүни вэндэ, эи, тii наамбаанi
хорiңдaмi дичин. хaидy алду доолдараа,
тiвa доолдараа, тii, тii дүэтини дидэрээ, тii тii ээктэти,
үилэрээ тii, тii халачiiмi тii бичин-тэнии
нүити-дээ хaивa-дaа жалалiасi тii арчукаачумi долбо инэж.
нүити-дээ хaивa-дaа вэндэси.
гээ эси тiтaрaа тiду ааннi хаулиa iлзyхa~н. вэндиини-тaниi,
"jэбэ~, jэбэ~, нүи вэмбүвү мимби хурахан-нүү,
нүи вэмбүвү мимби хaи, iлзyванчiiнi-нүү," вэндиини.
тiду эси тii, хaи, "агаа, агаа," вэндиини,
"бии, бии син нэүсi таам-тaниi-а," вэндиини.
"гээ симби jaajaiчiiмaарi эксэл эи, эи iлаан эигэ тунзасал,
эи, хау Һiiжi асiлaсi-нүү." *в общем, на трёх этих* тii iлаан
ээктэжи чупал асiлaxатi ии. гээ тiтaрaа тii тii бичити-тaниi.

мээн баланаа бичин-мэч очуха~н.
тїи нэүни-дээ гэсэ очуха~н, тїи тїи ларгінзї бимээри
тїи, үлээнзи бимээри очухатї-танїи. гээ элээ-тэнии.

2. 3үэ ээктэ балдахати

гээ, бии, балапті ніңмаамба, ніңмаандіі. 3үэ ээктэ, эигэзи 3үэ ңиі, 3үэ хүрээ алдандуні балдаха. тii 3үэ ээктэ. бөјөмбө тii ваарii тii ваарii тii бөјөн3үји тii ваарii. тикээнзи бии, даа~ ха3илати~ тii балдумаари-дii тii бимээри-дii, ба3илани, маңгу ба3илани хотон бии, тii хотон3и, ңиі, омо ңиі, султа3и 3идии, ии. гээ, хэчүхэ~н, иихэ~н, наканду тээхэ~н. гээ, түјүхэ~ түјүмбө ан3уха~н. урчулундii~ хаіва-даа хүм урчулундii, "гээ," вэндини, дэрэвэ наканду нээхэ~н, тii дэрэ ојолани, 3өпүвэ, тiс нээхэн. тiс 3эптии, 3эптии ии. тii ңав3уандума ээктэ, гасі холдон3іла тээхэн, эгэни-гүни гасі холдон3іла тээхэн. тii ңав3ака, дэрэ малудуні тээхэн. гээ, тii урчулундii~ хаіва-даа хүм урчулундii, мээн бичимбэри урчулундii, мээн бөјөмбө хаіки-даа пүліктэми бөјөмбө ваахамби тува урчулундii. гээ, тамі-дii тii урчулумі-дii вэндини, "гээ, бии-кээ," вэндини, "баланаа саарii сүн јэдү биивэси. бии-кээ," вэндини, "асі3үји гэлэндэхэмби-э," вэндини. "сии, нэүвэси, асі3үји 3апаічай-а," вэндини. гээ, тii урчулундii~, тii урчулундii вэндини-дээ нэүни тiхалаха~н. эјгэни тiхалаха~н. гээ, тiмана дауву, тii хотомбаані. тii мэргэн, хотонтіні. наамба мэргэн гаа3уіні мээнбээни, тii ээктэвэ. гээ тiiду аун3уха~н. сиксэ тiс 3эпки~ урчулунчi~, саулмачiха~н. гээ эигэни вэндини, "гээ, мээн ха3умби бормачуу. хаматаані-даа ха3умба, миндү калтані, дэрэ3үи~, сии калтані олбіндii." гээ, тii-даа аја-гүни. гээ, тii ңав3ака вэндини. "гээ эси хооні, ірчумі дау3умі-танii аја-гуні." гээ түчи-дээ бии, інда-даа бии, гээ, інда, амбаан малху інда, інда халіраа, інда3и даурiiні, тii ңав3ака, мэргэн, гаа3уіні. гээ, эигэни-дээ даурii, *провожаі-танii*,

мээн нэүји. титараа тii даухани. тii даумаари,
элээ исхан. исханзи, тii наан хагдунi,
дааi хагду, бирүү эзэни мапа хагдунi дааi хагду.
гээ, тiла тоохон, iнда чупал ачуктаха~н чупал үиктэхэ~н,
гээ. саахан. iлаан хүсэ ньii, наан, тii мапа пиктэни.
тii ээктэ ньаазактани, наан үлээсихэн ээктэ ньаазактани.
гээ, элзүми иивүзүхэ~н, наканду тээхэ~н,
мапа бии-гүни, мама бии-гүни, дааi мама, мапа.
"сородii," "сородii, сородii." хаiва вэндини.
гээ сиксээзүхэн. гээ эси түүмбэ анзүву, тiс түүмбэ анзүи
тii анзүи тii анзүи, тараа тii долбонi,
наатi саулмачii, иң, зэлүү, саулмачимi,
гээ тii урчулундii, вэндини, "амаа," вэндини,
"эньээ, эи базiла бии гүрсэл, зүү ээктэ,
бии нээдүмэнгүвэни, асiзүji жапахамби-а~," вэндини,
"эси даунзүхамби." "гээ хоон таici.
тихалаинi осинi аја-гүни, тихалаинi осинi жапаву-гүни," вэндини.
"син хагдусi паазi бии, мүн мүн хагдупi паазi бии,
тii ээктэ гiамата. каалмази ээктэ.
тii пундазүji-тама, тii ньавзака, тii мапа пун... пиктэни ээктэ.
гээ, тii урчулундii, мүрчихэн, "гээ бии эси, тii
ээктэвэ бии жапаi, тii ээктэвэ жапаi." *вот видишь как*, эси
вэндии доола оңбоi, гээ, тii нээдүмэнгүни вэндииду,
эигэвэни уже жапахати, асiзүji.
эи асiзүji жапахан, асiзүji жапахан. гээ, ходала~н,
саулмачиха~н, гасан ньiiни чупал дiчи~, ньii тiс малху,
саулмачихан. гээ ньii ээктэвэни жапавуха~н. гээ, тараа
эјгэни, баатi ньiэхэн, ньиэриини, нэүни-дээ ньiэхэн.
"энэјее, нэку хаимi тii таici-каа," вэндиини.
"сии ээктэси бизеси-кээ," вэндиини. "хаiзүji асiзүji гэлэи,
хаiзүji асiзүji гэлэиси-кээ," вэндиини.
"эгээ, хэмэ бисүрү," вэндиини. "хаiва-даа хаiва-даа
эзи вэндэрэ," вэндиини. "бии мэнэ саарii, бии мэнэ
саарii-а," вэндиини. гээ, тii иизүхэн, эигэни
соңгоi, iламci. "эгээ хаңурее," вэндиини, "хэмээ бисүрү,"
вэндиини, "хаiва-даа эзи вэндэ. бии мэнээ саарii.
бии тiмана тiланi тiмана даузүи, iлалта бипи, эвэси даузүи."
гээ тii саулмачиха~н, тii урчулунчи~,
тiс ларгiнзи урчулунчи~, гээ тii ээктэбээни ауңзандаi,

тii паталамбаани, тii, каалмаза. тутараа сиксэ тоораа
 тоогбуха~н, хагдунi доолани нээ~хүнэ бии тii ээктэ биини
 ларгинi. иихэ~н, тii ээктэ-дээ соромсiха~н, наамаңдаха~н,
 дэрэгбэ алаусумачiха~н. гээ, jэдү тii ауңзаi. гээ, тii
 гүрсэл эүзү... эүзүити. Һаазактани-даа эүзүхэ~н,
 даамаңгуji-даа эүзүхэ~н. тутараа тii долбо ауңзаха~.
 тутараа вэндиини, гээ, акпандii элээ, гээ сэктүхэн,
 "анда~," вэндиини, "анда~ пүжин," вэндиини,
 "мин акпамбудажi паазикаа сэктирүү," вэндиини,
 "паазикаа сэктирүү," вэндиини. "бии эси пүжэ мэндэжи-э," вэндиини,
 "мимби мапа пүжүмбүхэни," вэндиини.
 "бии эси iлаан... эси тiмана даузүпи iлалта бими даузүi,"
 вэндиини. гээ, ажа-гүни, хаизи-ла-каа. саулмачiха~н,
 ээки, элээ, урчулунчи, гээ акпанчин. тii Һавзака,
 акпамбудани хаңгла... тоже сэктихэ~н. наан мээн сэкпүн
 тiiду сэктихэ~н. тараа тii ауңзаха~н. тiмана тiмаi бала тээхэн.
 "гээ, бии элээ нэнэи-jэ," вэнди, "элээ."
 эгэнээбээни эүзүи, тавасi киң нэнэи эүзүи. "нү ладно,
 ажа-гүни," вэндиини. "бии iлалта бими эүси даузүi,"
 вэндиини, мээн асiтi. "бии асiзүji бааха~н.
 сии эдизүji бааха~н. элээ-гүни. гээ, ээки, ходала~н.
 тii гүрсэл провожахати~, алдантi~ провожахати,
 хаi сүлтази, пуңам нэнэхэ~н даузуха~н. гээ,
 даузуха~н наати, наати jэдү биини-гүни, jэдү бии. эи дүвэ,
 наа дүвэни, кадал, маңгукi, маңгуду лукчуум биини.
 хооњи~даа даузухан, хагдун тоо тii ичэптиини элээ.
 таудуу~ тii, тii эи дүвэзи, мама эүриини,
 мокчом бии мама эүриини. хокii~ холзохо, нн.
 "энэjee~ пиктэji-э," вэндиини, "хау, хаусi пүлсiхэси-кээ,"
 вэндиини. "бии мээн асiзүji гэлэндичэми пүликтэхэмби."
 "гээ, гээ минзи ваалчаису, боротьсялами."
 "гээ, энэнэ~ энээ," вэндиини, "хоон, хоон таi борот...,
 сии тiс холзохо~н, бии тiс күсүнчү."
 "ажа," вэндиини, "ажа," "эзи нээлэчирэ," вэндиини.
 ii~ тамi-дii, тii Һавзака, тii ээктэ Загахалас тараа ваалчаi~,
 ваалчаi, тii ваалчаi. тамi-дii хаунчак нэнэхэни. все,
 хаiха, хаiха, хаiва-даа саарасi. тутараа~ тii мама,
 мээн дүвэти мээн дүвэнгүбээни тообузураа,
 мээн жолома хагдун доотинi иивүзүрээ, наамбани чуппал

ачухан, чупал хаиха~н. наамбани анзүйзүни,
 ньii опам анзүйзүни. чуппал, хэрэктэни алданкини
 чупал чириктэ, хаи-даа хэтээси. эи жэдүни гүчи
 анзүха~н. *видишь как*, соңсоп тээхэн. "энэжэ~ даада,
 энэ бии хаиңдами иихэмби." "нүсаа хаими, сии."
 "хаи-даа мочоули," жэвэ тii Запурсiiни, "хаи мочоули
что это такое хаи-кээ," мурүчиини хаи, тii-даа жэдү
 балдуванчинii биэси-кээ тii, *уже* балдахан.
 гээ, хүсэ очинii-гүни элээ. ньавзака тис ларги ньавзака.
 хаи-даа хэтээсини ньавзака. гээ, Зэптии~,
 тii мамаду-даа биини билэ. *что то ест*,
 Зэпвэнчин. "гээ, нэнүү нэнүү нэнүү мээн хагдүки, тiмана тiiлани
 даузуласи-ма. тис баарачiiни~ жэвэ Запурсii баарачii,
 гээ, нэнэхэ~н түү, мэнэ анзүханзii түүмбэ анзүха~н,
 малүтi түү, хаива сүгдүхэ~н,
 тактубаани тоохо~н, такту малүтинii сүгдүхэ~н. чупал тiki
 сүгдичихэни, тутараа тii кэси гэлэхэ, тii кэси гэлэи.
 тутараа Зүэлбэ аунзaha~н. *третий день был*, илаан инэн очинii элээ.
 "гээ, энэ, бии даурii,
 наатi чооңкони, дааi чооңкони. сиүн тii гарпани,
 чооңко. тiва, чооңко холдо... хайдүни, үжэлэни, хагду,
 хайдүни, уксара *сова*, дааi уксара сиичу~ уксара, тидү
 тээсиини. аңманii кутах кутах кутах үисиини. "амаа~, "
 вэндиини, "Зэкпичиси-тэнии," вэндиини, "ажа~, "
 вэндиини, "иирээ, бии дэрэ ојолани чуппал
 Зэбдэси нээрээ, тii даурii-ја," вэндиини. гээ,
 түки~~, чупал мээпи баргазiхан, чупал бэјэји ларгинзii
 баргазiхан. гээ, инэн токон элээ исхэ. хаива даву,
 бөјө-мэл даухан-даа аја-гүни. гээ тii дауха~.
 "гээ амбаан гүчи пэдэм дауруу," вэнди, тii уксара
 вэндиини, *сова* вэндиини. "эзи эзи нүивэ-дээ
 хаива-даа эзи ньiра, үлээн дауруу," вэндиини.
 "наатi хоон вэндиини, хоон тiлатi, наатi хоон вэндиини,
 хоон тiл... тii, тiiду балдiлатi. хазүмби-даа
 һаанзүласу-ма," вэндиини, "хазүмби. а бии эи хагдүмбасi
 тii этэвүри." гээ, Зэкпийи хоудахаа~л, хазүмбарi чупал
 баргазiхаал эси сүлта тэтүпи баi пуңам даузүхан.
 даухан. эигэни *уже*, ачаал... ачаалани. ичэхэн.
 тутараа эси ка~п нааманчинii, соңгоинii. "эгээ хаива

мудалаісі-каа," вэндини, "хаіва гэлэми соңгоісі,
 эзи соңгороо," вэндини. "запаічаісі,
 мин саалзавајі, жапуу, гээ пэргэми жапуу," тутараа тii
 хаіва, пэрүүгби ачухан. ојојо~ үже јэдү балдахан, ии.
 тутараа, эигэ тiс баарачii-гүни. хүсэ очіні, ии,
 хүсэ очіні-гүни. гээ эси хоон. тii ээктэ, тii ээктэ
 тii иирии-гүни, тii иихэ~н. наамандаха~н, дэрэгбээни
 алаусімачiхаал, гээ наканду тээхэн. тii эикэзи хаі,
 тужумбэ анзухаал-даа ээптии дэрэндү тээзүхэн.
 "гээ, эси амаанаабаані нэнэвү," вэндини,
 гээ тіла тавасі ујалумі. гээ тii жақпадуні, дааі хагду.
 гээ, зүэ нii, элзэмээри~, тii хагдунті иихэн, эигэни-дээ
 нэнэхэ~н, эигэни тіду биини-гүни, эдији баахан.
 эигэни тiс баарачiiні, *конешно* баарачiiні-гүни
 хүсэ нii очухан. гээ. гүчи дэрэ анзүі
 дэрэвэ нээхэ~н, дааі дэрэчү дааі дэрэвэ нээхэни,
 гээ тужумба анзүвуха~н. гасан нiiвані чупал хээрсихэ~н.
 хээрсии, мэнэ мэнэ саарii гүрсэлбэ хээрсихэ~.
 тiiду тужумба анзүі~, тiiду дiрга,
 гээ хаматаа кэвэни.
 аракі бии, гээ аракі јавзi аракі, манзү аракі,
 јавзi аракі. саңса мэндэ тiiду нээхэн, *ящик*,
 мэндэ тiiду нээхэн. гээ тii эси тува сүүпүчүми,
 эи-чии~ бии *рюмкати* сүүпү... тii
 тii бүүктэми тii бүүктэми тii бүүктэми
 нiiсалті чупал умiваанчині. гээ, нiiсал вэндиити-гүни,
 "ларгii~," вэндиини, "ларгі һавзака~, хэрэктэни
 ичэми-дээ, хаівані-даа ичэвэси, тiс ларгii нii,"
 вэндиини. нii вэндиини. гээ тii эси тii
 вэндиини-гүни тii, тii һавзака, тii мэргэн.
 мэргэн очіні-гүни, эси. "гээ, бии, хавасі-даа нэнэи-дээ кэвэ,
 эи, эси элээ жапахамбi ээктэ, хагдундуні тii балдаі,
 тii бии. тii билэмби~," вэндиини,
 "хазүмбi таіла бии хазүмбi чупал гаазүі~, јэдү бии.
 эдэкээнзи гэсэ, сүнзи гэсэ балдаі." *вот* тii вэндиини.
 гээ аја-гүни. гээ элээ ходала~н, пақтураанзүхан, сиксээзүхэн долбо.
 тутараа тіла аунзүі, тутараа, тiмаі~ бала тээхэн.
 чупал баргазiхан тараа хаіхан кэнгүр кэнгүр нэнэхэн.
 моолчотi~ тоохон. бөјөн поктоні тiс малху.

тоохон хаі горо. тос, үже үмүмбэ вааха~н.
 тутараа~ тува эвүзүүни ирчүми эвүзүүни
 тутараа, тii эвүзүхэни. тii дааi хагдунi
 тii эдэкээмби энъэкээмби хагдунi үчэни кiраатинi эвүзүхэн,
 тутараа иихэн. "амаасал, энъээсэл," вэндиини,
 "бии, хаiва-нүү эвүзүхэмби-э," вэндини,
 "дүиси тоокпочихамби, "хаi эвүзүхэн,"
 гээ тii чупал ньиэхэн, хаi алуу
 бөжөн үже тiiду ваахан бөжөн. хаi баарачii.
 хаi алуу баарачii, тii үлсэ *все* нантанi ачухан.
 гээ, "энэнэ~, " вэндиини, "ходу, гээ ходузүji бакахамби,"
 тутараа, тiiду мапа вэндиини, тii iлаа ньавъака-даа биини.
 гээ, тii бормачiха~н, отiiтака отiiтака гасан ньiidунi
 бүүктэхэ~н үлсэвэ. таванчи тii бичи.
 тii балдумi-дii~, тii элээ, буртii элээ тii
 тii очинi. эси хоон тахан. эси тэвэji наанзүi.
 жакпу iнда, наан тучинi, тунзази бэгди тучi.
 тiiзи даурii, эигэ-дээ даурii. аусiн-даа даурii.
 а тii жүэ үже *это* аусi *это* аусi *остаться...* *обоих.*
 гээ хоон. тэвэни чупал гаазухан. "ајајi жаiла
 бижини," вэндиини, "аја, жуа наанзүi-даа аја, ньэңньэ
 наанзүi-даа аја жаiва. ајајi бии."
 хазун чупал дааузүi. бэичүвү хазун, хаматаанi-даа хазун
 чупал биини. нүи гiда нүи хаматаа нүи жабдунi
 нүи хаi чуппал жом биини, тэтүэ-дээ чуппал жом биини,
 чупал дааузүхан. гээ, таванчи тii бичи~
 ларгинзи тiла балдахати үлээнзи бал... тамi-дii~
 тii асинi, элээ үже хэмдэлэ пиктэ *есть*, пиктэ
 бии, элээ бакаi пиктэ. элээ элээ осii *ихний*
 үже год үже. гээ, элээ элээ, хаiха~ элээ-дээ элээ-дээ
 хаiва анзүха-нүү. *землянка* хаiва, тактува анзүха-нүү
или хагдумба анзүха-нүү. тii хагдунду, тiс ларги
 отii ньүүчикээн хагду, тiiду пиктэвэ бакахан. иивүзүхэн.
 ньиңмалаi пиктэ хаi горожинi үрэини.
каждыj ден' үрэини-гүни. амбаан дааi очинi элээ.
год, үже үм аһанду бии. дааi амбаан дааi.
 iлаан аһан бими, бөжөмбө-дээ ваа... хаiва, бэичикү-дээ
 бэичии~ очинi, тii пиктэ. чупал сааринi.
 тамi-дii~ вэндиини, "амаа~, " вэндиини,

"бии нэнэичэй-жэ," вэндиини. "эи сиүн тукіізіні калтаазіті,
 тавасі нэнэичэй," вэндиини. "бии баачіңдаічаі," вэндиини.
соревноваймі баачіңдаічаі," вэндиини.
 "таја ыіні ыіні тіс нээлэпсули гүрсэли-э," вэндиини.
 "зэгдэ мэндэ дидиини. тii зэгдэвэ, бии дабдіндаі~,," вэндиини.
 эньэ соңгоі ама соңгоі, "баібаі, баібаі," вэндиини,
 "бизити, бизити, эзи-лэ," вэндиини.
 "аја нэнэи, аја нэнэи," гээ нэнэвү, хоон таісу.
 дааі мапа-даа вэндиини, "нэнэзіни~,," вэндиини,
 "аја, мээпи саара-таніі, тii пиктэ хэрэктэ чупал
 сэлэ-мээч биини. тii ывзака. тii пиктэни. аміні-даа *такой*.
 гээ, тii ваалчамі тii нэнэхэн тii. хаікі
 нэнэхэ-нүү хаікі нэнэхэ-нүү нүү-дээ ичэми-дээ кэвэ.
 пуьалілі пуьалілі тii нэнэхэн. дэгдэми нэнэхэ-нүү
 хоон нэнэхэ-нүү, нүү-дээ саарасі. нэнэхэн тii пиктэ.
 элээ исиини, таізі зэгдэ эи-мээт тii дидиини наантіні.
 ојојоо, нээлэпсули. зүэ ңаала эи-мээт тii эврихэн, тіісі, тіісі,
 нэнэвэнчи. эи ңаала тіісі нэнэвэнчи.
 зэгдэ чімчарам нэнэхэн. *ни зэгдэ нет ничего нет.*
солнце солнце бии. бии. *вот* элдэнгэ. тіс элдэнгэ.
 тутараа хамар тii зиіхүхэ, дабдаха, таі ыіін дабдаха. хотон
 мэндээ бүүхэ тајазі. бирүү мэндэ бүүхэн.
 мэнээ, ірамі, маңгу мэнэ, ірамаарі хоон тамаарі.
 тараа тii мээн базіа калтаазіла мээн аагбі бэсүнтини.
 тіла бирүүвэ анзүхан, дааі бирүү очіні. тii пиктэ тii балдахан.
 ларгі. аміні-даа тii ээктэзи, наан, тii пиктэ энзіни,
 тii тii бии. "хаалі-даа даузула-ма~,," вэндиини,
 "наа мээн баа, мээн нааті, мээн балдахамбі нааті,
 даузуласі-ма, хоон таісу." гээ тii даурii~,
 "гээ эси-лэ хавасі-даа хавасі-даа эзи нэнэрэ," вэндиини пиктэти.
 амаа-даа сагданзүха~, "гээ сии-дээ, эньэмүси-дээ сагданзүмі осі.
 хавасі-даа эзи нэнээ. элээ, каукаа каукаа бии,
 мээн бөјөн ваарii мэнээ ваарii, мээн сугдата ваарii мэнээ ваарii,
 тii таруу," вэндиини, тii балдахаті
 тii гүрсэли тii балдумаарі тii үлээнзи тii бичити, ларгі.
 хотон бии-гүни хотон хаматаа кэвэ.
 хаматаа мэдээ тii, хаіва, нэпүлтэ ваамі,
 тii худасii, тіс ларгінзі, бајан, тіс бајанзі балдахан,
 тii бајанзі балдахаті. үлээнзи бии, тіс үлээнзи

бичи, и ларгінзі бичи, и тіс, чупал ларгіі очіні.
ВОТ ТАК И ВСЁ.

1993.8.3. М. С. Дуван

3. ум мапа ум мама балдахати

даа~ хаїлатіі~ ум хүрээн зүэ хүрээн алдалані, ум хагду хэвэјээ~ балдахан, 'гээ,' тііду ум мапа ум мама. пиктэни ум ээктэ, паталан. 'гээ,' гээ, тii бими-дээ, тii ээктэ вэндиини, долбо инэј аурiiні. хаіва мүрчими аурii-нуу, хаіва мүрчими аурii-нуу, тутараа тээхэни-гүни. аміні тiс сугдата бутаж, бүүмбэ-дээ ваарii, тактуні таңгу, дэсүни дэји, хоморані хорі, зaiні зaкпун, гээ тii балдахан, тii мапа. гээ, тii балдумі-дээ~, тii патала вэндиини, "амаа," вэндиини, "сии минзи хүпилэндичэйси билэ," вэндиини. энини тагдахан, эј, тii мапава, энини наксii, гээ, "эзи-лэ," вэндиини, "эзи наксiра. аја~ тоо дүйлэ мин тактузујi анзундаңаi-танii," вэндиини. "мин тактузујi анзуруу, анзүвануруу," вэндиини, "дэгдэи гаса дэгдэи-нэкэ~, пүктүи бөјөн пүктүи-нэкэ~ бии. тамата такту анзундавануруу," вэндиини. "бии тiла ньүүлзii~, бии тiду бии." 'тii ээктэ вэндиини?' ну, тii патала вэндиини. гээ амтiні вэнчини-тэнии, сормачiмi-дээ. гээ анзундахан, зүэлтэ анзүхан-нуу, хаi алін тii мапа анзүхані зiңзиң элэ элэ дэгдэи тактува анзүхан. 'гээ,' iргани тiс ларгii~, хаматаані iргани анзүхан-нуу анзүхан, тii тактуні чэңгэ~ чэңгэ бии такту. гээ, 'гээ~' тiлані тоохон, тэвэни хазүмбані~ энини бэлэчими тообуха~н, билзa мудалаіні элээ, гээ, эси "эньээ эзи соңгороо," вэндиини, "эзи соңгороо," вэндиини. энини зэбдэни тii iрасуi. "гээ, эньээ эзи эзи соңгоро, бии элэ элэ дэгдэи," вэндиини, 'гээ,' "нэнэи-јэ," вэндиини. "эи такту хавасi нэнэини хавасi тii нэнилэ-мэ," вэндиини. дэгдэми олбiндiiні эи такту. зүэлтэ-нүү бичи такту кэвэ. аміні энини ниэхэни ичэхэни, такту-даа кэвэ хаi-даа кэвэ. элээ тii элээ дэгдэхэн, хавасi нэнэхэн-нүү хавасi нэнэхэн-нүү, нүй-дээ саарасi. 'гээ,' гээ, тii

дэгдэми-дээ~, аурііні, аумі-дээ энэжээ тii тактуні
 түнчүми-дээ түнчүэси~ осіні. хаіла-каа доохон-нуу
 эи хаіхан-нуу. 'гээ,' тутараа тээрээ баргазіраа үчэји
 ачураа ичэхэн. бирүү биэси-кээ, ьii бирүүни,
 ьii гасані, даа гаса. 'гээ,' тii гаса жаңгудіні хагдуні
 дааји~ хагду. тii үчэни кіраадуні ум ьавзака ілісіні.
 ларгii~ ьавзака ілісіні,
 хэтүни тіс іргачу. наамбаані тii ичэзүй,
 тii ээктэ-дээ наамбані ичэзүй. гээ, 'гээ,' тутараа иізүхэн,
 иізүрээ жэбдэји үьүрээзүхэ~н, жэкпиі, хаі-каа хаі-каа
 биэси-кээ үьүн, хаіхаа~л. тутараа элээ сиксээзүхэни
 акпанчі. тавуду~ тii ьавазака тактуні тоокомоорі, тоороо
 үчэвэни наксаіні. "нүй-жэ-кээ," вэндиіні. тутараа тii
 тii ьавзака иихэн. иивэнчи~ тii урчулунчі~ ихэрэ
 таавухаал. "гээ, гээ пүзи~н," вэндиіні, "гээ пүжин,
 биі симби тіс ајапумі ичэхэмби-э," вэндиіні, 'гээ,'
 "биі синзи асілаічай-ја," вэндиіні, "синзи асілаічай-а мүрүчии,"
 вэндиіні. "уса~, " вэндиіні. "уса," вэндиіні.
 "мүтэвү-нүү хооні таву-нуу симби, синзи асіламі...
 эдилэми." 'гээ,' тii ээктэ тіс пакчі,
 хаматаані-даа чупал анзүй. гээ тутараа тіхаламачіха~н.
 тii тактуні-даа тіс ларгіні. гээ, тіхалаха~н.
 тii ьii асіні ум ээктэ, хаі-даа хоону хоону биі
 ээктэ. гээ, 'гээ,' тообузүха~н, мээн хагдунтіји тообузүха~н,
 малуті, малуті ісванчі~,
 гээ тii ээктэзи тii асілахан, тii ьii.
 гээ тii асілараа наан вэндиіні, "гээ, эси бэичиндэми нэнэи,
 'гээ,' гој бааті бэичиндэми нэнэи," вэндиіні.
 "гээ хооні таісі." "нэнүү, хаалі жизүйси."
 "биі маңга осіні калтаа біаду билэ-мэ," вэндиіні.
 "калтаа біаду биі," вэндиіні, "городу биі-дээ кэвэ,
 түргэн жизүй," вэндиіні, "аја." гээ, тii бичи~,
 тii нэнэхэ~н, тii эдині, гээ тii биі, тii ээктэ
 уже, хэмдэни дааі очіні. элээ элээ пиктэји бакаі элээ.
 жуа. гээ бакаі элээ элээ тімана эинэң тімана бакаіні элээ.
 элээ элині ісхан, элээ бакахан
 чуа~к бака... тутараа тii наан тактуні тілатіні,
 вагбаңгі тавасі зүси тараа тii ээктэ тіла
 тээндэвэнчині. тii пиктэвэ жапаха~н, іңда омонті

нээндэхэ~н, тii пиктэвэ. эңбэни камдундахан
 ісалбані, аңмавани-даа чупал даарпунчі, хаі
 вэндиини, бүчин-мэч осіні-гүни. 'гээ,' гээ, гээ
 тараа, хооні таву эси. тii хаіханзі, тii пиктэ элээ,
 амбаан, элээ амбаан даајі осіні
 ну, ниңмаані пиктэни хаі гороні үрэини, ии.
 тутараа, тii бирүү эзэни вэндиини, "таісі чагбундаву~,"
 вэндиини. *боцчка* доолані нээрээ, коңгурурээ, таісі тiiсаву,
 тii чагубувэ," вэндиини. пааніні осісуі~,
 пааніні аја чагбундаі, 'гээ,' гээ хооні таі эси.
 ьii тii вэндиини тii осii. тутараа тii *бочка*зі тii
 таісі тii тiiсал элээ чагбухаті. 'тii ээктэвэ?' нү
 тii пиктэвэни-дээ. эңбэни пиктэвэни чагбухаті.
 тii *бочка* доолані нээрээ күүбүрүрээ-дээ. гээ,
 хасулта бичин-нүү, хооні бичин-нүү, зэмүрү-гүни,
 тii эньэ көөни-дээ хаіва бүүрии хаіва-даа зэптэси,
 хаі ниэриини. тутараа, энэјээ, тамі-дээ досојуіні,
 наала кэн, наала кэн, ваатапсаіні, тii *бочка*.
 "эньээ," вэндиини, "хооні тіласі-каа," вэндиини,
 "манга жаа, тii эи бочкава, баасачумі бујачіта, вэндиини.
 "наала ваатаі осіні," вэндиі, "аја, наала
 ваатаі осіні, мүтэи осіні бүсэсирүү," вэндиини.
 мүтэи осіні бүсэсирүү," вэндиини. амбаан даајіні
 осіні аја, аја-гүни. хавулі хавулі тii *бочка* бујалахан.
 чүмпүрүм нэнэхэн. ьiiмаарул-гүни сиүн зiңзiң...
 гээ, тоохон наані кэт ларгii, бiiругуні-даа ларгii~,
 дүин-дээ тіс ларгiн наа, үлээн наа.
 энини, эңби наабаан, элзүхэ~, хаі, хаабузуха~,
 нааду тээсиі. 'тii аңмані хаіні даалбуха тэпэм биини?'
 чупал ачухан. 'ачухані?' пиктэни чупал ачухан.
 ісалбані-даа чупал ачухан. "гээ, эньээ," вэндиини
 "јэдү кавкаа тээсирүү, бии горози бизсимби,"
 вэнчини. элээ сиксэјуіни.
 "гээ, бии-кээ," вэндиини, "хагдун дүрүмбэни јаундаі-та,
 вэндиини, тоо дүиси. "хагдујі хаівані дүрүмбэни
 јавундаі," вэндиини. "баавучу~, доовучу~, таматаа
 хагдуні дүрүмбэни, јаурii," вэндиини, "моозі.
 тii јаураа, тii доолані симби тіла тообузуі~,
 баавуду симби акпанвандii, бии доовуду бии акпандii."

tii аумаари-дээ аурii~, "анайii~ хаи-даа пукули~,
хаи хаи пукси," ичэини, хагду. үжэ, хагду очини.
"эньээ~ тээрүү," вэндиини, "ичүү, баи наа бичини,
ичүү эси хагду очини." элдэнгэ-гүни. гээ, тээхэ~н,
ваисі эүхэ~н. тii мээн хаикаал хаикаал чупал ньii
боцчка доолани нээхэни хазумбани, хаива чупал ньii
нээхэн боцчка доолани тува хаиха~н."эньээ ээи гасара,"
вэндиини. "бии наала ундаа~ ундаа~ эи-мэт
тиламби, вэндиини. "сiру, сiру," мэнээ эүриини,
вэндиини. сiрумбэ ваарii, сiру үлсэни зэптиини,
"аја," вэндиини, ии. эң даајi очини-гүни тii пиктэ.
үжэ даајi, амбаан даајi, ниңмаан ньii хаи горони,
үрэй. "гээ, эньээ," вэндиини, "бии давурii-та,"
вэндиини. "эи мүн хагдуму чооңконі даајi чооңконі,
тii чооңкола ум хаапуна доохонi,"
вэндиини. "соогзо хаапуна. гээ тii хаапунази,
зүптүрээ давурii-та," вэндиини тавасi, тii бирүүбээни.
мээпи сiнгэрэхэн гүрсэлбэ ичэндэми. тутараа тii давухан
энини тii ичээүини-гүни, гүзэлээ, соңгомi ичээүини
гээ, давухан, тутараа чооңкотинi дооңдохон.
тii аминi хаали-а зiзүхэ-нүү, хаали-а зiзүхэ-нүү, хоңмохон
дiлiзiла сүгдүхэ~н,
гээ амбаани, ваахати-нуу хоонi тахати-нуу тii ии.
гээ тутараа тiки пүликтэити эксэл, хаи-гдал эксэл-нүү,
тii-гдал иими ум ээктэвэ хачухан. ананаа-даа энэнээ-дээ
тii умуни нэнэхэн тiла хачухан.
тутараа тii, пуңар, давузухан.
мээнбээн давузухан, "эньээ," вэндиини, "зэк ээи соңгоро,"
вэндиини. "аја бии чупал саарii," вэндиини.
"гээ, амаа зiзүхэн баланаа билэ," вэндиини, "бүчи-нүү,
үю-нүү, хоңмохо," вэндиини, "наканду хоңмохо,
зүлиэлэни дiлiзiлани сүгдүхэ, хаива-гда-нуу сүгдүхэ~,
вэндиини. "бии зүэ ээктэвэ хачухамби-а," вэндиини.
"маңгалахати~," вэндиини,
"тутараа тii давузухамби-а," вэндиини.
мээн хоон тамаари хоон тамаари.
"гээ, тiмана индэпи давурii," вэндиини.
"аамби наанзүми, ама тидү кэвэ, баи паъан.
ама алминду нэнэхэн. 'бүчини,' бии амби бакүи," вэндиини.

"амби бакүи, амби гааэүи, калтаа бирүүвэ, эвэси
 даавуэүи, мэндээ-дээ, тii гүрсэлбэ тii ваарii-даа аја
 хаирii-даа аја тii Һаалараа худаи," вэндиини.
 тii мээпи сиңгэрэхэн гүрсэлбэ. и бирүү эээмбэни-дээ. тутараа тii
 мээн вэнчин-мэт тii тахан, тii Һавэака, аамби,
 'тii хаапунаэи давуэухани?' һн, аамби,
 гааэуха~н. амини, эиэүхэн. маңгу мүүзини агбунэухан,
 тii амини. самаан, тис дааји самаан очини, тii амини.
 гээ тутараа вэндиини, "гээ хоон тиласи-каа, вэндиини.
 эси амби хагдумбани пааэикаан гүчи анэухан,
 элэдэ анэухан. түргэн түргэн анэухан-даада,
 элэдэ анэухан тiiду биити.
 энини-дээ тила ниээүхэ. аја-гүни тii эүэ Һii
 хагду кап анэухан аја-гүни. тауси дэңсихэти.
 гээ тii бичи~н, бөжөмбө-дээ тii ваарii~, хаива-даа хүм
 тii ваактаи, сугэаса-даа ваандасуи, тii бичин, тii Һавэака.
 тис ларгинэи осини. тами-дээ вэндэ, сиксэ акпанчини, ээкпини,
 ходаханэiji акпанчини, амини-даа акпанчин, энини-дээ акпанчин,
 наан-даа акпанчин, малуду акпанчин.
 тii инэң, тii долбони тис аухан, тиманани долбони, инэңи,
 тис аухан. эилани инэңү, тii энини вэндиини, "энэжээ," вэндиини,
 "хаими ауриси-каа," вэндиини. "аамиэи ајараи,
 ајараиситани, толчини тоңгурум хэрэзүиси-тэнии," вэндиини.
 соңсоп тээхэн. "эһэ, хаи мэдэсии, эһэ хаива госолахаси-на."
 "госолами кэвэмби," вэндиини. "баи вэнчимби"-э-м-дэ.
 "бии-кээ," вэндиини, "тимана иңдэпи, сиүмбээни тоорii-а," вэндиини.
 "сиүмбээни. сиүнэиэнтини тоорiiни, *солнцебаани*.
 "тила баахамби," вэндиини,
 "асиэүји. биинин паталамун баахамби," вэндиини.
 "аамиду толчинду баахамби," вэндиини.
 "бии тува, таваси тоорii-а," вэндиини.
 "тимана инэң, тii инэңү, инэңдү, чаагэан мурумба,
 чаагэан хаусаэи, хаэаларуу," вэндиини.
 "тii, тii мурун, баати ниэ... баати Һаалаңдапи типүр типүр илii,
 бии тii ооми элээ тii дэгдэпсии тоорii. сиүмбээни,
как раз обеда время. тii сиүн эээн,
 сиүнэи гэсэ пүлсиини-гүни. тii *обедаду* баң ииэүини."
 гээ, энини агдаваси, соңгичii. "эси-э мудалара," вэндиини "аја-гүни,
 анэуруу," вэндиини. "үлээ~ дэрэңни үлээмбэ анэуи мурумба.

эи холдондоні хасачуухам анзуруу," вэндиини.
 "бии тii оонзi үже, баати Һаалаусуi
 тii мурун типэр типэр ілізүй. тii уун үже
 бии тii дэгдэми тоорii, үиси дэгдэми Һэнэи," вэндиини.
 гээ, гээ тii Һэнэини эриндү, Һэнэхэни,
 амбаан үилэ тоовандани Һүй саарiiни.
 боокто даілаказi~ бии бооно, снег, даајi бооно, түкүсиини.
 тii чимчамзi Һэнэйзини гэсэ, үже сиун, ісхан, ісхан.
 тii үлээсихэни ээктэ-дээ ниэхэ~н, үлээсихэн ээктэ эигэни-дээ ниэхэн.
 наати зүүр нii. эигэни, нэүни-дээ. тii нэүвэни Запахан асізүйi.
 Һаазіни үже ҺааЗактані үже Һэнэхээл.
 тii сиүнзији гэсэ пүлсии нii, тii бии-гүни.
обеда, как раз обеда иизүйи.
 Зэптии хаіrii, урчунундii хаіrii, элээ тii ниэхэни.
 гээ, тутараа тiмана тiду аунЗаха~н,
 гээ хооні эси, агаа нэку очін.
 сиун амні, сиигүүни очіні. үлээ-гүни. асіјi бакахан.
 гээ, тii бичин. тiманані элээ *обеда время,*
как раз тii Зизүйини. элээ ааңгар иизүйини. элээ ииЗүхэн
 эси, чэк дэрэ чупал чупал тэк наан нээхэни
 Зэбү-дээ чупал.
 Һүй хаматаа Һүй хаматаа. "энэјээ," вэндиини,
 "эи хооні тааң-кээ," вэндиини. "нii, нii, нii эүриини билэ,
наверно хагдунду." 'ааң вэндиини.' ии, тii ааң вэндиини.
 тii ээктэ, аісіма, салбува анзураа,
 аісін салбузi Зэптүкэн тii нiiва, эдији.
 тутараа кэрмэ доолоні нээхэни. гээ тува саахан ааң. саахан.
 "агаа," вэндиини, "бии-кээ," вэндиини,
 "сии-дээ саарасi, саарасi, саарасi-гүни," вэндиини.
 "бии эдизүйи баахамби-а," вэндиини.
 "нii-мэч бии эдизүйи баахам биэси, ларгi нiiва баахамбi-а"-м-да.
 "гээ. гээ ичэйси." "хаіду биини."
 кэрмэ доолоні салбiЗарам паазi Һаалахані. кічатак илиини-гүни.
 хаi, ларгii нii Зиңзин, ларгii. балдахані-даа тiс ларгii.
 тэтүэни-дээ тiс ларгii. гээ Запаха~н наамансii, дэрэгбэни алаусихан,
 дэрэдү тээЗүхэн. гэсэ тээЗүмээри гэсэ Зэкпин, Зэми ходахан,
 ходаханзiјi гэсэ, элээ, элээ элээ үже, ааң Һэнэхэни.
 "гээ тiмана бии ииЗүрэмби," вэндиини.
 "инэңү *обеда*зi солорii ииЗүйи."

гээ, тii бичи~н, доосичинаамаарі тii бичин, зигэни-дээ тii, "хооні тiласі-каа~, " вэндиини.

"тii газуласі-ма," вэндиини. "эгээ-мэ-кээ дэрэзилэ-мэ, агаваті. тii ээпүвэчими тii билэ-мэ," вэндиини.

"сагдандала-даа. баа пүүпиличини, наа пэисичини билэ-мэ," вэндиини. *вот*, гээ зiала тiманані *үжэ, обеда* очіні. элээ, элээ иизүхэн. ка~п нааманчiн, дэрэгбэни алаусii-даа ачiкiлаi-даа хаi-даа.

"гээ эңэси эзүпээри, калтаа биаду бимээри эүси тооксаруу," вэндиини, "ујалазусалту," вэндиини. "гүчи ујалазусалту," вэндиини.

"гээ ујалазуi, ујалазуi," вэндиини, "ујалазуi," вэндиини. эи-түл мурiнзiјi, уувучi эзүми, зигэни гүчи мурумба анзүинi. нэүји уубдан. гээ дасичал опаами. тiiзi тii эзүхэн.

гээ тiмана тiман, тiмаi бала тii, эзүхэн наати. тii долбоні тii тiс, тiлаха~н хааду энүэрэзүхэн ээпүвэнтиини. хаi iчоободомо тii үи аiрi наi, ларгi. гээ тii нэнэхэн. тii нэнэхэн ааңанахан. гээ зигэни тii соңгоi.

"эзи соңгоро~, " вэнди, "эгээ эзи соңгоро," вэндиини.

"бүү түргүн тоокоопо~, " вэнди, "наати симби ичэндэми тоокоопо," вэндиини.

"эи алдамба пүлпүри хаi маңга~, " вэндиини. ии, "хаi маңга." *ну конешно* тооксоiзiјi гэсэ пүлсии гүрсэл хаi. гээ, тiмана эзүхэ~н. эзүү, хазомбарі чупал эапахан, мурүн ојакіні нээктүхэн. мээндүји нээхэн. наандуні чупал, хаi мурүмбэни-дээ чупал хүкүлүхэн хаiхан.

гээ зигэни соңгомi~ дэрэзихэн. "эзи соңгоро~, " вэндиини, "хаi бүү-тэмэ, эси эүүлтү бими iлалта бими эүси тоокоi," вэндиини, "сиүмбээни тии." гээ тii урчулумi-дii тii дэрэзихэн. хаi тii бооно, зiңзiң, сiатуд даајилані бооно, сiмата.

пекээ мэндэ мэндэ эси, сiмана түкүини. хауісі-даа түли тii бат, кэң, элэ-дээ, зiзүхэни. энини ниэхэн, амині ниэхэн, хаi алнакiнi наамандii-даа наамандii, алаусii-даа алаусii, ојојо, элзэмээри иивүзүхэн тii ээктэвэ, хаi алду, нii хаигүји мэнэ хагду-ма биэсини-гүни, ларгi.

хагдуні доолані зiңзiң нээм би. ајачуха~н тiiду бисин, горопти. таваi, тii вэндиини, энтини вэндиини, "эгээ," вэнчини, вэнди, "эси дүилтэ iлалта бими, мимби ичэндэсүрүү," вэнчин.

"аја," вэндиини, "пүлсиксү," вэндиини, "аја, пүлсиксү," вэндиини. "хаi-даа гүзэлэси-нүү,

симби, аја ээпүлэпү~,” вэндиини, наі.
 ”бүү баа эээн таапу,” вэндиини. ”бүү эндүр эээни.
 гэе сүү сааріпу,” вэнчини. ну, вэндиини, эээни.
 баа эндүр, тii эээн. ну сиүн, *солнце ето*, баа эээни-гүни.
 гэе тiiзи асілахан тii, тii ээктэзи асілахан.
 тiс ларгінзи бичини. элээ тii ээктэ-дээ
 элээ даулу осii. даулу осiiни-гүни эээн ээктэ хаі.
 гэе хасулта~ бими бичин, хооні-а-даа бичин.
 элээ, эигэти-дээ тоокупучиха~н. хаікаан хаікаамба тообохан.
 хаіва-даа хүм тообохан. тэтүзүни хаізүни чупал тообохан.
 тутараа тii эүзүхэн. элээ тiмана хаали
 тii ээктэ пиктэ бакаіни.
kojak бакахан элээ, тii ии, хүсэ, хүсэвэ бакахан.
 үже гүчи хүсэвэ бакахан. тii эдэкэ-дээ~
 тутараа тii пиктэвэ камур жапараа гүчи тооко...
 тii эигэ ичэгивү. мээн тii, тii сиүн эээни,
 тiва ичэндэвү, тообооухан тii пиктэвэ.
 хаіва тiду баарачін тоохон-даа тiду ojojo~.
 тiс ларгii нii тiс баргазихан, боипумба,
 моңгомба боипумбани зүкин аньалавамбани. нуи дааји баібаі,
 чэңгэ~ чэңгэ тiiни, ниңмаалаі пиктэ хаі горозiiни үрээни.
 үже *всё*. хаі элдэңгэ, чоп элдэңгэ очіни.
 гэе, тii инэң, *вот* тiду, аунзаканзiiни, тiмаі бала,
 гэе элээ *собраться* эүзүхэн.
 эксэнзiiзэ-тэнии вэндиини, нуи зiiасіл. ”гэе эи сиксэ үи саа,
 аали чэк, пүктэңзii бисэртү~,” вэндиини. ”пүктэңзii бисэртү,
 эгээбээни, эгээбээни агаабаани пүктэңзii бисэртү,” вэндиини.
 ”гэе тii тiлапу-ма,” вэндиини, ”ажазii бии осiiни.”
 гэе, эүзүхэ~н эси, тii пиктэвэ жапазүраа,
 амби хэмдэзи доолани нээрээ, мэнэ уунаа эүзүхэн.
 асii-даа холдон, мүрүңгүни хаіва, тii эүзүхэн.
 амбаан дааји осii, тii пиктэ, хүсэ пиктэ. ичээзи-мэ,
 хаіва-даа хүм чупал саарiiни. элдэңгэ. элээ дааји осiiни.
 сiньактава-даа гарпанасii~, туксава-даа хаі, бэичэи~, очіни.
 амбаан дааји очіни. тамі-дээ амбаан дааји, эи зизамэр кади.
 тамі-дээ вэндиини, ”амаа, энъээ, даада, даама,
 бии-кээ,” вэндиини, ”сиүн токомбани нэнэйэ,” вэндиини.
 ”сиүн токомбани. сээгээн наму,
 сиүн токонзiiа калтаазiiани сээгээн наму,

тіла нэнэи," вэндиини.
 "тајази забда дидиини," вэндиини, "забда, мимби ваандамі дидиини.
 бии тiiзи баачиңдами нэнэи," вэндиини. энини аmini осісіini-гүни, хаi,
 "оркин," вэндиини, "оркин." "аја," вэндиини,
 "эзи нээлэчиксү," вэндиини. "эзи нээлэчиксү." тэтү чупал ачухан.
 кэркэр ньалухан тii. ичэини, хэрэктэни алданкини чупал тасііini,
 хэрэктэни алдан чупал тасііi. хаi-даа хэтээсини.
 сэлэ-мэч очіни, хэрэктэни. тутараа тii хаiзи,
 гээр іңдава вэмбүвү, таматаа іңда, сэлэмэ іңда.
 тiiзи тii нэнэхэн. ханүкизи ичээмээри тii нэнэи тii доохомбани.
 тii, нэнэхэн тii нэнэхэн тіла нэнэхэ~н,
 тээти нэнэхэн, тајази зиңзиң
 зэгдэ эи-мэ тii дидиини. зэгдэ зиңзиң, олгоми зэгдэ, дидиини.
 хаi, хаi вэндиини, хаi~ эси, тавасі тii, њаалаji гајаңчуini,
 эүси тii гајаңчуini, пэиси,
 мээн мээн дичини поктола тиңгар, хаi зэгдэни.
 зэгдэ-дээ кэвэ, хаi-даа кэвэ, чупал бүүктү ходахан. *вот* дабдахан.
 дабдаiнива дабдахан, и пуњар *обратно* зизүхэн.
вот. вот њавзака. гээ тii баа niini пиктэни, сиүнџи пиктэ.
 сиүнџи пиктээини, хаматаамба-даа чупал саарiiни. хаi-даа угдамбани~,
 хаматтани-даа тээлүңгүвэ чупал саарii, элдэңгэзи тii балдахан.
 гээ тii гүрсэл тii бичити.
 аmini-даа сагданзухан, энини-дээ сагданзухан.
вот таки и были, гээ и тii балдумаари-дээ үлээн бичити.
 хагдуні-даа бирүүвэ, бирүүни даaji, даaji бирүү очіни.
 nii гасан, тiс даaji. наамаji этэвү nii паazi бии, тii бирүүдү.
 этэвүри гүрсэл. хаматаани кэвэ тiду.
 хаматаа маіман кэвэ~, хаматаа nii кэвэ,
 тiс ларгii бичити. гээ тii бичини, jэлэ,
 хаijaара наани jэлэ балдахани бичини, элээ.
 наани үсиини үгдими-ла тоокпачихани сиүмбээни,
 тii ээктэ үгдими-дээ асі асі, гэсэ тоокпачихан.
 тii пиктэ эси асізүji бакахани. бакахан-нуу бакахани-нуу,
 хаали-даа бакахани. гээ тутараа, тii бимээри-дээ вэндиини,
 аmini вэндиини, "бии-дээ сагданзуха~н, эньээ-дээ сагданзухан.
 тii гүрсэлбэ, тiмана инэңзи, мээпи сиңгэрэхэн гүрсэлбэ
 эксэлбэ наа эзэмбэни, ваандамі дауксу" вэндиини.
 тii бирүүбээни, маңгу, баzia калтаазіла.
 тутараа тii хэсэни дахурма даухан, тii, тii њавзака-даа даухан.

тїї ньавзака даухан осіні, мэргэн таїзуіні-гүни хаї.

вот как они были. тїї бичити,

ларгии, ларгии нїї бичити.

тїс үлээнзи~, тїс ларгінзи~, тїс бајанзи, тїс үлээнзи балдахати.

хаї-даа хэтээсини бичити наати. *вот* эи нїңмаа, эи нїңмаа јэлэ бии.

точно, всё. элээ, јэлэ бии. элээ.

4. тээлүңгү

гээ, бүэ мүнү дааји сагдлму, балдахан,
балдахан. хасу ањан-нуу
бии саарасим-гүни. тii баланаа~ балдахати,
чуп гоi бааду балдахати, нээринзип, нээринзип вэмбүвү,
калтаазила балдахати, тii нээрэнзип вэмбү, јэдү биэсини,
горо буа. наа дүвэни~, баа дүвэни~-дээ. тiiду
балдахати. мүн мүн сагдлму. тiiду балдаханзiji,
тii бимээри, хаматаани-даа бөјөн, хаматаа хаi,
тii ваактамаари, тii балдамаари, тii бичити, нн.
таванчи, гээ таванчи тiiду, тiiду бичин,
кулаан-даа нүүји-дээ умуту~, Забда, муузи, мудули, хаматаани-даа
кулаан, чупал тiiду балдаини, тiс маңга.
бөјөн-дээ тiс малхуу~ хаi-даа хүм чупал малхуу.
гээ, тii тува ваактамаари тii, тii бичити тiду.
бөјөн тэтү, бөјөмбө ваарii~, сiро, тоо,
сiромба ваарii, оромба ваарii, оронзи тэтүэ анзүи. тii бичити.
таванчи тii бимээри-дээ, ум мапа вэнчини, дааји мапа.
хаали балдаха-нуу, хаали балдахан, дааји мапа.
бузактани тiс ворми. тii мапа вэндиини,
"гээ, бүэ эси јэдү хаiва тамi бивү, нэнэисү~, " вэндиини.
"њи балдаини баати~, нји биини баати~, нэнэисү~, " вэндиини.
"эи маңгу дэрэнзини, эј маңгу, тii тii
таванчи, тii нээринзип, тiiлани наати биини там
тiiду нээгэзэн баа, нээгэзэн баа. гээ, таванчи димээри,
тii хаилараа хазумбарi тii жапактахаа~л, нүүчикэнзүмэри
чупал жапахаа~л, гээ тii олбiмаари, тii дичити наава.
тутараа маңгу дэрэнтини эүхэти, эи маңгу дэрэнтини.
тутараа таванчи хоони, эси хоони нэнэвү,
хэјэни тiс маңга эи маңгу. гээ, тii-ди вэндиини
"гээ эси хоони таву, моо түгбүлсирээ
моози угда анзүисү," вэндиини, "моози, угда анзүми, тэмэ-мээчи,
тэмэ-мээчи анзүраа тiла тэүчирээ тii хэјэнзүисү," вэндиини.
гээ аја-гүни. тii-даа аја~,
баа үлээн осинi, үлээнзи нэнэвү, эј маңгу хэјэни тiс маңга.

гэз тii таванчи тii, тii хэжэмээри
 3экпи~ , ходахаа~л, таванчи тii, тii хэжэнчиги.
 тii хэжэмээри-дээ~ амбаа горо, горо хэжэнчиги,
 ум долбонi~, ум инэни хэжэнчиги. тамi-дээ нii гасамбани ичэхэти.
 тутараа мурчиниги, тii мапа вэндииниги, "эи
 нii гасамбани хэчүми аја," вэндииниги. гэз jэдү
 хэчүңси-мэт, "хэчүпи, нii чупал, нii алдачуi,"
 вэндииниги. "нii jэки нii биивэни~, хоониги-даа нii биивэни~,
 чупал нii алдачил-ма," вэндииниги. гэз аја-гүни.
 гэз тii хэжэнзүмээри, нээм-дээ~ гиваанаханиги.
 элээ тii гасамба исхаа~л. берегни тис ларгii. сiа~н, жориги.
 каргii, каргii нааниги, тii каргii нааниги, тува
 исхати биэсиги-кээ, тii гасамба. тiiдү нii тис малхуу,
 нааниги, голдii-мал. гэз, хулунчи~ чупал хүлүмбүхээ~л,
 нiiсал-даа эүхээ~л, ичэндэхээ~л, сородiндахаа~л.
 тутараа тii вэндииниги, гэз, тiiдү хэчүхэн, хэчүхэн
 тiiдү авунзahaал. тамi-дээ тидү наа тii, каргиги-а
 жаңгүдиги вэндииниги, "гээ, ум жiавар jэдү нaaалаксуу," вэндииниги,
 ум хубаамба, наатиги iлаан хубаа,
 мүн, мүн исхан. гэз, тутараа тii нүи, *михаил*, нүи,
 эсиги исхапу аңма доолан вэндииги-дээ оңбоi,
 ум, ум хала, ум, ум хала тiiдү дэрэжигхэн. мiга, *михаил*,
 мiга *михаил*. тii амиги, тii амнааниги тii дэрэжигхэн, каргиги-дү.
 тii мүн духаму, у нас это тоже.
 гэз тiiдү, тii дэрэжигхэ~н, гэз тii долбониги
 тис араки умнасиха~н, тис урчунундиги, ларгii,
 тii тээсүмээри тii урчунундиги, "гээ нэнэмээри-дээ~
 бакаласиги-ма," вэндииниги, "нii гасаниги-даа бииги~,
 лучаа гасаниги-даа эгдиги~, тii нэнэпиги бакаласиги-ма," вэндииниги.
 "гээ хаила-даа ум, мээн үлээсиги баатиги нэнэми,
 тiiдү коокаңасиги-таниги," вэндииниги.
 гэз, гэз тiмана элээ, элээ тii, наа, наа угдаваниги бүүхэти,
 даа угда, тунжан гiолиги угда. тутараа тiла тэвэвэни тэүчирээ
 таванчиги тii, тii, тii дичиги, хэжэнчиги,
 тii мүн жiасиги, мүн, мүн даажи гүрсэл, мапасал.
 гэз, хоониги, нэнэми-дээ~ луча гасамбани бакахатиги.
 луча гаса-нуу? луча гасамбани бакахан, тува хэчүми кэвэ.
 тii нэнэми-дээ нааниги гасамбани баахатиги.
 нааниги гасан баахан-даа тiла-даа хэчүми-дээ кэвэ.

каң тii талза... тамі-дээ, тii димээри-дээ, хаiва,
 каргiва баахатi. каргiванi тii каргi гасан-даа
 амбаан дааjи бичин тээли. тува-даа хэчүмээри-дээ кэвэ~,
 таасi, тii хэжэмээри, хаiва, сапiскава,
 лучаа гасамбаан, тува, тува баахатi, ичэхэти.
 "гээ, jэвэ, эи тii хүрээн тiiлани, тii эи маңгу нэнэини
 тiiлани, тii, такi наа дүвэни, кадал дүвэни,
 эи тiiлани апизуису," вэндиини, "тiду үньүрээүй~, жэкпи~, урчунундii,
 гээ таванчи тiду апижаачi гүчи хэжэми ажа," вэндиини,
 "нэнэми ажа," вэндиини. гээ, гээ ciла тiла хааңдаха~н,
 үньүрээүхэ~н үньүвэ тiсауха~н.
 нүү үлсэңгүji хамаатааңгүji жэпүү тiс бии ажа.
 гээ, жэмээри ходалханжii тiду, урчунундiiтi. эси мээн-мэ
 хаматаа баатi нэнэвү-нүү, хаматаа наатi нэнэвү-нүү,
 нүү-дээ саарасi. мээн хоонi үлээси,
 хоонi үлээси наатi нэнэрүү, тiду балдумi ажа," вэндиини.
 гээ тiду урчунундiiтi. гээ ажа-гүни.
 дааi мапа вэндиини "ажа-гүни," вэндиини, "сүн тихалаисi
 опчанi. гээ ажа. гээ таванчи дэңсилүхэн,
 гүчи нэнэлүхэн тii хэжэжүми. каргii, хаiзи, сапiскази,
 доову маңгу очоинi-гүни, эжээдү гавньii, гавньii
 ньii гасан тiду бии гавньii-даа, доову маңгукi
 тii хэжэмээри тii нэнэхэти. тii хэжэми нэнэми,
 хаiла нэнэхэн. кiзи, хүрээмбэни ичэхэти,
 маринска хэрээмбэни, кiзи хүрээмбэни тува ичэхэни.
 "гээ, тii хүрээмбэ үлээн ичээүксү, тiла нэнэпи хоонi биини осинi,
 тiду опуву-даа-танин, хоонi-даа бии-нүү осинi,
 тii хэжэндилэпү-мэ. гээ ажа-гүни хоонi таису.
 гээ, тii хэжэндii~, тii урчунундii урчумаарi
 тii хэжэндээ хоонi-даа хүм хаiва-даа хүм урчунундii-гүни.
 тамi-дээ эи мүнү када хэвээн хаi, хүрээмбэни ичэхэти.
 тоо тii када солi~ла ньii гасан биини,
 пулсанча, пулса. ньii гасан биини.
 тува-даа хэчүми-дээ кэвэ, кiл талза дичини. тэң дидээ,
 тоо када базилани даа, дааi баача, тiла хааңдахатi
 тii гүрсэл. тiду, чупал тува, хүлүмбүхэ~н тiду чупал опа хаipii,
 гээ тiду хагдумба анжуичамi жооңбуитi.
 сиргэни тiс сиңэктэни-дээ малхуу~, хаматаа сээүхэ
 чупал бии тii баачанду. тiду очитi.

үм биэду бими гүчи кадамбаан давузухати. кадані тїілані биини,
 эси-дээ биэси-кээ мүн бэсүмби, һң. гээ тїі, тіла давухати.
 гээ тїіду тіла давузураа тїіду хагдумбі анзүичамаари
 гүчи моо хоомі жоомбухати.
 тамі-дээ ичэзүини тїіду *обедаду* үһүрүзүмээри,
 анаи ум мапа пүлмэндэини, ум пиктэзи зүэ һїі пүлмэндэини
 тїі һ кадан дүвэни хоолїіні. тутараа дичин.
 "энэжээ гүрсэлбэ~,," вэндини, "сүэ хаі баазїні дичин
 гүрсэл-кээ," вэндиини. "һїівэ саарасї~, һїівэ ичэвэси
 гүрсэл-нүү," вэндиини "сүэ. хаі кадамба хэчүми
 баібаі-нуу," вэндиини. "кадантї хэчүми баібаі-нуу," вэнди,
 "бүэ һїі," вэндиини, "баланаа тїі јэдү тїі балдаіпу,"
 вэндиини. кадан бајан, тїі һүи, сусу маманї эдэкээни,
 тїісал, тїі мапа тїі-да-каа~, даајї мапа бичин-гүн,
 наа, наа эјэни. "гээ хоонї таісі, һэнэисү~,," вэнди,
 "кадамбаан. биі сүмбэ чупал газүі вэндиини.
 "хагдумбі анзүісі-даа горозї анзүі-даа кэвэ~
 хагдумбі гэлэісі осїні. һїі малхуу," вэндиини
 наанї манзүи-даа тїс малхуу һїі-даа тїс, наанї тїс малхуу.
 гээ аја-гүни, гээ гээ тїхаламачїхаа~л, урчунунчї,
 гээ тїі мапа вэндиини, духа обдајї, мээн доола духа
 ообдајї, агаа нэкү-мээчи ообдајї, бөјөмбэ ваарїітї мафава.
 мафава ваарїітї тутараа тїі тававанї іваандїітї,
 сїүндиити, *искра*, тїі таматаа *искра*. луча вэнди *искра*,
 мүн вэнди сїүн. гээ тава іваанчїі,
 гээ тїізї тава іваандаа, "гээ эи тава, син тавасї,
 эи тава ум тава осїні, ага нэкү-мээчи опуву. тїі опуву,"
 вэндиини, "духа опуву." гээ аја-гун.
 гээ тїі тїхаламачїхаа~л, һэнэхээ~л, үжө хагдумбаан,
 эи моо чупал һїі баргаха~н, чупал элээ һїі анзүіні,
 наа хагдунї, дааї хагдунї, амбаан даајї хагдунї.
 тїіду биэси-кээ сичүвэ анзүха, *сушилка*,
 тїі хаалї-гдала хаі биэси-кээ, тїі, тїі дааї даамтї хагдунї
 бичин тїду. тїі хагдунї тїі тээл анзүхан.
 гээ, хагдумбі худахан, чупал худахан, гээ *охотиңдамї* һэнэити.
 зүа. эи тээ тїі һэнэи осїні бөјөн биини-гүни.
 ну, гээ мївтїчїхан хаїхан элээ ваахан газүхан.
 гээ газүханзї тїі хаїрїі тїі дэңсиі,
 һїіва чупал сааванчїн, тїі дэңсиі, үлээн тїі дэңсїхэ~ти,

гээ эси сиүн, эси сиүңгүји тава іваандіті, тутараа,
 "эи тава, син тавасі-даа миңги~, мин тавајі-даа сиңги,
 тii осіні," вэндиини. "агаа нэкүү-мээчи осуву, духа.
 тii опуву тii балдуву," вэндиини.
 "сугдатані-даа тiс түүми, хэвээн тiс дааі хэвээн, када хэвээн,
 када хэвээн, хаматаані-даа сугдата чупал бии,
 хаматаані-даа нупулта чупал бии. гээ тii једү балдуву осіні
 ларгii~,," вэндиини, "үлээн, үлээнзи балдуву," вэндиини.
 гээ, гээ тii тiхаламачіхаа~л, тii биси~. хасу аһан-нуу,
 надан аһан-нуу һүңгүн аһан-нуу бичини. боло-нуу түвэ-нүү.
 түвэ билэ, түвэ билэ~, боло, болозүй-тэ билэ.
 амбаан каалчаані, *тигр.* гээ тii, мин аагbi
 эсивэндэ бичин тii, эсивэндэ бүчин-гүни,
 тii, тii мин аагbi, ум зіази уручунумаарі тii солоі нэнэхэти,
 тээ дүвэ, хаіті, һii гасанти, һимэрхэти. тараа хамасі зізүми,
 тii хагдумбаані ијичэхэни, тii мин даамbi хагдунтiні.
как раз тii *күхнја* доолані этэвүхэн, тii амба.
 үчэ иириизини гэсэ, *вот*
 тii һiiва бултii тирэхэни, бултii тирэхэни.
 гээ, тii пактурлі, тii моо хаі биини-гүни,
 тува жапаічамі хаіриідуні хоп һаалалані гапакалахані.
 гээ тii таматанзи, хаіхані, тува этэхэ~н, этэвүхэ~н
 хаі жапаха~н, тii тува этэвүри луча саарасі,
Хабаровск-а һii этэвүндэвэни дивүхэ таматаамба. тii һii такту,
 үчэн таіла бичи, оңбозілан тii хагдун бичи,
 тува саарасіні. іңдава чупал манамі, ваахан, тii долбоні.
 үинэкүү, ілаа үинэкү-нүү бичи чупал ваахані.
 гээ тараа тii һii сааха~н, ілаан мухалзи мiвтiламi
 хавліі вааха~л. тутараа эвэси дичи, *звонил, Маринскабаані.*
 "гээ ваахапу, тува һаанзуксу."
 баланаа *почта гонят,* *почта* мурiндуні, тiла уувузураа
Хабаровскабаані газуіні, тii амбаамба. тутараа тii,
 тii бимээри-дээ тii, биити-гүни хаі, мээн адулі анзүй~,
 мэнэ дагдалі анзүй~, сiлчимба тiс ваарii дава тiс ваарii
 өөрө тiс ваарii сугдата тiс ваарii, азiмба тiс ваарii
 коңдо тiс ваарii, коңдо тiс ваарii
 азiмба тiс ваарii тii бүксэвэни манзү *магазиндуні* худасii.
 хаматані-даа элпүүвэ чупал гадii. хотон, манзүу хотонзiні
 дидиини маіма, хэјэндиини,

тii хаандаiнi, хаici-ма тiла худасii, нанта ходасii,
 нyi сээпэ нантанi, сули нантанi, хамил нантава чупал худасуву.
 гээ тiiзи бажанчити, сээрэ нyi хаматаа
 чупал гадii, хаматаани-даа бусу чупал гадii, зэпүү-дээ
 тiс тii гадii. гээ тii балдахатi.
 тii балдамаари-дээ тii балдамаари тii, манжу тiс бучин,
 малхуу, тii нааду, эи каданду. ум инэжэ тунжа јунгун ньээриини.
 нyi корпиини хүмүми, нyi-дээ корпиини-даа кэвэ,
 тiiту тавасi эвэси наа тахан тii хүмүхэ. тiс бучин.
 гээ тii бичи, тii бимээри-дээ
 мээн зiасилни-даа тii бүдиити-гүн, мапасал, ньүүчикээн гүрсэл,
 тiiсал-даа умуту тii бүдии, хасуа хасуа мапа очуханi.
 мин даамаңгүјi-даа *дешатай года умер*,
 мимби үјичүхэн мапа. гээ, хоонi, эси балдуву,
 хоон таici, эси-дээ балдуву, тii балдумi,
 тii сугдатази-мал балдуву~. сугдатази үлээнзи ваапи үлээнзи балдуву,
 эси, бэичүкү-дээ кэвэ очуха~н, хаi-даа кэвэни.
 сээпэ-дээ кэвэ~ хаi-даа кэвэ, очуханi. сугдатази-мал
 тii балдаi. бүэ ваарii-гүни бөјөн хаiва-даа ваарii сiру,
ето тii хаiва тii, тува ваариiti-гүни.
 тоова ваарii, бөјөвэ ваарii, гээ тii тiiзи, таматанзи-мал
 наати үлээнзи балдахатi. гээ јэлэ бичимби, бүэ мүн
 эси пүэ... Зэргэзэхэпү, бүэ даајi гүрсэл-дээ нyi-дээ
 нyi-дээ кэвэ очуха~н, мапасал-даа нyi-дээ нyi-дээ кэвэ очуха~н,
 эи аминi~, эи аминi нэүни~, мүндү бичини
 коңоңосо вэмбүвү. нyi, бэтэкэ мапа~, *иван мапа~*,
апаi мапа~, очуханi. элээ мапа *нет больше*
 мин мин даамби~ очуханi. гээ, мин амимби~-даа.
 гээ, мин эгээнгүјi, гилэм асiзујi жапаха~н.
 умундума эигэвэји даајi эјгэвэји, хаiбаанi, кадакамбаанi жапаха~н.
 нyiвэ, пүлэ энини. умундума, пундајi,
 даајi эгэнгүјi-дээ хаic умуту колчоомбаанi жапаха~н.
 тii, ньээдигэ мапа мамава-ла тii гаазухатi гилэм,
 тэрэмбээни гаазухатi. *белоглинка*, тiiду бичити, *это пластин*.
 гүчи биини. гүчи бии отiiтакан алдачii, бии
 хэнгүндү, зүэ уму аһанду бичимби, мээн эмби
 агаңгудунi бичинмби. мимби, ньүүчкэ бичимби, элээ
 даајинахан *роста такая*, мимби, хэнгүн дэрэмбээни,
 мимби олбiнчi заiзи. тii нэнэхэпү.

токон авунџахапу-нуу, наму умуту тii, тii хэнгүн хэвээни,
наму-муучи биини. мүүни соо~хуна бии. сиүн какраз тіла түкүини.
тii мимби жоолочуми наава баава чупал
тiki жоолочуми мимби орпичихан. гээ таванчи тii
хамар џиџумээри, тii солідума хэнгүнти эвүџүхэ~н,
тiiдү, тii апиџумаари, бичин, таванчи гүчи,
хаiбаани тэрэмбээни давуха~н. тэрэмбээни давуханџи
белоглинкати мэнэ эигэти давухан, тiiдү ум биадү бичи~,
таванчи тii џиџүхэнџи марта биадүни я, эвүси
џиџүхэм. *тринадцатом году, сколько я ходил,*
бии, мин пүлчимби мин пүлсихэмби. *Дуван Михайл Сименович*
ходил. везде я ходил, хаiki-даа хүм чупал пүлсихэмби.
тутапи~-даа бүэ илаан нii, мүн аагби~,
мин амангүji, бии, бии элээ күсүңчү очiji. эи, эи намуки,
жоосоңдомi нэнэхэн, гiокса вааңдамi,
илаа нii-каа нэнэхэн. илаан, илаji, илаан иңда, бүэ илаан нiiни.
тii нэнэхэпү, эи, эи дуванки вээлүми нэнэхэпү.
эи дуванкини. гээ тiiдү жоосохони, угда тiс малхуу нii,
моңголчоо, маајинчаа, авуринчаа, эи бұлаванчаа,
эгди угда тiдү, малхуу. түнџани гiолii,
јүңгүн гiолii-даа. бүэ џүэньикээн бүэ џүэ гiолii.
хаi јэбэ. ум инэни џуамба ваарii, паандун, үлээн осipi,
түнџа јүңгүмбэ ваарii, тутараа таванчи, чупал џиџүи-гүни, эси,
тааба, тіла хааңгаџухан. тіла хааңгаџираа
таванчи тii вээлүџүми, киџи хэвээмбээни тіла вээлүџүрээ,
тii эвүси џиџүхэн. эи мин, мин тээлүңгүјэ эи.
мин, мин бичини тээлүңгү. гээ бии тii балдахамби, јэлэ биини,
эи бүэ тii гiокса үлсэни, хаинi, чупал *интегралла* бүүхэпү.
нантаванi-даа тээл тамани маңга бии үлээн бичини-гүни.
тии бүүхэпү. аја. үлээн, миочисii-даа ларгин бичини.
хоонi-даа таву чупал миочисими-даа аја.
гээ тii балдахамби. мин балдаханџiji јэлэ бисимби јэлэ
мээмби-лэ чупал саарii, мээндү бичин чупал саарii,
оркин бичим-дээ кэвэ, нiiџи сорумачими-даа кэвэ,
јэлэ тii балдаi, мин нэүji эи, бүэ умуту гүрсэл.
гээ таванчи бүэ эси тii бисинџи эи наати, пүлсаџи,
бисинџи, эи наати нүлиџүхэ~н, *37го года,* јэлэ нүлиџихэпү.
тутараа јэдү тii балдаiпу. эси тii балдаiпу.
бүэ џүлэси дичипү. бүэ гэсэ хагдумбарi тiдү,

тiду эси биини гусiканаа гэсэ хагдунi. гээ элэ-гүни, бөјөмбө-дээ
баахамби~, хаiва-даа хүм чупал манахамби биин-дээдэ мэјэ-дээ.
гээ, бүэ јэлэ, эини тээлүнгүвэ биин мээн
тээлүнгүји камурзи опованчи, зүэлзи сагди тээлүнгүни
нээринзип тiјазин дичимбэни тува тээлүнгүичэхэ~н.
эјэлэ биин.

ツングース言語文化論集

既 刊

- 『ソロン語基本例文集』 朝 克、津曲敏郎、風間伸次郎 編
文部省科学研究費補助金（国際学術研究：63041002）研究成果報告書
北海道大学文学部、1991年3月
- 『ツングース言語文化論集 1』 黒田信一郎、津曲敏郎 編
文部省科学研究費補助金（国際学術研究：63041002）研究成果報告書
北海道大学文学部、1991年12月
- 『ナーナイの民族遊戯』（ツングース言語文化論集 2）
ボンサ K. キレ著／佐々木史郎、匹田剛、津曲敏郎 編訳
小樽商科大学言語センター、1993年3月
- 『朝克著「エウンキ語基礎語彙集」索引』（ツングース言語文化論集 3）
津曲敏郎 編、小樽商科大学言語センター、1993年6月
- 『ナーナイ語テキスト』（ツングース言語文化論集 4）
風間伸次郎 採録・訳注、小樽商科大学言語センター、1993年7月
- 『ナーナイの民話と伝説』（ツングース言語文化論集 5）
風間伸次郎 採録・訳注、小樽商科大学言語センター、1995年2月
- 『鄂温克語三方言対照基礎語彙集』（ツングース言語文化論集 6）
朝 克 採録・著、津曲敏郎 編、小樽商科大学言語センター、1995年3月
- 『オロチ語基礎資料』（ツングース言語文化論集 7）
風間伸次郎 採録・訳注、鳥取大学教育学部、1996年3月
- 『ナーナイの民話と伝説2』（ツングース言語文化論集 8）
風間伸次郎 採録・訳注、鳥取大学教育学部、1996年3月
- 『ウルチャロ承文芸原文集1』（ツングース言語文化論集 9）
風間伸次郎 採録・訳注、鳥取大学教育学部、1996年3月
- 『ナーナイの民話と伝説3』（ツングース言語文化論集 10）
風間伸次郎 採録・訳注、東京外国語大学、1997年3月
- 『中国ツングース諸語対照基礎語彙集』（ツングース言語文化論集 11）
朝克 採録・著 津曲敏郎 補訂・編、小樽商科大学言語センター 1997年8月
- 『ナーナイの民話と伝説4』（ツングース言語文化論集 12）
風間伸次郎 採録・訳注、千葉大学、1998年3月
- 『Эвенские народные песни 〈エウエンの歌〉』（ツングース言語文化論集 13）
Bokova, E. P. 著・Z. I. Babceva 露訳・A. B. Dorzheev 英訳・風間伸次郎編、2000年4月
- 『ナーナイの民話と伝説5』（ツングース言語文化論集 14）
風間伸次郎 採録・訳注、東京外国語大学、2000年4月
- 『ナーナイの民話と伝説6』（ツングース言語文化論集 15）CD 8 枚付
風間伸次郎 採録・訳注、ELPR、2001年3月
- 『増訂 ウイルタ口頭文芸原文集』（ツングース言語文化論集 16）CD 1 枚付
池上二郎 採録・訳注、ELPR、2002年
- 『ウデへ語自伝テキスト』（ツングース言語文化論集 17）CD 1 枚付
アレクサンドル・カンチュェガ著／津曲敏郎編訳、ELPR、2002年
- 『ナーナイの民話と伝説7』（ツングース言語文化論集 18）
風間伸次郎 採録・訳注、ELPR、2002年
- 『ネギダール語 テキストと文法概説』（ツングース言語文化論集 19）
風間伸次郎 採録・訳注、ELPR、2002年

PUBLICATIONS ON TUNGUS LANGUAGES AND CULTURES
- A list of published books -

Solon Basic Sentences compiled by D. O. Chaoke, Toshiro TSUMAGARI, and Shinjiro KAZAMA, Faculty of Letters Hokkaido University, 1991. *Papers on Tungus Languages and Cultures* edited by Shin-ichiro KURODA and Toshiro TSUMAGARI, Faculty of Letters Hokkaido University, 1991.

Traditional Folk Play of Nanay (Publications on Tungus Languages and Cultures 2). Pongsa K. KILE/ edited with a Japanese translation by Shiro Sasaki, Go Hikita, and Toshiro TSUMAGARI, Center for Language Studies Otaru University of Commerce, 1993.

A Solon (Ewenke) Index to the Classified Vocabulary by D. O. Chaoke: with English Equivalents (Publications on Tungus Languages and Cultures 3). compiled by Toshiro TSUMAGARI, Center for Language Studies Otaru Univ. of Commerce, 1993.

Nanay Texts (Publications on Tungus Languages and Cultures 4). translated and annotated by Shinjiro KAZAMA, Center for Language Studies Otaru Univ. of Commerce, 1993.

Nanay Folk Tales and Legends (Publications on Tungus Languages and Cultures 5). translated and annotated by Shinjiro KAZAMA, Center for Language Studies Otaru Univ. of Commerce, 1995.

A Basic Vocabulary of Three Ewenki (Ewenke) Dialects (Publications on Tungus Languages and Cultures 6). collected and transcribed by D. O. CHAOKE, compiled by Toshiro TSUMAGARI, Center for Language Studies Otaru Univ. of Commerce, 1995.

Orochi Linguistic Materials (Publications on Tungus Languages and Cultures 7). translated and annotated by Shinjiro KAZAMA, Faculty of Education Tottori University, 1996.

Nanay Folk Tales and Legends 2 (Publications on Tungus Languages and Cultures 8). translated and annotated by Shinjiro KAZAMA, Faculty of Education Tottori University, 1996.

Ulcha Oral Literature 1 - A Collection of Texts (Publications on Tungus Languages and Cultures 9). translated and annotated by Shinjiro KAZAMA, Faculty of Education Tottori University, 1996.

Nanay Folk Tales and Legends 3 (Publications on Tungus Languages and Cultures 10). translated and annotated by Shinjiro KAZAMA, Tokyo University of foreign Studies, 1997.

A Basic Vocabulary of the Tungusic Languages in China (Publications on Tungus Languages and Cultures 11). collected and transcribed by D. O. CHAOKE, compiled by Toshiro TSUMAGARI, Center for Language Studies Otaru Univ. of Commerce, 1997.

Nanay Folk Tales and Legends 4 (Publications on Tungus Languages and Cultures 12). translated and annotated by Shinjiro KAZAMA, Chiba University, 1998.

Ewen Folk Songs (Publications on Tungus Languages and Cultures 13). E. N. Bokova/ translated in Russian by Z. I. Babtseva, translated in English by A. V. DORZHEEV, compiled by S. KAZAMA, Tokyo University of Foreign Studies, 2000.

Nanay Folk Tales and Legends 5 (Publications on Tungus Languages and Cultures 14). translated and annotated by Shinjiro KAZAMA, Tokyo University of Foreign Studies, 2000.

Nanay Folk Tales and Legends 6 (Publications on Tungus Languages and Cultures 14). With 8 CDs, translated and annotated by Shinjiro KAZAMA, ELPR, 2001.

Ulta Oral Literature - A Collection of Texts Revised and Enlarged Edition (Publications on Tungus Languages and Cultures 16). With a CD, translated and annotated by Jiro IKEGAMI, ELPR, 2002.

An Udehe Autobiographical Text: with a Russian Translation (Publications on Tungus Languages and Cultures 17). With a CD, Aleksandr KANCHUGA/ edited with a Japanese translation by Toshiro TSUMAGARI, ELPR, 2002.

Nanay Folk Tales and Legends 7 (Publications on Tungus Languages and Cultures 18). translated and annotated by Shinjiro KAZAMA, ELPR, 2002.

Negidal Texts and Grammar (Publications on Tungus Languages and Cultures 19). translated and annotated by Shinjiro KAZAMA, ELPR, 2002.

ウルチャ口承文芸原文集 2 (ツングース言語文化論集 20)
(「環太平洋の言語」成果報告書A2-022)

Ulcha Oral Literature 2 A Collection of Texts
(Publications on Tungus Languages and Cultures 20)
(ELPR Publications Series A2-022)

発行日 平成14年10月31日
刊行責任者 大阪学院大学情報学部
文部科学省科学研究費補助金「特定領域研究『環太平洋の
「消滅に瀕した言語」にかんする緊急調査研究』」
領域代表 宮岡伯人
総括班代表 崎山 理・遠藤 史 (編集担当)
〒564-8511 吹田市岸部南2丁目36-1
TEL: 06-6381-8434 (代表) (内線5058)
編集 風間伸次郎 (東京外国語大学)
印刷 中西印刷株式会社
〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入
TEL: 075-441-3155 (代表)

Published: October, 2002
Project Director: MIYAOKA, Osahito
Editorial Board: SAKIYAMA, Osamu, and ENDO, Fubito (Assistant)
Grant-in-Aid for Scientific Research on Priority Areas
Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology
Endangered Languages of the Pacific Rim
Faculty of Informatics, Osaka Gakuin University,
2-36-1 Kishibe Minami, Suita, Osaka 564-8511, JAPAN
TEL: +81-6-6381-8434 (extension: 5058)
E-mail: elpr@utc.osaka-gu.ac.jp
Editor: KAZAMA, Shinjiro (Tokyo University of Foreign Studies)
Printed by Nakanishi Printing Co., Ltd.
Shimotachiuri Ogawa Higashi, Kamikyoku, Kyoto 602-8048
TEL: +81-75-441-3155

ISSN 1346-082X

Copyright is held by the author.